

ハ是レ擬律ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ抵觸シタル裁判タリ夫レ斯ノ如キ理  
由アルヲ以テ豈啻ニ事實上ノ舛錯アル而已ナラス亦法律上違背ノ點々不跡候條何卒原裁  
判所ヲ破毀セラル更ニ至明至公ノ御裁判奉仰願候也

辨明

上告人福田重郎三於テ赤木千之治ニ對シ告訴シタルハ分島辰志ノ總理代人タル資格ヲ以  
テ爲シタルモノナレハ告訴ヨリ生スル責任ヲ負フヘキ理由ナキ旨申立ツルト雖モ辰志ノ口  
供ヲ審閱スルニ該告訴ハ果シ辰志ノ意ニ出テタリト認ムヘキ處アラサルノミナラス假令  
委任ヲ受ケタルモノトスルモ荷モ法律ニ觸ルハノ事件ナレハ受任者ハ則共犯人ニシテ固  
リ其罪ヲ免ルハノ理由ナシトス又上告人ノ發意ヲ以テ原田馬市ヲ同意セシメタル事實及  
ヒ誣告罪ニ對シ刑ヲ科スルニ惡意ニ出テタルト不實ナルトノ証憑等ヲ明示セサルハ治罪  
法第三百四條ニ違背シタル旨渡書ナリト申立ツルモ其發意ナルト否トシテ定ムル如キハ專  
ラ承審官ノ心証判斷即事實裁判ニ屬シ本院ノ關與スヘキ事柄ニアラス且裁判官渡書ニ事  
實及ヒ証憑等ノ明示ヲ欠ク所アルモノトスルモ明治十四年第八十二號布告ヲ以テ明治十  
四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハ  
ラヌ云々處分スヘシト定メラレタル以上ハ之ヲ以テ裁判法ニ違フトナスヲ得サルナリ又  
私印偽造ノ罪ハ之ヲ偽造スルモ未ダ使用セサル限りハ其罪ヲ成立セサル云々申立ツルモ  
原田馬市ニ該印ヲ偽成セシメ馬市所持ノ印鑑扣簿ニ押捺シ其印影ヲ摸寫シ告訴狀ニ附シ  
警察官ニ提出シタルハ是レ之レヲ使用シタル証跡明白ト云ハヌ何ソヤ故ニ前數個ノ申

立ハ總テ原裁判ノ破毀ヲ求ムル原由トナスヲ得サルモノトス然ルニ原裁判所カ新舊ノ法  
ヲ比照シ輕キ舊法即偽造官印律餘ノ印ハ徒一年トアルニ依リ其罪ヲ定メ懲役ノ刑ヲ科セ  
スノ却テ舊法ニ刑名ナキ禁錮一年ニ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ヲ免レサルモ單ニ刑名ヲ異  
ニスルニ止リ同シ定役アル体刑ニシテ刑期ニ差異ナキヲ以テ破毀ノ限リニ在ラヌトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月八日岡山輕罪裁判所ニ於テ福田重郎三ニ言渡シタル裁  
判ハ破毀ノ限リニアラス

第七百八十四號

○判文(詐欺取財ノ件) 明治十五年三月廿四日上告  
明治十五年六月十三日判決

岡山縣備前國磐梨郡下村平  
民

原 田 馬 市

明治十五年三月  
二十六年五月

右原田馬市ニ對シ明治十五年三月八日岡山輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタル  
其方義福田重郎三ノ發意ニ同シ赤木千之治ヨリ買受タル地所ハ永世所有ニ歸シタル者ニ  
テ賣戻シノ返証書ハ千之治ニ於テ之レヲ偽造セシモノナリト誣告シ兵長役場及ヒ私印ヲ  
偽造シ以テ之ヲ証シ財ヲ得ント謀リタル所爲ハ刑法第三百五十五條第二百廿二條第二百  
六條第九十五條第二百八條第二百十二條第四百四條第百條ニ照シ所斷スヘキ處所犯明治



十五年一月一日以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ之レテ舊法ニ照スニ詐爲官文書律偽  
 造官印律偽造私印律詐欺取財律共犯罪分首從律二罪俱發以重論律ニ該リ明治十四年第八  
 十一號布告新舊比照ノ法ニ依リ舊法ニ從ヒ三月十日ノ重禁錮ニ處スル者ナリ  
 原田馬市於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月十四日附テ以テ本院ニ上告ノ旨懸左  
 ノ如ク

抑モ本案事實上ニ就テハ大ニ原裁判官ノ錯誤アル處アリト雖モ是等ハ概テ上告スルノ理  
 由トナスニ足ラサルヲ以テ姑ク之ヲ措キ先ツ上告スルノ點ヲ摘發シ左ノ二種トナス  
 一 擬律ノ錯誤アルコト  
 一 越權ノ處分アルコト

第一擬律ノ錯誤アルコト  
 抑モ赤木千之治ノ願書ニ據リ分島久吉ノ實印ヲ彫刻シタルノ所爲ヲ以テ私印ヲ偽造シタ  
 ルノ罪トナシ刑法第二百八條ニ擬シ數罪俱發ノ一ニ置カレタルト雖モ是等ノ所爲ヲ以テ  
 刑法第二百八條ニ擬セラル可キ者ニ非ラス抑モ刑法第二百八條ニハ他人ノ私印ヲ偽造シ  
 テ使用シタルモノハ云々トアリ故ニ本條ノ罪ヲ成立スルハ偽造ト使用トノ二元因ナカラ  
 サルヲ得ヌ苟モ此二元因ニシテ其一ヲ欠クハ假令他人ノ私印ヲ偽造スルコトアルモ之ヲ  
 他ニ使用セサルハ尚ホ本條ノ刑ヲ科ス可カラヌ又他人ノ私印ヲ使用シタルコトアルモ之ヲ  
 偽造シタルニ非ラサルハ亦以テ本條ノ刑ヲ加フ可カラヌ偽造ト使用トノ二元因相具ハ  
 リテ而シテ該ニ始メテ私印ヲ偽造シタル罪ト稱ス可キナリ又給メテ本條ノ刑ヲ科スヘキ

者ナリ然ルニ分島久吉ノ實印ヲ調製シタルハ唯々赤木千之治  
 之治ト自稱ナル者ノ依頼ニ任セ戶長與書附ノ願書ヲ証トナシ之ヲ彫刻シタルニ止マリ  
 之ヲ印鑑帳即チ扣帳簿ニ押印セシメニシテ更ニ他ニ使用シタルコトナシ果シテ然ラハ假  
 惡意ニテ分島久吉ノ實印偽造シタルモノト假定スルモ之ヲ他ニ使用セサル限りハ決シテ  
 私印ヲ偽造シタル罪トナシ第二百八條ニ據テ處斷セラル可キ者ニ非ラス是レ擬律ノ錯誤  
 ナルヲ免レサル所ナリ

第二 越權ノ處分アルコト  
 本案分島伊吉ノ實印ヲ彫刻シタルハ專ラ赤木千之治ノ願書アリ利ヘ戶長ノ與書アルヲ信  
 用シテ現ニ依頼シ來リタルモノハ赤木千之治ニシテ眞ニ實印ヲ紛失シタルモノト信シテ  
 之レヲ實印ヲ彫刻セシモノナリ故ニ該書面ニ押捺セシ戶長役場印ハ最モ本案ニ必要ナル  
 証據物件ニシテ若シヤ該書面ニ押捺セシ戶長役場印ニシテ眞正ノ者ヲラシムルトキハ本  
 案被告ノ分島久吉ノ實印ヲ彫刻シタルモ至ク正意ニ出テ赤木千之治又ハ其他ノ人ノ爲メ  
 ニ詐欺セラレタルヤモ又未ダ謀リ知ル可カラス況シヤ該役場印ヲ偽造シタルノ疑モ自ラ  
 氷解スルニ至ラン依テ原裁判所ノ訊問中  
 〔明治十五年一月一日以前ノ所爲ナレ〕  
 〔豫審公判ノ手續モ未ダ判然セス〕  
 再三被告  
 ヲリ該役場印ヲ鑑定セラレシコトヲ請求シタルトモ原裁判官ハ被告ノ請求ヲ棄却シ原裁判  
 官一個ノ妄斷ヲ以テ擅ニ被告ヲ以テ分島久吉ノ實印并戶長印ヲモ共々偽造シタルモノト  
 判定セラレタルハ是レ原裁判官ノ越權ノ所分ニ非スニテ何ッヤ  
 右二項ノ理由アルヲ以テ上告仕候也



辨明

上巻人原田馬市於テ分島久吉ノ實印ヲ偽造シタルモノトスルモ自分所持ノ印鑑扣簿ニ押捺シタルマテコテ米タ之レヲ使用シタルノナキニ原裁判所カ刑法第二百八條ニ據シタルハ擬律ノ錯誤ナリト申立ツルト雖モ其押捺セル印影ヲ模寫シ之ヲ福田重郎三ニ與ヘ赤木千之治ニ對スル証告ノ用ニ供セシメタルハ則之ヲ使用シタルノ証跡ト云ハサルヲ得ズ又赤木千之治カ持來リタリト稱スル實印彫刻願書ノ末ニ押捺セル戸長役場印ノ鑑定ヲ乞フタルニ原裁判官カ之ヲ棄却シタルハ越權ノ所分ナリト云フト雖モ原裁判官ニ對シ其請求ヲ爲シタル証憑ナキノミナラス被告人ノ請求ヲ取捨スルハ固ヨリ裁判官ノ權内ニ屬スルモノナレハ假令之ヲ棄却スルモ越權ノ處分ニアラス故ニ前二個ノ申立ハ原裁判ノ破毀ヲ求ムル原由トナスヲ得サルナリ然ルニ原裁判所カ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ數罪ノ内一ノ重キ偽造官印律餘ノ印ハ徒一年トアルニ依リ從タルヲ以テ一等ヲ減シ其罪ヲ定メ懲役ノ刑ヲ科セスノ却テ舊法ニ刑名ナキ禁錮百日ニ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナルモ獨リ刑名ヲ異ニスルニ止リ同シ定役アル体刑ニ刑期ニ差異ナキヲ以テ破毀ノ限リニ在ラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月八日岡山輕罪裁判所ニ於テ原田馬市ニ言渡シタル裁判ハ破毀ノ限リニアラス  
第七百八十五號

○判文(詐欺取財ノ件) [明治十五年四月八日上巻  
明治十五年六月十三日判決]

高知縣土佐國土佐郡久禮野  
村平民

大石 才次

明治十五年三月  
三十六年一ヶ月

山本 兼太郎

大石 才次

植田 秀次郎

和田 見吉

大石 寅作

右才次外四名ニ明治十五年三月八日高知輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方共ニ對シ當裁判所檢事補村田穂ヨリ公訴スル詐欺取財事件迄審理處兼太郎才次秀次郎ニ於テハ見吉寅作等ト謀リ吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシメアラヌ兼太郎カ買主才次カ仲人秀次郎カ賣買証書認人ニシテ明治十四年十二月三十日魚ノ棚飲食店ニ於テ右三名ト賣主市之丞ト四名賣買示談整ヒ証書認ントスル際市之丞カ戶外ニ藥キ置キ右賣馬ヲ何人カ盜ミシト云フヲ以テ共ニ相尋テタルコト正實ニ賣買ヲナスヘキ念慮ニ出ルニ相違ナキ旨申立ルト雖モ和田見吉大石寅作ノ申供ニ其前夜即チ明治十四年十二月廿九日見吉方ニ兼太郎才次秀次郎等集會シタル節吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシメテ謀リ其手段ハ先ツ才次



ト仲人ト兼太郎ヲ買主ト定メ明治十四年十二月卅日市之丞ヲ該馬ヲ高知市街ニ擧出  
 ヲサセ可然飲食店ニ於テ直紐ヲナシ賣買証書ヲ認メントスル際秀次郎カ通り掛レハ呼込  
 秀次郎ヲシテ認メサセントスル中寅作カ其馬ヲ窃カニ北ノ方ヘ率キ行ケハ兒吉カ市外ニ  
 待受ケ之ヲ受ケ取ルコト通謀シタルヲ以テ其手筈ニ運タル旨申立テ之ヲ被害者市之丞ノ  
 告訴ニ照スニ兒吉寅作申供ニ符合スルヲ以テ見ルノモナラニ廿九日ノ夜ハ兼太郎才次秀  
 次郎モ兒吉方ニ集合シタルニ相違ナキ旨申立ルヲ以テ推測スルモ兒吉寅作カ申供ノ如ク  
 五名通謀シテ市之丞ノ馬ヲ詐取セシ者ト認定ス然ルニ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑  
 法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新律綱領詐取財律竊盜ニ準シテ論シ賍金  
 四十圓以上才次ハ懲役百日外四名ハ從タルヲ以テ共犯罪分首從律ニ照シ各ニ等ニ減シ懲  
 役九十日ノ處寅作ハ犯ス時十五年未滿ナルヲ以テ老小癡疾收贖例ニ照シ收贖金二圓二十  
 五錢ニ該リ又刑法第三百九十條ニ依レハ寅作ヲ除クノ外二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該  
 レハ舊法ノ刑新法主刑ノ刑期内ニ在テ才次ハ二月以上百日以下兼太郎外二名ハ二月以上  
 九十日以下ノ重禁錮ニ該ルヲ以テ才次外三名ハ新法ニ從ヒ各重禁錮三月ニ處シ寅作ハ比  
 照例第七條第二項ニ依リ舊法ニ從ヒ收贖金貳圓貳拾五錢ニ處スルモノ也

但シ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第六條第十條ニ照シ附加ノ罰金及ヒ監視  
 ナ附セヌ

才次ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如ク  
 第一條

高知輕罪裁判所カ上告人ヲ罰スルニ明治十四年十二月廿九日和田兒吉方ヘ往キシテ大眼  
 目トセリ之レ不法ノ最モ甚シト不謂テ得テ抑モ上告人カ和田兒吉方ヘ往キシ所以ハ豫テ  
 高知輕罪裁判所豫審係リ審庭ニ於テ陳述セシ如ク從來惡意ノ間柄コト日々立入チスルノ  
 所ナレハ全日モ例ノ如ク往キテリシニ兒吉カ自分ヘ當時山本兼太郎ナル者菖蒲村吉田市  
 之丞ノ飼養セシ馬ヲ懇望コトヲ買得スル合ニテ立越アルヲ以テ何分中媒方依頼ストノコト  
 ヲリ然ラハ明日何分ノ取扱及フト返答セシニ皆夜直チニ罷越シ吳レ度ト強談セラル、ヨ  
 リ不得止菖蒲村ニ立越シ市之丞ヘ面談ヲ乞則右買得ノ義談判セシニ市之丞ニ於テ翌日則  
 明治十四年十二月三十日當高知町ニ於テ賣買契約可致トノ返答故然ラハ必ス違變ナキ權  
 致吳レ度ト盟約シ而シ其席ヲ別立セリ抑モ當高知市街ニ於テ賣買ノ契約ヲ結フト決約セ  
 シハ吉田市之丞ニ於テ會テ他人ノ依頼ヲ受ケ當高知市街ヘ猪脚運搬スル故其馬ノ容狀ヲ  
 見テ然ル后ヲ賣買ノ談判スルトノコト起因スルナリ如此理由ニシテ決テ兒吉方ヘ集會セ  
 シ等ノコトニアラスシテ全ク平素惡意ナルヨリ何心ナク立入シヨ馬賣買ノ中媒ヲ依頼セラ  
 レシヲ以テ右ノ如ク取扱チナシタリ然ハ本件裁判狀ニ登錄セシ如ク明治十四年十二月廿  
 九日兒吉方ニ集會シ市之丞ノ馬ヲ詐取セシコト謀リ云々ハ事情ニ反對セシ不法推測ノ裁  
 判ト謂ハサルヲ得セルナリ

第三條

大石寅作和田兒吉等ノ申供ヲ證據トシテ上告人ヲ詐取財ノ刑ニ處セシハ抑モ如何ノ理  
 由ナレヤ故ノ大石寅作等ニアツテハ平素詐欺ヲ以テ業トナシ今日ヲ送ルモノナリ然ラハ



彼等ノ申供ヲ誠實トスル不能ハ是レ理ノ當ニ然ラシムル所以ナリ且ツ又吉田市之丞ノ申供ニ於ケル彼レハ被害者ノ地位タルハ之レカ損害ヲ求ムルコトモ見吉實作等ニアツテ無資力ノモノタルハ償還スルノ見込ナキヨリ自分ヲシテ犯罪者トハ主張セシナリ然ラハ是レヲ以テ証トスルコトハ不足ナリ抑モ他人ノ陳述ヲ以テ罪ヲ斷スル不能ハ定理ニ依テ明カナリトス如何トナレハ爰ニ甲乙ノ往來人アリ甲ハ巡廻ノ巡査ニ對シ乙ハ盜賊ナリト官ハソ然ラハ其巡査ハ直チニ乙者ヲ責問スヘシ乙者答テ謂フ次テ賊ニハアラスト然ハ甲乙ノ陳述符合セサレハ何ヲ以テ乙者ヲ盜賊ナリトシテ罰スルカ其甲ノ陳述而已ヲ以テ罰スルハ不能ナリ若シ罰スルニ於テハ地球上ニ罪人ト不成ノ人物ハアラス如何トナレハ少ク異議ヲ含モ必然相手人ヲ罪人ナリト告ケ之レカ刑罰ヲ加ヘ其際限ナキニ於テチヤ如此理由ナル故他人ノ申供ヲ以テ罪ヲ斷スル不能ハ昭々乎トシテ明カナリ然チ高知輕罪裁判所ハ之レ等ノコトヨ願着セヌ實作等ノ陳述ヲ以テ突然詐欺取財ノ宣告ヲナセシハ不法ノ裁判ト不謂ヲ得ス

第三條

上告人カ詐欺セサルノ證據ハ明治十四年十二月三十日魚ノ棚飯食店ニ於テ酒宴中市之丞於テ色ヲ變シ陳述スルニ繫テ置キシ馬アラスト其席ニ居合シ者一同驚愕シ種々詮議ヲ遂ケシニ至シ大石實作和田兒吉等ノ所爲ナリト略明瞭致セシヨリ上告人ニ於テ追跡セシニ土佐郡小高阪村ノ内西ノ谷ト申稱スル所コト追付シ否チヤ該馬引戻シ之レチ事主則市之丞ヘ引渡シタリ如此理由ニシテ上告人ニ於テ決テ詐欺取財ノ念慮ハ無之ナリ若シ之レマ

ルニ於テハ何ソ追跡シテ馬ヲ引戻シ事主ヘ渡スノ理由ナラシヤ依之是レチ觀レハ上告人カ詐欺セサルハ明ラカナリ

第四條

以上陳述スル理由ニシテ上告人ニ於テ決テ罪トナルヘキ所爲無之ニ付該裁判ノ破段アラソコチチ方々希望スル所以ナリ

辨明

上告事件ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ被告大石才次等カ所爲ニ對シ詐欺取財ノ罪アル者ト判決シタルハ其犯者和田兒吉大石虎作カ兒吉方ニテ山本兼太郎大石才次植田秀次郎等ト吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシコト謀リ其手段ハ先ツ才次チ仲人トシ兼太郎チ買主ト定メ云々トノ申供及ヒ被害者市之丞カ山本兼太郎大石手次自分所持ノ牡馬賣度申出テ自分ニ於テ明三十日蒲野村ニテ約定可致云々翌三十日該村ヘ出張右才次ノ仲裁ヲ以テ該馬チ價四拾圓ト定メ云々馬賣買ノ証書等相認メ中盜賊ニ盜取ラレタリトノ告訴狀又才次カ十一月二十九日兼太郎秀次郎ト兒吉方ニ集會シタリトノ口供等チ參照シ其事實ヲ推測シタル者ニシテ其認定セシ理由不當トスヘキ點アルコトナシ故ニ原裁判所ニ於テ新舊ノ法チ比照シ重罰禁三月ト言渡シタルハ相當ノ裁判ニシテ才次カ市之丞ニ對シ犯罪ノ所爲ナキ者ノ如ク陳述スルモ皆ニ口頭ノ陳供ニシテ一モ確信スヘキ証憑アルコトアラサレハ上告旨趣ヲ以テ原裁判ヲ破毀スヘキ原由ト爲スヲ得ス

判決



右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月八日高知縣罪裁判所ニ於テ大石才次ニ旨渡シタル裁判  
ヲ破毀スルキ理由ナキニ因リ止告狀却下スル者也

第七百八十六號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年四月八日上告  
明治十五年六月十三日判決

高知縣土佐國高岡郡日下村

士族

植田 秀次郎

明治十五年三月  
廿五年三月

右秀次郎外四名ニ明治十五年三月八日高知縣罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ旨渡シタリ

山本 兼太郎

大石 才次郎

植田 秀次郎

和田 見吉

大石 寅作

其方共ニ對シ書裁判所檢事補村田穂ヨリ公訴スル詐欺取財事件遂審理處兼太郎才次秀次  
郎ニ於テハ見吉寅作等ト謀リ吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシニアラス兼太郎才次カ仲  
次秀次郎カ賣買証書認入ニシテ明治十四年十二月三十日魚ノ棚飲食店ニ於テ右三名ト賣  
臣市之丞ト四名賣買示談並ニ証書認シトスル際市之丞カ戶外ニ繫キ置キ右賣馬ヲ何人

カ盜ニシテ以テ共ニ相尋ナタルコト正實ニ賣買ヲナスニキ念慮ニ出ルニ相違ナ  
キ旨申立ルト雖玉和由見吉大石寅作ノ申供ニ其前夜即チ明治十四年十二月廿九日見吉方  
ニ兼太郎才次秀次郎等集會シタル節吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシコト謀リ其手段ハ先ツ才  
次ト仲入トシ兼太郎才次買主ト定メ明治十四年十二月卅日市之丞ヲシテ該馬ヲ高知市街ニ  
牽出タサセ可然飲食店ニ於テ直組ヲナシ賣買証書ヲ認メントスル際秀次郎カ通リ掛レハ  
呼込秀次郎ヲ認メテ申シタル中寅作カ其馬ヲ竊カニ北ノ方ニ牽キ行クハ見吉カ市  
外ニ待受テ之ヲ受テ取ルコト通謀シタルヲ以テ其手筈ニ連ヒタル旨申立テ之ヲ被害者市  
之丞ノ告訴ニ照スル見吉寅作申供ニ符合スルヲ以テ見ルニヨリテ是ニ於テ廿九日ノ夜ハ兼太郎  
才次秀次郎モ見吉方ニ集合シタルニ相違ナキ旨申立ルヲ以テ推測スルモ見吉寅作カ申供  
ノ如ク五名通謀シテ市之丞ノ馬ヲ詐取セシモノト認定ス然ルニ所犯新法實施以前ニ在ル  
ヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新律綱領詐欺取財律竊盜ニ準シテ  
論シ贓金四十圓以上才次ハ懲役百日外四名ハ從タルヲ以テ共犯罪分者從律ニ照シ各一等  
ノ減シ懲役九十日ノ處寅作ハ犯ス時十五年未滿ナルヲ以テ老少癡疾收贖例ニ照シ收贖金  
三圓二十五錢ニ該リ又刑法第三百九十條ニ依レハ寅作ヲ除ク外二月以上四年以下ノ重  
禁錮ニ該レハ舊法ニ刑罰法主刑ノ刑期內ニ在テ才次ハ二月以上百日以下兼太郎外二名ハ  
二月以上九十日以下ノ重禁錮ヲ該ルヲ以テ才次外三名ニ新法ニ從ヒ各重禁錮三月ニ處シ  
寅作ハ比照例第七條第二項ニ依リ舊法ニ從ヒ收贖金貳圓貳拾五錢ニ處スルモノ也  
但チ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第六條第十條ニ照シ附加ノ罰金及ヒ監視



ヲ附セス

秀次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月十四日本院ニ上告ノ要旨左ノ如ク

第一條

抑モ明治十四年十二月廿九日和田兒吉方ニ至リシ所以ハ兒吉ノ招待ニ依テナリ其兒吉カ招待ノ趣意タル角力興行アルアリテ見物ノ爲メ立越サレタシ迎態々ノ招待アリシヲ以テ自分ハ之レカ見物ノ爲メ立越シタリ如斯故決シテ詐僞センカ爲メ兒吉方ヘ集會セシムアラサルナリ然ルニ高知輕罪裁判所ハ自分カ兒吉方ニ至リシヲ以テ必ス詐僞者ノ一部人ナリト推測シテ以テ裁判ヲ下メセシハ豈ニ冤枉ノ極ト言ハサルヲ得ンヤ

第二條

高知輕罪裁判所ニ於テ自分ヲ罰スルニ和田兒吉大石寅作吉田市之丞ノ申供ヲ徵証トセシハ抑モ如何ノ理由ナルヤ彼兒吉寅作等ニ於ケル爾來詐欺ヲ業トシ以テ今日ヲ消スルナリ然ラハ彼等ノ申供ヲ以テ之カ証據トスルヲ不得ハ定理ニ依テ判然タリ且又吉田市之丞ノ申供ニ於ケル彼レハ被害者ノ地位タレハ后日民事原告人トナリテ本訴ノ要償ヲ求ムルノ目的ナレハ兒吉寅作等而已チ罪人ナリト唱稱スルニ於テハ彼レ等要償スルノ資力ナキヲ以テ其自分カ明治十四年十二月三十日魚ノ棚飲食店ニ於テ吉田市之丞山本兼太郎ノ依頼ニ依リ馬賣買ノ証文ヲ認メシチ奇貨トシ之レカ同類ナリトハ稱セシナリ抑モ自分カ該馬ヲ詐取セサル証憑ヲ擧ケンニ明治十四年十二月三十日魚ノ棚通行ノ際側飲食店ヨリ自分ヲ呼ブ者アリ即チ市之丞兼太郎兒吉才次寅作ナル故如何ノ所用ナルヤヲ尋問セシニ當時

馬賣買ノ契約ヲ結ヘリ依テ証書ノ取替シヲナサント欲ス然ル處君自分ヲ通行ナリ依テ之レカ代筆ヲ乞フカ爲ニ呼留メタリ願ハクハ之レヲ許容セヨト市之丞兼太郎ノ兩名依頼

スルヨリ之レカ代筆ヲナセシナリ而シテ兼太郎ニ於テ金五圓融通致シ吳レ間敷哉ト相談アルヨリ其際持合セナキ故周旋シテ來ラント立出ラントスル際事主市之丞ニ於テモ馬見分ノ爲メ立出ントスル際ニテ双方共ニ立出シニ豈ニ圖ラン弊キ置シ馬何者ノ所業ナル哉牽キ行キテアラサルト市之丞ノ發言ヨリ其場ニ居合ノ者一同驚愕シ處々穿鑿中大石才次ナル者該馬ヲ牽キ來リタリ故ニ何者ノ所業ナルヤヲ尋問セシニ兒吉及兼太郎寅作ノ詐爲ナリト始メテ明瞭致シタリ如斯ナル故自分カ其詐爲ノ情況ヲ不知シトハ鏡ニ掛ケテ視スルカ如シ然リ然ルニ高知輕罪裁判所カ兼太郎兒吉寅作市之丞等ノ申供ヲ証憑トシ之レカ裁判ヲ下メセシハ不當ノ最モ甚クシキ者ナリ

第三條

右第一條乃至第二條ノ理由ナルチ高知輕罪裁判所ハ兒吉外數名ノ申供ヲ誠實ニ自分ノ申供ヲ蔑視シ晴天白日ノ自分ヲ詐欺犯罪者ナリト認定シ重禁錮三月ニ處セシハ不當ノ裁判ニアラスシテ何ソヤ

第四條

高知輕罪裁判所カ自分ヲ處スルニ當ニ他人ノ口供ヲ以テセリ之レ不當ト不謂ヲ得ス抑モ他人ノ陳述ハ其確証トスルヲ不得モノナリ如何トナレハ其人々考慮ニヨツテ少シク私意ヲ挾ムニ於テハ必然其人ヲ誹謗スルハ之レ人情ノ常ナリトス然ラハ其人ノ陳述ヲ以テ眞



ナリト確定セシムルを得サルハ理論ノ當ニ然ラシムル所以ナリ尙ホニ証ヲ擧ケシニ假令  
 六甲乙ノ往來人アリ甲人巡行ノ巡査ニ謂ツテ曰乙ハ盜賊ナリ相當所置アレト謂ハシニ其  
 ノ巡査ニ於テ之レカ乙人ヲ取糾セシニ乙答ヘテ謂ニ決シテ不然自分ハ晴天白日ナリト甲  
 乙ノ言語符合セズ然ルニ乙チシテ盜賊ナリト宣告チナス之レ不能ノ至リナリトス其不  
 能ノ一ハ三尺ノ童子モ之レヲ不知ノモノナキナリ然ラハ其他人ノ言語ヲ以テ証憑トスル  
 不足ハ昭々トシテ明ラカナリ依テ高知輕罪裁判所カ他人ノ陳述ヲ徵憑トシテ裁判セシ  
 ハ不當ノ至大ト不謂ヲ不得故ニ該裁判所カ本件ノ裁判ヲ施行スルナレハ刑法第二條ニ依  
 テ証憑不充分ノ裁判ヲ爲スヘキヲ其之レヲナサ、リシハ豈ニ冤枉ノ極ト言ハサルヲ得ン  
 ヤ加之自分カ犯罪者ニアラサルハ既ニ高知輕罪裁判所豫審係リニ於テ陳述セシニ於テチ  
 ヤ

第五條

以上陳述ノ通り自分ニ於テ決シテ罪トナルヘキ所爲無之ニ付公明正大ノ御處裁アラシ  
 方々希冀スル所以ナリ

辨明

上告事件ヲ審案スルニ原裁判所ニ於テ被告植田秀次郎等カ所爲ニ對シ詐欺取財ノ罪アル  
 者ト判決シタルハ共犯者和田兒吉大石虎作カ兒吉方ニ山本兼太郎大石才次植田秀次郎  
 等ト吉田市之丞ノ馬ヲ詐取セシト謀リ其手段ハ先ツ才次ノ仲人トシ兼太郎ヲ買主ト定  
 ヲ云々トノ申供及ヒ被害者市之丞カ山本兼太郎大石才次自分所持馬買與度申出テ自分

ニ於テ明州日新野村ニテ約定可致云々聖丹日該村ニ出張右才次ノ仲裁ヲ以テ該馬ヲ價四  
 拾圓ト定メ云々馬買買ノ証書等相認シ中盜賊ニ盜取ラレタリトノ告訴狀又秀次郎カ十二  
 月二十九日兼太郎才次ト兒吉方ニ集會シタリトノ口供等ヲ參照シ其事實ヲ推測シタル者  
 ニシテ其認定セシ理由不當トスヘキ点アルトナシ故ニ原裁判所ニ於テ新舊ノ法ヲ比照シ  
 重禁錮三月ト言渡シタルハ相當ノ裁判ニシテ秀次郎カ市之丞ニ對シ犯罪ノ所爲チキ者ノ  
 、如シ陳陳スルモ當ニ口頭ノ陳供ニシテモ確信スヘキ証憑アルニアラサレハ上告旨趣  
 ナリテ原裁判ヲ破毀スヘキ理由ト爲ヌヲ得ヌ

判決

右ノ如シナルヲ以テ明治十五年三月八日高知輕罪裁判所ニ於テ植田秀次郎ニ言渡シタル裁  
 判ヲ破毀スヘキ理由チキニ因リ上告狀却下スル者也

第七百八十七號

○判文(罪人拒捕ノ件) 明治十五年四月七日上告  
 明治十五年六月十四日判決

懲役十年囚徒

無 籍 榮 吉

明治十五年三月 三十二年

明治十五年三月十日福島輕罪裁判所ニ於テ右榮吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

無 籍 榮 吉

其方儀義キニ強盜ノ科ニ依リ懲役終身ノ處刑ヲ受テ退テ火災防禦ノ功勞ヲ以テ本罪ニ



等ヲ減セラレ懲役十年服役中明治十四年十月廿四日監獄署工藝用ノ出又庖丁壹個ヲ竊盜  
 シテ外役先ヨリ逃走シ福島縣岩代國安積郡高越村ニ於テ追捕ヲ受ケ仍ホ通レントシ看守  
 齋藤直温ヘ抗拒シ傷負ハセタル罪ハ所犯刑法實施以前ニ在ルヲ以テ舊法ニ罪俱發以重論  
 條ニ依リ一ノ重キ闘毆傷菜力ヲ用ヒ傷輕キ者ヲ以テ論シ懲役七十日又罪人拒捕條ニ照シ  
 本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役九十日トス因テ改定律例第三百一條ニ基キ棒鎖二日ノ上更ニ懲役  
 十年九十日ニ處スヘキモノナレハ刑法第三條ノ後項ニ從ヒ新舊ノ法ヲ比照スレハ刑法ニ  
 在テハ第百條數罪俱發例ニ依リ其所犯情狀最モ重キ第百三十九條官吏其職務ヲ以テ云々  
 其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ  
 附加ストアリテ體刑ト體刑トヲ以テスレハ新法重ク舊法輕シ乃チ其輕キ舊法ニ擬シ仍ホ  
 明治十四年第八十一號布告第十三條ニ從ヒ棒鎖二日ノ上懲役九十日申付ル  
 但原刑ハ如故

福島縣裁判所簡檢事補秋田政徳ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月十六日  
 附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

一 二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ闘毆傷菜刀ヲ用ヒ傷輕キモノヲ以テ論シ懲役七十  
 日云々

被告カ福島監獄署備付品出又庖丁ヲ竊取シタルハ常人盜贓壹圓以下懲役六十日初犯強盜  
 ニシテ再犯常人盜ナルヲ以テ再犯加等罪例第二項及六年第六十七號公布ニ依リ一等ヲ加  
 フル時ハ懲役七十日ニ該リ闘毆罪ハ重キコアラヌニ罪各等シキ者ト思料ス

二 罪人拒捕條ニ照シ本罪ニ二等ヲ加ヘ懲役九十日云々

罪人拒捕條ニ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ルトアリ被告ノ本罪ハ舊法ニ在テハ  
 棒鎖二日ノ上新ニ懲役十年加役七十日ニ該リ流三等以上ナルヲ以テ加等ノ限コアラザ  
 ルモノト思料ス

三 刑法ニ在テハ第百條數罪俱發例ニ依リ其處犯情狀最モ重キ第百三十九條官吏其職務  
 ヲ以テ云々其官吏ニ抗拒シタルモノハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾  
 圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリテ體刑ト體刑トヲ以テスレハ新法重ク舊法輕シ乃チ其輕  
 舊法ニ擬シ仍ホ明治十四年第八十一號公布第十三條ニ從ヒ棒鎖二日ノ上懲役九十日申  
 付ル但原刑如故

前項已ニ陳述スル如ク被告ノ本罪舊法ニ在テハ棒鎖二日ノ上新ニ懲役十年加役七十日ト  
 ス之ヲ刑法第百三十九條四月以上四年以下ノ重禁錮ニ比照スルトキハ舊法重ク新法輕キ  
 ヲハ論テ俟タサルナリ然リト雖モ若シ新法ニ從ヒ重禁錮長期四年ト爲シ之ニ原刑役限殘  
 期七年六月十二年十月前犯宣告十五十五年三月後犯處斷ト通算スルハ前後ノ刑期合セテ十一年六月トナリ舊  
 法ヨリ重キ一一年三月二十日ナルヲ以テ十四年第八十一號公布第二條ニ準擬シ四月以上  
 三年六月十日以下ノ重禁錮ニ處スルヲ至當ト思料ス

右ノ通ニ付被告ノ犯罪ハ新法ニ從ヒ處斷スヘキモノナリト信認ス因テ上告手續第二十九  
 條及十四年第八十二號公布ニ依リ別紙一件書類ヲ添上告候也

辨明



上告事件ヲ審按スルニ被告榮吉カ監獄署ノ出及庵丁ヲ竊取シ外役先ヨリ逃走シ且拒捕シタル罪ハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上三年以下ノ監視ニ附ス又刑法第三百三十九條官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ照シ仍ホ同第三百四十條及第三百一一條末項及ヒ刑法第百條末項ニ照シ犯情ノ重キ同第三百三十九條ニ依リ處斷ス可キモノナリ而テ所犯新法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ舊法ヲ照スル改定律例第三百一一條凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦例ニ照シテ棒鎖三日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役ス云々同第四十三條ニ凡懲役五年以上ノ囚重テテ五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ云々百日以下ノ罪ヲ犯ス者モ亦日數ニ照シ加役ス賊盜律常人盜條凡常人者ノ財物ヲ盜ミ云々竊盜ニ一等ヲ加フトアルニ依リ贓金壹圓以下懲役六十日仍ホ名例律再犯加等罪例ニ照シ二等ヲ加ヘ又捕亡律罪人拒捕條凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者若本罪上ニ三等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ルトアルニ照シ棒鎖三日ノ上新ニ拘役十年加役九十日ニ該ル犯罪ナルヲ以テ明治十年十一月四日ヨリ明治十四年十月廿三日迄已ニ役過スル日數三年三百二十四日加役九十日ヲ併シ三年四十九日ヲ刑法第三百三十九條ノ刑期ト比較スレハ刑法ノ輕キヲ以テ明治十四年第八十二號布告第二條第六條第十條ニ依リ單ニ四月以上三年四十九日以下ノ重禁錮ニ處斷スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ裁判茲ニ出テサ

リハ不當ノ處斷ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月十日福島輕罪裁判所ニ於テ榮吉ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如ク

榮吉

刑法第三百三十九條ニ依リ

重禁錮二年

但刑法第九十五條ニ依リ露キニ宣告ヲ受ケタル懲役十年滿期ノ後之ヲ執行ス竊取シタル庵丁ハ還還ス

第七百八十八號

○判文(賭博ノ件) 明治十五年二月二日上告  
明治十五年六月十五日判決

島根縣出雲國楯郷郡園村平  
民當時同縣同國島根郡殿町  
寄留

坂本 勝助

明治十四年十二月  
四十二年二月

同縣同國島根郡末次町平民

江角 儀助

二〇九



二二〇  
明治十四年十二月  
四十六年六月  
同縣同國大原郡神原村平民

内田嘉次郎  
明治十四年十二月  
三十七年四月  
同縣同國島根郡内中原町平民

石富松次郎  
明治十四年十二月  
二十六年九月  
同縣同國意宇郡堅町平民

會田佐平  
明治十四年十二月  
四十八年九月  
同縣同國意宇郡堅町平民

右勝助外四名ニ對シ明治十四年十二月二十六日同廿八日松江裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シ  
シナシタリ

阪本勝助

江角儀助  
内田嘉次郎

其方儀江角儀助等ト申合セ金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲サント骨牌ヲ分配シ已ニ行ハントシタル  
罪雜犯律違式ノ重キニ問ヒ懲役二十日ノ贖罪金壹圓五拾錢申付ル

石富松次郎  
會田佐平

其方儀阪本勝助等ト申合セ金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲サント骨牌ヲ分配シ已ニ行ハントシタル  
罪雜犯律違式ノ重キニ問ヒ懲役二十日ノ贖罪金壹圓五十錢申付ル

松江裁判所詰檢事高野孟矩ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月二十八日付  
ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年十二月八日午後七時前記ノ者共島根郡元材木町三國清重居室二階ニ於テ賭博  
セルノ景況ヲ巡查カ探偵シ彌其勝負最中ナルヲ知了シ同僚數名ヲ呼集メ俄然犯所ニ臨  
ミ坐中ニ吳座ヲ引キ骨子及ヒコメ札賭場ニ於テ現金ヲ並ヘ數名着座ノ現場ニ於テ捕獲  
ノ際狡徒等其骨子コメ札ヲ擱取シ点燈ヲ吹キ消シ其暗ニ乘リテ遁走ヲ計ルモ幸ヒ出張巡  
査數名アリタルヲ以テ其内三名ヲ取押ヘタリ然ルニ工ミニ辭ヲ構ヘ將ニ博奕セントスル  
際捕縛相成リタル云々ヲ以テ其罪ヲ免レントス抑巡查ヨリ徴シタルニ次ノ景況書ニモ明  
記セシ如ク其最中二階ナルヲ以テ肉眼ナルヲ知リ且ツ同僚ヲ呼集ムル等多少ノ時間ヲ  
費サ、ルヲ得ス然ルニ本犯等ハ着席ノ程ナキモノ、如シ陳述スルハ其遁辭タル第一証ナ  
リ巡查カ臨場ノ際銘々着席ノ上コメ札ヲ取リ骨子ヲ並ヘコメ札ハ即チ金同儕ニシテ其  
金ヲ受取り是ト引替アルヲ認メタルハ第二証ナリ巡查カ臨場ノ際手早ク場中ノ点燈ヲ  
吹キ消暗ニ乘リテ博器ヲ擱取シ其現時ノ証狀ヲ消滅セシメントシタル第三証ナリ已ニ捕  
獲サレタル儘遁走セントシ及ヒ雪隠等ニ潜伏スル等ノ狀第四証ナリ其証狀如斯ナルヲ以



ヲ雜犯律賭博條ヲ適用スル犯罪ト認釋シ及公訴候處松江裁判所ニ於テハ違式ノ重キニ因  
ヒ贖罪金壹圓五拾錢宛ニ斷了シタルハ不法ノ裁判ト認メ及上告候也

辨明

上告ノ旨趣ハ巡查某カ阪本勝助外四名賭博現行中ナルヲ探知シ同僚數名へ通報シ然ル  
後賭場へ踏込取押且被告入共カ目前ニコマ札ヲ並へ置タルヲ及ヒ博器ヲ取隠シタルヲ並  
ニ現場逃走セシ等ノ事實アルヲ以テ賭博已遂ノ者ナリト云フニアレトモ現ニ行ヒタル証  
憑ノ觀ル可キ者ナキニ因リ雜犯律違式重キニ問擬シタルハ不當ト云フヲ得サル者トス

判決

右ノ如シナルヲ以テ明治十四年十二月二十六日同二十八日松江裁判所ニ於テ阪本勝助外四  
名へ申渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナシトス

第七百八十九號

○判文(強盜ノ件) 明治十五年二月二十日上告  
明治十五年六月十五日判決

群馬縣上野國西群馬郡元島  
村平民農業

眞下喜十郎

明治十五年一月  
四十六年八月

同縣同國同郡中島村平民農  
業

木暮要吉

明治十五年一月  
三十七年八月

同縣同國同郡島野村平民農  
業

北田仙太郎

明治十五年一月  
三十三年四月

眞下喜十郎

明治十五年一月十六日千葉經罪裁判所ニ於テ右喜十郎外二名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
被告眞下喜十郎カ公訴セラレタル強盜及ヒ人ヲ刃傷シ因テ死ニ致シタル事件審問ヲ遂ル  
處

一 被告人眞下喜十郎ニ於テ強盜ノ事ハ之ヲ自認ス

一 犯罪ノ用ニ供シタル刀

一 盜贓物拾圓紙幣其他數品

一 被害人幸保長兵衛吉清新次郎關啓助ノ陳述

一 証人北根綱太郎北根幸次郎ノ陳述被告人眞下喜十郎ニ於テ菰田喜兵衛カ刃傷ヲ被リタ  
ル其場所へ棄去タル刀ニ夥シク血液附着アリ且刃ニ數個ノ欠損アリ

一 千葉縣警察署官吏ノ檢視調書

一 醫ノ診斷書



一 被告八真下喜十郎カ大多喜警察署ニ於テ摺印ヲナシタル口供  
 右ニ依ルニ被告真下喜十郎ハ真下源作木暮要吉北田仙太郎ト語合各兇器ヲ帶携シテ明治十四年五月十九日以來上總國夷隅郡高山田村幸保長兵衛方外貳ヶ所ニ方テ強盜ヲ爲シ已ニ盜所ニ離レテ后テ上總國夷隅郡覆澤村字澤田往還ニ於テ上總國夷隅郡若山村菰田喜兵衛ヲ追捕ノ人ト推知シテ真下源作木暮要吉ト俱々刃傷ヲ負ハセ因テ死ニ致シタル者ト確認ス但其致命ノ傷ハ被告人ノ内誰カ負ハシメタルヤ之ヲ分明ナラシムル証憑ヲ得ス仍テ之ヲ法律ニ照スニ事犯新法施行前ニアルヲ以テ刑法第三條ノ第二項ニ依リ新舊法ヲ比較シ其輕キ刑法第二百九十九條第三百二條第三百三條第三百五條第三百七十八條第三百七十九條第三百七十九條強盜ノ罪トナシ輕懲役ニ處ス第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ一二人以上共ニ犯シタル時ニ兇器ヲ帶携シ犯シタル者及第四十三條左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒収ス但法律規則ニ於テ別ニ沒収ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ一法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件三犯罪ニ因テ得タル物件第四十八條裁判費用贖物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコト得若シ贓物犯人ノ手ニアル者ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス明治十四年第八十一號公布第九條舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ例ニ處スルルキハ新法ノ附加刑ヲ適用セズ但除族追奪位記沒収ノ類ハ舊法ニ從フ明治六年第三十三號公布ノ但書ニ賍及ヒ犯時帶携セル兇器ニ係レハ華士族ト雖モ之ヲ沒

収ストアルコト照シ被告真下喜十郎ノ有期徒刑十五年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル刀ヲ沒収シ贓物ハ被害人ノ請求ナキニ依リ只其田中「ツル」ニ預ケアル分ノミテ被害人ヘ追還シ其他ノ附加刑ハ之ヲ適用セズ

木 暮 要 吉

被告木暮要吉カ公訴セラレタル強盜及ヒ人ヲ刃傷シテ死ニ致シタル事件審問ヲ遂クル處

- 一 被告木暮要吉ニ於テ強盜ノ事ハ之ヲ自認ス
- 一 犯罪ノ用ニ供シタル刀
- 一 盜贓物蝙蝠傘其他數品
- 一 被害人吉清新次郎關啓助ノ陳述
- 一 証人北根綱太郎北根幸次郎ノ陳述
- 一 被告人木暮要吉カ右足ノ負傷及ヒ當時帶携セシ刀ニ骨摺レ且刃ニ欠損アリ
- 一 千葉縣警察官更ノ檢視調書
- 一 醫ノ診斷書

一 被告人木暮要吉カ大多喜警察署ニ於テ真下喜十郎ノ口供ニ對シテノ陳述  
 右ニ依ルニ被告木暮要吉ハ真下喜十郎真下源作北田仙太郎ト語合各兇器ヲ帶携シテ明治十四年六月十六日上總國夷隅郡若山村吉清新次郎宅上總國夷隅郡長者町關啓助宅於テ強盜ヲ爲シ已ニ盜所ニ離レテ后テ上總國夷隅郡覆澤村字澤田往還ニ於テ上總國夷隅郡若山村菰田喜兵衛ヲ追捕ノ人ト推知シテ真下喜十郎真下源作ト俱々刃傷ヲ負ハセ因テ死ニ致シタ



ル者ト確認ス但其致命ノ傷ハ被告人ノ内誰カ負ハセタルヤ之ヲ分明ナラシムルノ証憑ヲ得ス仍テ之ヲ法律ニ照ラスニ事犯新法施行以前ニアルヲ以テ刑法第三條ノ第二項ニ依リ新舊法ヲ比較シ其輕キ刑法第二百九十九條第三百二條第三百三條第三百五條第三百七十八條第三百七十九條第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第三百七十八條人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪トナシ輕懲役ニ處ス第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ一二人以上共ニ犯シタルキニ兇器ヲ携帯シテ犯シタルキ及ヒ第四十三條左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從テ一法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ犯罪ニ因テ得タル物件明治十四年第八十一號公布第九條舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スルキハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從テ明治六年第三十三號公布ノ但書ニ載及ヒ犯時携帯セル兇器ニ係レハ華士族ト雖モ之レヲ沒入ストアルニ照シ被告木暮要吉ヲ有期徒刑十五年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル刀ヲ沒收シ其他ノ附加刑ハ之ヲ適用セス

北田 仙太郎

被告人北田仙太郎カ強盜及ヒ官ノ追捕ノ拒キ因テ人ヲ創傷シタル公訴事件審問ヲ遂ル處

一被告人北田仙太郎ニ於テ強盜ノ事ハ之ヲ自認ス

一犯罪ノ用ニ供シタル刀

一盜贓物編蝠傘其他數品

一被害人吉清新次郎關啓助ノ陳述

一千葉縣巡查杉山敬道ノ証告書及ヒ捕獲ノ際ノ手續書

一千葉縣巡查石井利通等ノ檢分書

一醫ノ診斷書

一被害八田中庄吉ノ具狀

一被告人北田仙太郎カ警察官ノ面前ニ於テノ陳述

右ニ依ルニ被告人北田仙太郎ハ眞下喜十郎眞下源作木暮要吉ト語合各兇器ヲ携帯シ明治十四年六月十六日上總國夷隅郡若山村吉清新次郎宅上總國夷隅郡長者町關啓助宅へ押入強盜ヲ爲シ且官ノ追捕ヲ拒キ大多喜警察署雇田中庄吉へ傷負ハセタル者ト確認ス仍テ之ヲ法律ニ照スニ事犯新法施行前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比較シ其輕キ刑法第三百七十八條第三百七十九條第百三十九條第三百一一條第三項第三百三條第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第三百七十八條人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加テ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪トナシ輕懲役ニ處ス第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ一二人以上共ニ犯シタルキニ兇器ヲ携帯シテ犯シタルキ及ヒ第四十三條左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從テ一法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ犯罪ニ因テ得タル物件明治十四年第八十一號公布第九條舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スルキハ新法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從テ明治六年



第三十三號公布ノ但書ニ註及ヒ犯時携帶セル兇器ニ係レハ華士族ト雖モ之ヲ沒取ストアルニ照シ被告北田仙太郎ヲ有期徒刑十五年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル刀ヲ沒収シ其他ノ附加刑ハ之ヲ適用セズ

千葉縣裁判所檢事稻垣五郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年一月二十三日司法卿ヲ經由シ明治十五年二月七日本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

被告人眞下喜十郎木暮要吉ノ二人ニ於テ北田喜兵衛ヲ刃傷シタルハ眞下源作等ノ所爲ニ出テタルモノ、如シ千葉縣裁判所ニ於テ五ニ其口供ヲ翻異セルモ如何セシ明治十四年六月二十四日千葉縣大多喜警察署ニ於テ自白セル調書中ニ「又跡ヨリ來候ニ付彌追手ノ者ト存シ用心シテ歩行中其節地名不知同郡櫻澤村字澤田ト申ス處田圃迄來リシ處右男獲ヨリ野郎共待テト聲掛候ニ付振舞候處抜刀ニテ面部へ切付ケラレ候ニ付蝙蝠傘ヲ以テ受候得共少シ眉間へ疵受候ニ付直チニ抜刀スルヤ否源作要吉モ抜刀シテ自分三人ニテ矢鱈ニ切付候處相倒候ニ付尙三人ニテ切付候處絶命シタル様子ニ付云々」又々要吉ニ於テモ「喜十郎申立候通ニ付茲ニ拇印致候也」ト俱ニ喜兵衛ニ刃傷シ終ニ死ニ致シタルコトハ右状書及其末項ニ於テ之ヲ自認セリ因之觀之喜十郎要吉仙太郎及亡源作ノ四人ニテ行兇即チ強盜シタルト問斷ナシ追捕人北田喜兵衛ヲ喜十郎要吉源作ノ三人ニテ亂擊死ニ致シタルハ明確ナリ之ヲ証明スルニハ明治十四年六月十六日巡查杉山教道カ証告書及手續書及檢分書ニ被害者カ負傷ノ點多キ尋常一八一己ノ尋問ニテ爲シ得ヘキニ非サレハ容易ニ推

知セラルヘシ果シテ然レハ之カ所爲ヲ新舊法律ニ比照スレハ舊法即チ改定律例第三百二十七條中改正條款ニ其兇器ヲ持スル者ハ云々殺スモノハ皆斬トアリ新法即チ刑法第三百八十條ニ強盜人ヲ傷シタル者無期徒刑ニ處シ死ニ致シタルモノハ死刑ニ處ストアリ然テハ刑法第三條第二項ニ照依スヘキニ千葉縣裁判所ニ於テハ別紙言渡書ノ如ク既ニ盜所ヲ離レ云々致命傷ハ被告人ノ内誰カ負ハセタルヤ之ヲ分明ナラシムルノ証憑ヲ得ズ連單ニ強盜罪ヲ以テ處斷シタルハ其事實ト摸樣ヲ推究セスシテ之カ判決ヲ降シタルモノト云ハサルヲ得ズ之ヲ要スルニ該犯ノ如キハ盜所ヲ放ル、ト否チ問ハス其事實ト摸樣ヲ明ニセサル可カラズ之ヲ明カニスルニハ先ツ其時間ノ間斷アルヤ否チ問ヒ而シテ之カ判斷ヲ爲ササル可ラス被害者喜兵衛ハ直チニ追跡シ而シテ終ニ死ニ至リタルモノナレハ何ソ現場ニ於テ行兇シタルト異ナラシヤ果シテ然レハ右裁判所ニ於テ判決シタル如ク尋常鬪毆殺傷ト強盜ノ所爲トチ區分スヘキニ非サルハ識者ヲ待タズシテ知ルヘキナリ

第二條

被告人北田仙太郎ハ北田喜兵衛ニ負傷セシメサルモ夷隅郡大上村ニ於テ探索係田中庄吉ニ負傷セシメタルハ明治十四年六月二十四日千葉縣大多喜警察署ニ於テ取調ヲ爲スル之ヲ自認シ并ニ巡查杉山教道及ヒ田中庄吉カ手續書ニテ明カナリ之レカ所爲ヲ舊新法律ニ比照セズ改定律例第三百二十七條改正條款及ヒ罪人拒捕律ニ依リ各懲役終身新刑法第三百八十條ニ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑トアリ之ヲ刑法第三條ニ依リ判決スヘキ者ト確證ス然ルニ千葉縣裁判所ニ於テ單ニ強盜罪ノミヲ以テ裁判シタルハ其當ヲ得サルモノ



トス  
但裁判官渡書中「已ニ盜所ヲ放レ云々致命傷云々」ノ理由ハ前條ニ辨明シタルヲ以テ畧  
ス

第三條

右ノ理由ナルヲ以テ及上告候也

辨明

刑法第三百八十條ニ強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス  
トアルハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取スルノ際人ヲ死傷ニ致シタル罪ニシテ既ニ盜所ヲ離レ  
テ追捕人ヲ殺死セシ罪ニ適用スヘキ者ニ非ス又刑法第二百九十九條ニ人ヲ毆打創傷シ因  
テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ストアルハ人ヲ殺スノ意ナシ毆打ノ際偶然死ニ致セシ罪  
ニシテ故意ヲ以テ人ヲ殺死セシ罪ニ適用スヘキ者ニ非サルナリ今被告人眞下喜十郎木暮  
要吉二人ハ強盜ヲ爲シタル後追捕人派田喜兵衛ヲ殺害セシ者ニシテ強盜人ヲ死ニ致シタ  
ルニ非ス又喜十郎ノ口供中源作要吉自分三人コテヤタラコ切付候處相倒レ候ニ付尙三人  
コテ切付候處絶命シタル様子コ付云々トアルニ依レハ追捕ノ急ナルニ因リ臨時殺意ヲ生  
シ遂ニ喜兵衛ヲ殺害セシ者ニ毆打創傷ニ因リ死ニ致シタルニ非ス故ニ二人ノ所爲ニ人  
以上兇器ヲ持シ強盜ヲ爲シ又其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ殺害シタル者ナレハ一ノ重キ刑法  
第二百九十六條ニ重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人  
ヲ殺害シタル者ハ死刑ニ處ストアルニ依リ處斷スヘキ者ニシテ原裁判所ニ於テ刑法第二

百九十九條以下ニ同擬シ及ヒ檢察官ニ於テ刑法第三百八十條ニ依ルヘキ者ト上告セシハ  
其ニ其當ヲ得サルナリ而シテ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ノ後項ニ依リ之ヲ  
舊法ニ照スニ罪人拒捕條ニ捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ絞殺ス者ハ斬從タル者ハ各一  
等ヲ減ストアルニ擬シ被告人等ハ共犯中既ニ死亡セシ眞下源作ヲ首謀ト稱スルニ據リ源  
作ノ從ト爲シ一等ヲ減シ懲役終身ニ處スヘキ者ニシテ新法ヨリ輕キニ因リ仍ホ舊法ニ從  
ヒ處斷スヘキ者タリ其北田仙太郎所爲ハ強盜ヲ爲シタル後捕ヲ拒キ田中庄吉ヲ創傷セシ  
者ニシテ強盜人ヲ傷スルヲ以テ論スヘキ者ニ非サレハ原裁判所ニ於テ一ノ重キニ從ヒ刑  
法第二百七十八條第二百七十九條ニ依リ處斷シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

前ニ辨明スル如シナルニ因リ明治十五年一月十六日千葉輕罪裁判所ニ於テ北田仙太郎ニ言  
渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス其眞下喜十郎木暮要吉ニ言渡シタル裁判ヲ平翻ス  
ル左ノ如シ

眞下喜十郎  
木暮要吉

罪人捕ヲ拒キ人ヲ殺ス者從タルヲ以テ一等ヲ減シ  
各懲役終身

但犯罪ノ用ニ供セシ刀ハ沒収シ田中「ツル」ニ預ケアル贓物ハ被害者ニ追還ス  
第七百九十號



○判文(竊盜ノ件) 明治十五年三月一日上告  
明治十五年六月十五日判決

神奈川縣相模國三浦郡小坪  
村出生平民當時無籍

福 本 權 八

明治十五年二月  
四十八年二月

明治十五年二月三日横濱輕罪裁判所ニ於テ右福本權八ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十四年十二月廿七日即今所在知レサル善吉ノ發意ニ從ヒ同人外二名ト俱々横濱中波止場ニ碇泊スル三葉蒸氣船中ヨリ荷綱二本ヲ盜取リ又ハ明治十四年十二月廿八日正午第十二時頃横濱花咲町七丁目八十二番地平民洗湯渡世石川文次郎宅裏物置入口ニ建掛アリタル古鐵十三本ヲ竊取スル賍金合セテ九拾六錢五厘右科刑法頒布以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ新律綱領賊盜律竊盜條ニ照シ賍金壹圓以下懲役五十日從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役四十日申付ル  
横濱輕罪裁判所檢事補平川潤亮ニ於テ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十五年二月九日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀左ノ如シ

明治十五年二月三日當裁判所ハ被告福本權八ノ犯罪事件ニ對シ言渡テ爲シテ曰ク刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ新律綱領賊盜律竊盜條ニ照シ賍金壹圓以下懲役五十日從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役四十日云々ト會テ其主賍ノ一ニ判及セス因テ試ニ律例第七十二條ヲ按スルニ凡ニ二次以上盜ヲ爲シ首從ノ賍ヲ併セテ罪一等ヲ減ス若シ併

セテ首從本罪ト仍等シキモノ更ニ減セストアリ然ハ則被告權八ノ罪ハ二罪俱發以重論條例第七十一條ニ依リ主從ノ賍ヲ併スルモ賍金壹圓以下ニシテ主賍ノ本罪ト仍等シキヲ以テ懲役五十日ヲ全科スルヲ當然ナリトス然ルニ該裁判此ニ出サルハ其何ノ故ヘナルヤ解スル不能ト雖モ蓋シ其意旨タル者從ノ賍ヲ合算スルモ仍壹圓以下ナレハ罪ニ等差ナキ者ト認メ斯ク觀斷ヲ爲シタルモノ、如キ然レモ未ダ律例中其法文アルヲ不見又斯ノ判決例アルヲ聞カス豈ニ此ノ如キ不權衡ノ律アラザヤ是レ該裁判ハ法意ニ準固セス又其理由ナキ不當ノ判決ト思料シ控訴上告手續第二十九條ニ照依シ敢テ上告破毀ヲ求ル所以ナリ

辨明

被告人福本權八ハ二次盜ヲ爲シ首從ノ賍併發スルモノニシテ首賍金六錢五厘從賍金九拾錢ノ犯罪者ナレハ舊法ニ在テハ改定律例第七十二條ニ凡ニ二次以上盜ヲ爲シ首從ノ賍並發スル者ハ首從ノ賍ヲ併セテ罪一等ヲ減ス若シ併セテ首賍ノ本罪ト仍ホ等シキ者ハ更ニ減セス云々トアルニ依リ首從ノ賍ヲ併スルモ賍金壹圓以下ニシテ首賍ノ本罪ト仍ホ等シキヲ以テ賊盜律竊盜條ニ依リ懲役五十日ニ處斷スヘキモノトス然ルヲ原裁判所カ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕キニ從ヒ賊盜律竊盜條ニ照シ賍金壹圓以下懲役五十日ニ問擬スルハ其當ヲ得タリト雖モ從犯トナシ一等ヲ減シ懲役四十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ因リ明治十五年二月三日横濱輕罪裁判所ニ於テ福本權八ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ



賊盜律竊盜條ニ依リ

懲役五十日

第七百九十一號

○判文(不應爲ノ件) 明治十五年三月十日上告  
明治十五年六月十五日判決

島根縣出雲國神門郡上鹽冶

村平民

杉原善市

明治十五年二月  
八十二年二月

右善市ニ對シ明治十五年二月廿三日松江輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡ヲナシタリ  
被告於テ明治七年ノ度開津「ヨシ」即チ石飛一ニ錢千貫文ノ質物ハ脇差貳本ナリト「ヨシ」  
シカ強ヒテ陳述スルニヨリ其後明治十三年十一月兼テ所持スル質取帖ニ一月廿八日錢千  
貫文本郷「ヨシ」ト記載アル但書ニ腰物三腰并ニ田地讓リ証一通トアルヲ張紙シ親勝平ヨ  
リノ讓リ証文一通并ニ世話人原屋平藏証書一通ト擅ニ詐爲シ尙質札ヲ其節相渡シ置カサ  
ルニ付之レテ渡シタル体ニ右張紙ノ上ニ割印ヲ爲ス等ノ罪新舊法ヲ比較シ輕キニ從ヒ改  
定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ノ輕キニ問ヒ懲役三十日ノ處即今年八十以上ナルニ  
ヨリ名例律犯罪時未老疾條及老少癡疾收贖條第二項ニ照シ其罪ヲ論セス  
但詐爲ノ証書ハ取揚ル

杉原善市ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月一日付テ以テ本院ニ差出シタル上  
審狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

一自分ニ於テハ第一號言渡書明文中但書腰ノモノ三腰并田地讓リ証一通并世話人原屋平  
藏証書一通等擅ニ詐爲シ尙質札ハ其渡シ置カサルニ付是テ渡シタル体ニ右張紙ノ上ニ割  
印ヲナシ等ノ罪云々トアル而已ナラス尙ホ詐爲ノ証書ハ取揚ル旨言渡サレタリ抑々原告  
ハ此ノ罰文ニ對シ不服ヲ唱フル所アラントス夫レ詐爲トハ何ヲ以テ論セラル、ヤ既ニ自  
分ハ被告ニ貸金シタルヲ獨リ自分カ申立ル而已ナラス引合人タル板倉平藏ノ証書アル  
アリ尙同人御調ノ際上申セシヲ以テ見ルモ明瞭タルヘシ又被告カ申立テ以テ見ルモ真正  
タルコト判然タリ然レ共其質物ニ取リシ物件ニ付原被告兩造ノ特約セシ証書ノアラサルニ由  
リ之レカ物議ノ根元トナリ被告ハ自擅ノ辯論スルニ至ルヘシ而シテ被告カ申立ル論由ニ  
一ノ証アルナシ原告ハ抵當ニ取リシト言フモ自分カ假令張紙ヲナセシト雖モ質帖ニ記載  
シタル自分ニ扣ヘ置シ帳簿ナル而已ナラス之レカ扱人タル板倉平藏カ証書アリ之レヲ取  
月日ノ相違  
アリト雖モ加  
之同人御審問ノ際陳述セシ書類ヲ以觀ルモ何ソ自分ニ抵當取置カサルト云  
シヤ然リ而シテ前數証ヲ照依スルニ一ノ詐爲タル所爲アラサルモノト論定ス之レ原告カ  
不服ヲ唱フル所ノ第一條トス

第二條

一言渡書文中詐爲ノ証書ハ取揚ル所アリ之レヲ指シハ則チ(自分質帖)(ヨシ証書)



(平藏ヨリ自分へ差入シテ証)等ノ取証書ナリ然ルニ質帖ニ於ケルヤ商用必用ノモノヨシ  
テ印紙貼用コトニ官檢ノ印影モ受ケタルモノナレハ假令被告「ヨシ」ニ關係アリシ廉ハ錯  
誤等ニ由テ其張紙セシ廉ニ對シ犯罪ニ觸ル、モノト論セハ寧ロ記載アル廉而已官沒セラ  
ルカ如キハ理ノ正ニ然ラシムル所ト云マヘキナリ然ルニ其理由ヲ審判セラレヌ官沒セラ  
ルハ裁判ハ不當ト言フヘシ

第三條

一自分儀客年八月ノ度本件ニ掛リ株築警察署ニ於テ御拘留中捺印セシ陳述書タルヤ自ラ  
獨リ眞心ニ出テ作リシモノニ非ス該官吏某ナルモノ書記シテ最モ一度ヒ朗讀セラルト  
雖自分ハ極老而已ナラス亦隨テ耳目聞見意ノ如クナラスシテ朗讀ノ主意ヲ覺ラス然レ共  
官吏其捺印強テ求メラレ是カ爲メ止テ得ス終ニ捺印セシモ即今該陳述書ノ寫ヲ熟閱スル  
ニ會テ意ナラサル條件數多アルアレハ眞ニ之カ不服ノ第三條トス

第四條

一抑自分ヨリ此告訴ヲ起セシ所以ナルモノハ何ソヤ自分ノ帖ニ張紙ヲナシ之レカ爲メ故  
ニ被告ニ無實ノ損害ヲ與ヘントスルニアラサルノ意ナリ然レ共質金質物ノ爲メ預ケ置キ  
シトハ現ニ相逢アラズ然リト雖質屋ノ慣習ニシテ被告ヨリ証書ヲ取置カス(張紙ノ下ニ  
自擅記載スルノミニアレハナリ且爰ニ張紙ヲナシタル所以ヲ申サントス抑モ帳面ニ張紙  
ヲナシタルハ脇差貳本ニアリシカ三應ト書キタルノ誤リ田地讓リ証トアルハ畑地ノ間違  
ヒト張紙シ又千貫文ノ外ニ六千貫五百五文「ヨシ」ニ貸付金ナシタレハ其質物ノ爲メ脇指

貳本ハ「ヨシ」ト協議ノ上取り極メテ千貫文ノ質物ハ讓リ証文一通ヲ以テ引當テトシ  
テ其趣キハ質帳ノ先キニ記シアル等ナリ依テ帖面ノ下書ト上帳紙ト相逢ス(被告カ該讓  
リ証質ニ入シテアラサル旨強テ申立ルニ自分ハ現ニ板倉平藏扱ヒテ以實際質ニ取リシニ  
相逢アラサルニ被告ハ斯ク申立ル事ノ理由アラスト信認ス其事實判明セラレシトテ請求  
シテ告訴ニ及ヒシ所以ナリ

第五條

一原告善市カ告訴セシ所以ノモノハ已ニ告訴狀ニ陳述スル如シト雖其場合ニ於ルヤ會テ  
審理セラル、所アラズメシテ却テ願意ノ外ニ帳簿錯誤等故ラニ起因セラレ本刑ニ處セラ  
レシハ實ニ不當ト言フヘキナリ之レ不服ノ第五條トス

第六條

一當判決濟被告及引合人等ノ陳述ヲ騰寫シテ觀ルニ不當ノ申立アル此ノ不當ノ概略ヲ陳  
述シテ以テ尙御審理尽サセテレシトテ請フ  
一客年六月廿四日被告「ヨシ」上申中原告善市ト板倉平藏ナルモノ親屬ナル由ト申立ル事  
ハ會テ非ラズシテ不實ノコナリ  
一客年六月廿一日被告「ヨシ」上申書中ニ親ヨリ讓リ受タル証書ハ米原物市カ妻ヨリシモ  
讓リ書ハ常ニ肌ヲ放サヌ守袋ニ入レ置ク云々スルニ現ニ既ニ物市方へ歸セシ其當時該讓  
リ証馬木村常藏方へ借用金ノ抵當トシテ差入レタルコトアリシ則チ板倉平藏ヨリ奉呈シタ  
ル古証文ヲ以テ明確タリ然ルニ「ヨシ」讓リ証書ハ常ニ肌ヲ離サヌ守袋ニ入レ置ク辨論



スルハ如何ナル相違コアルヤヲ御調査セラル、御義ト心得シカ其場合ハ會テ御審理セラ  
レヌ甚其當ヲ得サルモノト信認ス

一被告「ヨシ」讓リ証文ハ自分へ藏置ノ爲メ預ケ置キシト云フハ何等ノ証アリテ申立ルヤ  
殊ニ自分ヨリ其讓リ証預リ書差出シ或ハ讓リ証ノ寫ヲ與ヘタル旨上申セシハ不實ノ申立  
ト云フヘキナリ

一被告申立テ中渡部留三郎差海村友七妻ト自分方へ罷出候云々スルハ會テアヲサレ事ナ  
ルヘシ

第七條

一是道申上セシ事柄ノ外本件ノ關係人ニ對シ申立ル事柄等有之モ本件御調ノ席ニ於テ一  
度モ原被告對質御調アラサルヲ以テ双方ノ申立ニ對シ論辨等自分十分申立テ述ント欲ス  
ルコトアルモ之レヲナサ、リテ所ナリ

辨明

原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ本案ハ上告人杉原善市カ明治十四年五月十日石飛「ヨシ」ニ  
對シ島根縣杵築警察署ニ告訴セシニ起因シテ警察署ニ於テ六月二十日上告人ヲ拘留  
シ九月二十九日ニ至リ拘留ヲ免シ十二月二十八日原裁判所ノ檢事ニ送附シ原裁判所ハ明  
治十五年一月十七日檢事ノ公訴ヲ受理シタリ然ルニ原裁判所ニ於テハ一回ノ審問ヲ爲サ  
ス原告被告ノ辯論ヲ聽カヌ單ニ上告人カ警察署ニ拘留中押印セシ一通ノ口供ニ依リ裁判  
宣告ヲ受シタルハ聽斷ノ定規ニ乖キ審理ヲ盡サ、ル不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年二月二十三日松江輕罪裁判所ニ於テ杉原善市ニ首渡シタル  
裁判ヲ破毀シ更ニ米子輕罪裁判所ニ移シ審判セシムルニ因リ杉原善市ニ於テハ米子輕罪裁  
判所ノ裁判ヲ受シヘシ

第七百九十二號

○判文〔持兇器強盜ノ件〕明治十五年四月十九日上告  
明治十五年六月十七日判決

滋賀縣近江國東淺井郡小櫻  
村平民

中島 德次郎

明治十五年四月  
二十四年十一月

滋賀縣近江國蒲生郡大林村  
平民當時懲役囚

井 上 要藏

明治十五年四月  
二十八年十月

中島 德次郎

明治十五年三月十八日彦根輕罪裁判所ニ於テ右德次郎外壹名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル持兇器強盜其他數罪俱發事件審理ヲ遂ル處  
檢事補公訴ノ要旨ハ汝ハ明治十三年一月二十日松井兵吉ト商議シ大寺村佐野喜兵衛方ヘ



拔刀ヲ携ヘ侵入シ事主喜兵衛ヲ縛シ尙ホ脅迫シ木綿首巻外壹點ト金拾六圓七拾四錢ヲ強奪シ又明治十三年十一月十八日細江村中川清三郎方外壹ヶ所へ折抗ヲ携ヘタル松井兵吉ト共ニ侵入シ事主清三郎外壹名ヲ脅迫シ煙草入外五點ト金拾三圓奪取シ又明治十三年十一月廿日右松井兵吉及松村豊三郎ヲ同意セシメ小今村北村佐太夫方へ侵入シ携帶セタル出羽庵丁ヲ以テ事主佐太夫ヲ強迫シカラ絲外貳點ト金五拾壹圓拾錢盜奪シ又明治十三年十二月二日右兵吉外壹名ヲ同意セシメ大寺村北川清助方へ忍入臨時事主清助ヲ脅迫シ金七圓掠奪シ又明治十四年三月十九日當今總役四ナル井上要藏及ヒ中川歌次郎ノ兩名ト共ニ金剛寺村堀川万治方へ拔刀ヲ携ヘ押入事主万治ヲ縛シ尙ホ脅迫シテ木綿綿入外七點ト金拾四圓六拾錢奪取シ又明治十四年四月二十三日小澤村宮村己之吉方戸口ヲ開キ忍入リ紙入外壹點ト金三圓四拾三錢盜取シ又明治十四年九月十六日野田仁三郎外壹名ト共ニ三田村ニ出店セル佐野村大澤甚三郎方へ立越シタル際故意ヲ以テ鉢外四點ヲ毀損シ且其際汝ヲ取支ント爲シタル鬼士光三郎ノ臂外壹ヶ所へ携ヘ居タル短刀ヲ以テ傷ケ又汝ヲ捕ヘント爲シタル巡查西村榮治及ヒ野村多賀壽三ニ對シ短刀ヲ以テ拒抗シ榮治へハ額外一ヶ所壽三へハ額外二ヶ所へ傷ケ又汝ヲ捕フルナラント思量シ途中遭遇シタル辻久左衛門ノ捕指ニ短刀ヲ傷ケタリ其証憑ハ被害者佐野喜兵衛外拾名ノ盜難届書始末書及ヒ巡查西村榮治ノ証告書醫師田部美次外壹名ノ檢案狀共犯松井兵吉等ノ供述並ニ彦根支廳糾問掛ノ調書及ヒ創傷ヒシメタル短刀等ヲ明白ナリト汝ノ答ナル要旨ハ檢事補陳述ノ如クニシテ其始末ハ糾問掛ニ於テ申立タル通事實無相違

茲ニ於テ檢事補ノ法律適用ノ意見ヲ閱シ証據事實ニ照スニ汝ハ松井兵吉ヲ勸誘シ佐野喜兵衛方へ拔刀ヲ携ヘ侵入シ紐ヲ以テ右喜兵衛ヲ縛シ尙聲立ツレハ切殺スヘシト脅ヤカシ金員物品ヲ強奪シタルヲ竊ニ京都裁判所彦根支廳ニテ持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身ヲ収關ニ處セラレタル際包藏セシメ今回發覺シ又右處斷後即チ明治十三年十一月十八日中川清三郎方外壹ヶ所へ長サ壹尺四寸計リノ折杭ヲ携帶セル松井兵吉ト共ニ侵入シ事主清三郎外壹名ヲ脅迫シ金員物品ヲ奪取シ又松井兵吉外壹名ヲ誘ヒ北村佐太夫方へ侵入シ出羽庵丁ヲ以テ事主佐太夫ヲ脅カシ金員物品ヲ奪ヒ又松井兵吉外壹名ト北川清助方へ忍入臨時事主清助ヲ切殺スヘシト脅迫シ金圓ヲ奪取シ又當今總役四ナル井上要藏外一名ト堀川万治方へ拔刀ヲ携ヘ押入事主万治ヲ縛シテノミカ切殺スヘシト威迫シ金員物品ヲ掠奪シ又宮村己之吉方へ汝壹人ヲ表戸口ヲ開キ忍入リ金員物品ヲ盜取シ又野田仁三郎外一名ト共ニ大澤甚三郎方出店ニ立越シタル際故ヲニ鉢外四點ヲ毀損シ且汝ノ暴動ヲ望支ヘント爲シタル鬼士光三郎ノ臂外一ヶ所へ携ヘ居タル短刀ニテ傷ツケタルモ疾病休業ニ至ラス又其時汝ヲ捕ヘント爲シタル巡查西村榮治及ヒ多賀壽三ニ對シ汝カ該犯罪ヲ免カル、爲メ短刀ヲ以テ抗拒シ榮治へハ額外一ヶ所ニ傷ケ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ職業ヲ營ムト能ハサルニ至ラシメ壽三へハ額外二ヶ所ニ傷ケタルモ疾病休業ニ至ラス又前同斷犯罪ヲ免カル爲メ汝ヲ捕ヘルナラント思量シ途中ニ於テ遭遇シタル辻久左衛門ノ捕指ニ短刀ヲ傷ケタルモ疾病休業ニ至ラサル數罪ヲ犯シタル者ナリトス乃チ之ヲ法律



汝ノ義ニ持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身ヲ收贖ニ處セラレタル際包藏シ今回發覺シタル  
 佐野喜兵衛方ノ盜罪又右處斷後中川清三郎北村佐太夫堀川万治方ニ於テ同人等ヲ威迫シ  
 金圓物品等強奪シタル所爲ハ俱ニ強盜ノ罪ト爲シ刑法第三百七十八條人ヲ追脅シ又ハ暴  
 行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ストアルニ依リ輕懲役ニ處  
 スヘキ所二人以上ニテ兇器ヲ携ヘ犯シタル者ナルヲ以テ同第三百七十九條強盜左ニ記載  
 シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ二人以上共ニ犯シタル時二兇器ヲ携帶シテ犯  
 シタル時トアルニ照シ本罪輕懲役ニ二等ヲ加ヘ同第六十七條ニ記載シタル等級ニ照シ二  
 等ヲ加フレハ即チ有期徒刑ニ處スヘキ罪トス又汝ノ松井兵吉外一名ト共ニ忍入臨時北川  
 清助ヲ切殺スヘシト脅迫シ金圓奪取シタルハ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ニ依  
 リ本罪輕懲役ニ一等ヲ加ヘ同第六十七條ニ記載シタル等級ニ照シ加等スレハ即チ重懲役  
 ニ處スヘキ者トス又宮村己之吉方ヘ表戸ヲ開キ忍入金圓物品ヲ盜取タルハ竊盜ノ罪ト爲  
 シ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重懲錮ニ處スヘキモノトス又野田仁三  
 郎外一名ト共ニ立越シタル際故意ヲ以テ大澤甚三郎ノ器物ヲ毀損シタルハ刑法第四百二  
 十一條ニ依リ十一月以上六月以下ノ重懲錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘキモ  
 ノトス又鬼士光三郎ニ對スル創傷ノ罪ハ疾病休業ニ至ラサルヲ以テ刑法第三百一一條第三  
 項同第三百三條同第三百二條同第七十條ニ照依シ十三日以上一月七日以下ノ重懲錮ニ處  
 スヘキモノトス又巡查西村榮治ニ抗拒シ創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ職業ヲ營ム

不能ハサルニ至ラシメタル罪ハ刑法第三百二十九條同第四百十條同第三百一一條第一項同第  
 七十條ニ照シ重キニ從ヒ四月以上四年以下ノ重懲錮ニ處シ五圓以上五十圓〔原ノ〕ノ罰金  
 ヲ附加スヘキモノトス又多賀壽三及ヒ辻久左衛門ニ對スル創傷罪ハ疾病休業ニ至ラサル  
 ヲ以テ俱ニ刑法第三百一一條第三項同第三百三條同第三百二條同第七十條ニ照依シ十三日  
 以上一月七日以下ノ重懲錮ニ處スヘキモノトス右數罪俱發シ且佐野喜兵衛方於テ爲シタ  
 ル強盜罪ハ竊ニ懲役終身ヲ收贖ニ處セラレタル際包藏シ未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ  
 發シタルモノナルヲ以テ刑法第三百條重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタ  
 ル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ云々同第四百二條第  
 二項若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ再犯ノ罪ト  
 比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セストアルニ依リ其汝カ中川清三郎方外三ヶ所ニ  
 於テ爲シタル強盜有期徒刑ニ該ル罪ト又松井兵吉外壹名ト忍入臨時北川清助ヲ威迫シ強  
 奪シタル重懲役ノ罪ト又宮村己之吉方ヘ表戸ヲ開キ忍入金圓物品盜取シタル二月以上四  
 年以下ノ重懲錮ニ處スヘキ罪ト又大澤甚三郎ニ對スル器物ヲ毀弄シ十一月以上六月以下  
 ノ重懲錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處スヘキ罪又鬼士光三郎巡查西村榮治多賀壽  
 三辻久左衛門等ヘ創傷セシメタル四月以上四年以下ノ重懲錮五圓以上五十圓以下附加ノ  
 罰金ノ罪又十三日以上一月七日以下ノ重懲錮ニ該ル罪ト比較スルニ中川清三郎方外三ヶ  
 所於テ爲シタル強盜有期徒刑ニ處スヘキ罪重ク又其一ノ重キ再犯有期徒刑ニ所スヘキ罪  
 ト義ニ汝カ包藏シタル佐野喜兵衛方於テ犯シタル強盜有期徒刑ニ處スヘキ罪ト比較スルカ







ノ際汝等並ニ共犯中島徳次郎ヲ申立タル調書等ニテ明白ナリト謂フニ在リ  
 汝カ陳供スル處ノ要旨ハ檢事補公訴ノ如シ明治十四年三月十九日拔刀ヲ携帯セル東淺井  
 郡小櫻村中島徳次郎外一名ト共ニ蒲生郡金剛寺村堀川万治方へ押入り共犯中島徳次郎等  
 ノ事主万治ヲ荒縄ヲ以テ縛シ尙ホ聲立レハ切殺スヘシト脅迫シ金員物品ヲ強取セルヲ其  
 場ニ在テ見張シ後テ其強取シタル金員等分受シタルヲ發見キコ京都裁判所大津支廳ニ於テ  
 持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身ノ處情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役十年ニ處セラレタル際包藏  
 セシニ今回發覺シタル始末ハ糾問掛ニ於テ申立タル通り事實相違ナシト謂フニ在リ  
 茲ニ於テ檢事補法律適用ノ意見ヲ閱シ汝カ陳供ト被害者堀川萬治ノ手續書等ニ依リ之ヲ  
 審按スルニ汝ハ明治十四年三月十九日拔刀ヲ携帯シタル中島徳次郎外一名ト共ニ堀川万  
 治方へ押入り共犯中島徳次郎等ノ事主萬治ヲ荒縄ニテ縛シ尙ホ聲立レハ切殺スヘシト脅  
 迫シ金員物品ヲ強奪セルヲ其場ニ在テ見張シ後テ其強取シタル金員等分受シタルヲ發見キ  
 ニ汝カ京都裁判所大津支廳ニ於テ持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身ノ處情ヲ量リ一等ヲ減  
 シ懲役十年ニ處セラレタル際包藏セシニ今回發覺シタルモノナリトス依テ汝カ其行爲ヲ  
 執テ之ヲ法律ニ照スルニ刑法第三百七十八條人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタ  
 ル者ハ強盜ノ罪ト爲シ懲役ニ處ス同第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ  
 一個毎ニ一等ヲ加フ一二人以上共ニ犯シタル時ニ兇器ヲ携帯シテ犯シタル時トアルニ依  
 リ本罪輕懲役ニ二等ヲ加ヘ同第六十七條ニ記載シタル等級ニ照シ二等ヲ加フレハ即チ有  
 期徒刑ニ該リ同第十七條第二項ニ有期徒刑ハ十二年以上十五年以下トアルニ依リ有期徒

刑十五年ニ處スヘキモノトス然ルニ該犯罪タルヤ汝カ發見キコ京都裁判所大津支廳ニ於テ  
 持兇器強盜ノ科ニ依リ懲役終身情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役十年ニ處セラレタル際包藏シタ  
 ルモノトテ其汝カ當然受シヘキ本罪懲役終身ヲ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例  
 第一條ニ照スニ無期徒刑ニ該リ而シテ刑法第二百一條第一項一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ  
 餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論ヒス云々トアルニ依リ其汝カ發見キコ持兇器  
 強盜ノ科ニ依リ處斷ヲ受ケタル前發ノ罪ト發見即チ拔刀ヲ携帯セル中島徳次郎等ト共ニ  
 堀川萬治方へ押入り事主萬治ヲ縛シ脅迫シテ金員物品ヲ強奪シタル罪トチ比較スルニ即  
 チ後發ノ罪輕キニ依リ論ヒサルモノトス斯ノ如クナル處該所犯タルヤ新法實施以前ニ在  
 ルニテ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ニ  
 照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ仍ホ之ヲ舊法ニ照スニ明治十年第二十五號布告改正  
 強盜律第二項其兇器ヲ持スル者ハ云々財ヲ得ル者ハ暫斷改テ皆懲役終身云々トアルニ依  
 リ懲役終身ニ處スヘキ者トス然ルニ該犯罪タルヤ發見キコ京都裁判所大津支廳ニ於テ持兇  
 器強盜ノ科ニ依リ懲役終身情ヲ量リ一等ヲ減シ懲役十年ニ處セラレタル際包藏セシモノ  
 ナルニ依リ名例律二罪俱發以重論條凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者ヲ以テ論シ云  
 ヲ若シ一罪先キニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪後ニ發シ輕ク若クハ等キハ論スルコ勿レ云々  
 トアルニ照シ其汝カ包藏シ今回發覺シタル持兇器強盜ノ罪ト發見キコ持兇器強盜ノ科ニ依  
 リ處斷ヲ經タル罪トチ比較スルニ罪等シキニ依リ更ニ之ヲ論ヒサルモノナリトス右ノ理  
 由ノ如ク汝カ強盜ノ罪ハ新舊法共ニ論ヒサルモノナルニ依リ論ヒス



彦根輕罪裁判所檢事補吉川雅都ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月二十五日附  
 以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ  
 抑本件ハ去ル明治十四年十月六日滋賀縣檢察掛ヨリ京都裁判所彦根支廳糾問掛ニ糾問  
 承メタル末同年十二月二十四日其取調完了セシモノニ付則明治十四年第八十二號布告ニ  
 基キ從前ノ規則ニ從ヒ處分セサルヘカヲサルハ論ヲ待タズ果シテ然ルルハ本犯ハ舊法ニ  
 ヨレハ賊盜律改正持兇器強盜律ニ照シ懲役終身ニ處スヘキモノニ付到底其罪新法ニ照セ  
 ハ有期徒刑ニ該ルニモセヨ從前ノ規則則明治十年第十九號布告地方裁判所章程第五條ニ  
 終身懲役ハ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所ノ審批ヲ取リ然ル後ニ宣告ストアルニ依リ擬律案  
 ヲ具ヘテ舊上等裁判所則大坂控訴裁判所ノ審批ヲ取リ然ル後宣告セサルヘカヲズ然ルニ  
 當裁判所ニ於テハ右從前ノ規則ニヨリ審批ヲ取ラス擅ニ右德次郎ニ對シ舊法ニヨリ懲役  
 終身ニ處ス云々新法ニ比照シ有期徒刑十五年右要藏ニ對シ同シノ懲役終身ニ處ス云々  
 法ニ比照シ有期徒刑新舊法共ニ云々ナルヲ以テ論セスト宣告シタルハ明治十四年第八十  
 二號布告及ヒ明治十年第十九號布告地方裁判所職制章程ニ違背シタル越權ノ裁判ト旨ハ  
 サレテ得テ依テ該事件ハ從前控訴上告手續第十條第二項裁判管理ノ權限ヲ越エタルモノ  
 ト認メ上告候條明治十五年三月十八日當裁判所ニ於テ中島德次郎外一人ニ宣告シタル裁  
 判ヲ取消シ從前ノ規則ニ從ヒ更ニ至當ノ裁判相成度候也

辨明

被告中島德次郎外一名ヲ犯罪ハ舊法懲役終身ノ刑ニ該ルモノナレハ新法ニ照シ有期徒刑

ニ該ルモ所犯明治十四年十二月三十一日以前ニ係ルヲ以テ明治十四年第八十二號布告ニ  
 依リ仍ホ明治十年第十九號布告地方裁判所章程第五條ニ從ヒ擬律案ヲ具ヘテ上等裁判所  
 ノ審批ヲ取リ然ル後ニ宣告ス可キ者ナリ然ルテ該布告ニ依ラズ直テニ宣告シタルハ裁判  
 管理ノ權限ヲ越エタル不法ノ裁判ナリト上告スト雖舊律懲役終身及ヒ新法ニ照シ無期  
 刑以上ニ該ル者ハ舊上等裁判所即チ管轄控訴裁判所ニ批可ヲ請フヘキ僞ナルモ有期徒刑  
 以下ノ刑ニ該ルモノヲ批可シテ之ヲノ成文アルニ非サレハ始審裁判所ニ於テ明治十四年第  
 八十二號布告ニ依リ直テニ裁判シタルモ敢テ不法ト旨ヲ得ス

判決

右ノ理由ナルコ依リ明治十五年三月十八日彦根輕罪裁判所ニ於テ中島德次郎外一名ニ宣渡  
 シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナシトス

第七百九十三號

○判文(盜匪故買ノ件)明治十五年一月廿四日上告  
 明治十五年六月十九日判決

東京府芝區愛宕町二丁目七

番地平民

井

上源藏

明治十四年十二月  
十五年三月

明治十四年十二月廿六日東京裁判所ニ於テ右源藏ニ左ノ裁判ヲ宣渡シタリ

其方備吉田新五郎ヨリ白木綿買取ルニ當リ其贓タルヲ知ラサル旨申供スルト雖モ新五郎



ハ始メテ面識スル者ニシテ且其代價ノ非常ニ廉ナル等ニ據テ視レハ必ス贓物ナルヲ知  
リシモノト認定セサル可ラス依テ右科改定律例第五百十八條ニ依リ贓金貳百七拾圓九拾  
圓ナルニ付坐贓ニ一等ヲ減シ四犯ニ係ルト雖モ準竊盜贓ナリシヲ以テ加等ノ限ニ非ス懲  
役百日申付ル

并上源藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不服ナリトシ明治十五年一月四日本院ニ差出シタル上告狀及  
ヒ同年一月十三日ノ上告補正書ノ要領左ノ如シ

上告ノ要領

第一條

一原裁判所判文ニ曰「其代價ノ非常ニ廉ナル等ニ據テ觀レハ」云々ト甚シキ哉此判文タル  
商業上ノ事理解テ解セサルヲ夫賣買上之物品ハ之ヲ賣者ト買フ者ト肯諾上ニ於テ成立ツモ  
ノ也價值モ亦ヲ賣買主双方其時ノ金融如何ニ有テ 俗ニ懷コロ 大ニ昇低アルモノ也何  
レソノ廉不廉ヲ以テ悉ク正品必ラスシモ盜贓品ナリトノ理アランヤ抑商賣ハ成丈ケ廉ナ  
ルモノヲ購得シ亦之レヲ廉ニ沽却シ花主ヲ喜ハシメ自分モ其家聲ヲ擧ケントスルハ  
通情ナリ然ルヲ估計ニ合ワストテ原裁判所ノ如ク認定ヲ以テ處刑ヲ言渡サハルニ至リテ  
ハ其結果豈賣商買ノ不幸ノミニ止マル可ケンヤ之レ認定ニ不服ノ一ナリ

第二條

一原裁判所判文ニ曰ク「贓物ナルヲ知リシ者ト認定セサル可カラス」ト此判文タルヤ慘  
酷ニ過キタル所謂俗ニ無理故事付ニ故事付タル認定ト云フモ失言ニ非サル可シ如何トナ

レハ既ニ前條理由書ニモ記スル如ク又原裁判所ニ於テモ供述セシ通り品主吉田新五郎ナ  
ル者ハ初メテ知リタル者ニシテ該品全ク賣買致サハルハ勿論未一金之内金或ハ手附金ナ  
ルモノヲモ渡サヌ加之該品モ未惣數請取ラサル央ニシテ只口約ノミニ止マリアルモノナ  
ラズ業ニ已ニ該品ヲ殘ラヌ買取リ代金ヲモ拂渡濟タル如ク判文ニ曰ク「依テ右科改定律  
第五百十八條ニ依リ贓金貳百七拾圓九拾錢ナルニ付坐贓ニ一等ヲ減シ」云々ト誤認モ亦  
甚シキ者ナリ之レ承服シ能ハサルノ第二ナリ

第三條

一叙其口約サナシ、際ニシテモ既ニ自分ハ以前誤テ贓品ヲ買ヒ御處刑ヲ得タルヲアリシ  
ニ因リ其後ハ大ヒニ悔悟シ知ラサル者等ヨリ物品ヲ購得スルニ當リテハ前理由書ノ第二  
項ニ記シタル如ク保証人ノ確實ナル者連印之賣渡シ証書取ニ非ラサレハ取引ヲナサズ專  
ラ正實ニ業ヲ營ミアルモノヲ原裁判所ハ不當ニモ價值ノ一ノミナラス自分カ露前科  
アルヲ以テ今般ノ買物ヲモ不正品ナルヲ知リシ如ク巧ニ御尋問ニ至リシハ實ニ其當  
ヲ得サルト云フ可シ然ラハ前科罪ヲ犯シタル者ハ爾後悔悟遷善ニ至ト雖モ時々此以前ニ  
モ贓品ヲ買ヌカラ今般モ買ツタロシト認定ヲ得ルニ至ラハ其身終ツルマテ不幸實ニ何  
トカ云ツン未如此苛酷ノ法律アルヲ聞カス之原裁判所ノ言渡シ承服シ能ハサルノ第三ナ  
リ

上告補正書ノ要領

一凡商以賣買タル慣習ハ假令ハ假ニ百圓ノ代アル物品ノ買約定ヲナサントスルハ金高



三分ノ一銀ハ四分ノ一ヲ差金トシテ初テ真正之賣買約定ト號シテ相互ニ約定書ヲ取替メ  
 ナス者ナリ該金ヲ差入サル内ハ眞ノ約定ニ非ス亦代價ノ内幾分ノ一ヲ差金シ殘金ハ三日  
 ノ以内ニ拂可キ約ナシ該物品ハ期日迄ヨ止メ置キ其三日目ニ殘金ヲ差入レサルハ該  
 物品ハ何方ヘ賣拂ハレタリトモ故障スヘキ様ナシ況ヤ只々口約ヲ而已ナシタル物品ニ於  
 テハ當時相場ノ高低ヨ因リ品主ハ何方ヘ賣拂トモ買約主ハ更ニ故障申スヘキ事コナラサ  
 ル者也如何トナレハ眞ノ手續ニ非ラサレハナリ夫レ然リ而シテ百圓ノ代價物品ニ三分一  
 四分ノ一ヲ差金トシテ相渡シ殘金ヲ一週間又ハ十日間ニ拂可キ約ナシテ該百圓ノ物品  
 ヲ殘ラズ其買主方ヘ引取置キ殘金ヲ拂渡ス可キ期限以前ニ於テ該物品ヲ其賣主カ承諾セ  
 サルコ他ヘ賣渡シ或ハ拂渡スヘキ期限ニ殘金ヲ延滞セシトキハ其賣主ヨリ物品取戻シテ  
 請求セラレ渡サ、ル時ハ裁判所之レヲ處分スルニ詐欺取財或ハ引荷ナトニテ準窃盜ヲ以  
 テ之ヲ論シテ處刑ヲ蒙リタル者其例少ナカラズ

然ルコ自分今般買求ム可キ口約ヲナシタル白木綿ハ其約シタル物反數ヲモ未タ請取ラズ  
 且ツ一金ヲ差金或ハ約定金トシテ相渡サ、ル而已ナラズ其實際ハ物品主吉田新五郎ナ  
 ル者モカナラズ一金モ受取ラズ其詐欺品ナル事ヲ自分ヘ申聞ケサル事ハ定テ原裁判所ニ  
 テ供述シタル可キ事ト信ス亦タ自分モ眞ニ存セサル事故ニ警視第二局ニ於テモ原裁判所  
 ニテモ御訊問際詳細ニ〔上告趣意書ニ記載スル如ク〕申供シタルニモ拘ハラズ原裁判所ハ口約シタル上  
 ハ既ニ買求メタルモ同様ナリトテ無理ニモ認定セサル可カラズ判文ト不當ト誤解ヲ以テ  
 認定セラレタリ之レ萬々承服能ハサル所以ナリ若シ之ニ反シテ自分ハ其口約ヲナシタル

迄ニシテ自分ノ宅ヘ該白木綿ヲ取寄タル際〔其代金或ハ差金ヲモ相渡〕ニ其品モ殘ラズ他  
 へ賣拂タラハ原裁判所カ之ヲ目シテサキニ口約ヲナシ置タルモノ故ニ既ニ買求メタル物  
 ト認定シテ其儘不問ニ措キ無罪者トス可キカ決シテ然ル可カラズカナラズ前ニ記スル如  
 シ引荷或ハ詐欺取財モノトシテ御處分スルナラン然ラハ彼此ノ比較其認定ノ當不當何レ  
 カ是何レカ非自分今般贓物故買ナリトノ認定ハ其當ヲ得サル言ヲ俟タズシテ明カナリ  
 且ツ亦タ其不正品ナルヲ知リテ買ヒタルト認定スルニモセヨ〔自分ハ其不正品ナル〕既ニ  
 賣主買主相互ニ物品悉皆授受ノ上該代金ヲ請取渡シ相濟タルノ事ニ非ラサレハ買受タル  
 物トハ確指スルヲ得可カラズ況ヤ上告趣意書ニ陳述セシ通り其不正品ナルヲ知ラサル  
 ハ勿論只口約ノヨ止マリ未タ一金ヲモ拂渡サ、ル而已ナラズ其賣買確書ヲ証サシメン  
 爲新五郎定宿甲州屋ヲ保証ニ〔是ハ知ラサル者ヨリ物品ヲ買フ時ハ此手續キ〕立テロトテ  
 約定モ未タ半途ナル央ニ於テサヤ而シテ亦前科アルヲ以テ不正品ナルヲ知リテ買請ケシ  
 ナル可シト認定チスルカ如キニイタリテハ不當ノ甚シキト言ハサルヲ得ス如何トナレハ  
 一旦失策シタル者ハ爾后悔悟シ何程正實ニ營ムモ斯ク認定サル、ニ及時ハ終生ノ間其商  
 業ヲ廢セサル可ラズ然ラハ大勢ノ家族何ニ因テカ糊口ノ策ヲ立テンヤ扱亦前科トイヘト  
 モ既ニ其罪犯觸セシ時ニ於テ其刑ヲ受タル上ハ今日ニ於テハ無罪ノ良民ニシテ其刑之今  
 日ニ至ルマテ現存スルノ謂ナシ然ルニ前科ヲ以テ何時テモ賣買ナシタル節ニ不正品々々  
 ト前科ニ因テ認定サル、ニ至テハ悔悟還善ノ功ナキニシテ何時モ認定ト言フ刑ヲ脊  
 負テ居ルモ同様ナリ未ダカシノ如キ慘酷ナル法律アルヲ聞カサルナリ



辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ被害八田中藤吉カ届書ニ「荷物ヲ受取云々車へ積車曳出シ大馬町迄参リ云々受取牒失念ニ付立歸リ云々右場處迄立戻リ候處云々何方へ荷物曳参リ候哉行衛相知レ不申云々目錄ノ品ヲ持去リ候間御訴」トアリ又犯人吉田新五郎カ口供ニ「不圖不良心ヲ生シ右荷物其儘挽逃ケ云々井上源藏方へ罷越シ他人ノ窃取セシ品ナル旨申聞覺反ニ付金四十錢ツ、ニテ可賣渡約定ヲ遂ケ」トアルヲ觀レハ上告人源藏ハ人ノ拐帶シタル脏物ヲ故買セシモノナレハ原裁判所カ前ニ掲ケル如ク裁判ヲ爲シタルハ不法ニアラストス

判決

右ノ如クナルニ因リ明治十四年十二月廿六日東京裁判所ニ於テ井上源藏ニ首渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第七百九十四號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年三月十一日上告  
明治十五年六月十九日判決

山形縣羽前國南置賜郡上花

澤信濃町廿番地士族

実 戸

寅 治

明治十五年二月  
五十二年三月月

明治十五年二月十八日米澤輕罪裁判所ニ於テ右実戸寅治ニ對シ左ノ裁判ヲ首渡シタリ

其方儀明治十四年十月八日米澤郵便局ヨリ配達シタル平吹源助ヨリ実戸寅藏へ宛タル信書ハ伊藤勝藏ヨリ贈リタルモノト誤認シ其封入ノ爲替券ヲ携ヒ同局ニ到リ実戸寅藏ト名ヲ詐稱シテ金五圓受取タルハ同局ヲ欺クノ念慮ニアラザリ旨陳述スト雖モ正當ニ自己ノ名ヲ以テセハ該局ハ其金員相渡サスト思慮シテ故テ其名ヲ詐稱シ金員欺キ取リタルト判然ナリト確認ス仍テ右贓金五圓ノ科刑法第三條第二項ニ從ヒ第三百九十條ニ據リ重罰禁二月ニ處スヘキ處所犯情狀原諒スヘキトアルヲ以テ第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮一月ニ處スルモノ也

但明治十四年第八十一號布告第六條ニ依リ罰金ヲ附加セヌ

米澤輕罪裁判所檢事補日向英行ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十五年二月二十四日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑モ被告人実戸寅治ハ我長女ヲ娶ハシタル山形縣北村山郡山口村居住伊藤勝藏ニ贈金スヘキヲ照會シ置タル折柄明治十四年十月八日郵信到來其表書米澤上花澤信濃町実戸寅藏様上ノ山平吹源助トアリタルヨリ以爲平吹源助ナル者ハ知ラサル人名ナリト雖モ婿勝藏ト信書ヲ往復スルニ家内不和合ヨリ其信書屢届カサルトアルヲ以テ變名ノ信書ヲ往復スルトナルヨリ是亦其手段ニ出テタルモノナラント思料シ且勝藏ハ山口村ノ住カルモ曾テ電信局ノ傭工夫トナリ或ハ山形或ハ上ノ山ト其居住ヲ定メナルヨリ勝藏カ上ノ山ヨリ差出シタルモノナラント之ヲ開封セシ中ニ金五圓ノ爲替券アリ被告ハ固ヨリ無罪ニシテ其文意ヲ會得スル能ハサルヨリ全ク勝藏ノ贈リシモノナラント之ヲ受領シテ明



治十四年十月十日米澤郵便局ニ抵リ該金ヲ受取ルニ際シ以爲シ我名ハ寅治ナルニ寅藏ト誤記シアル旨詳言セハ恐クハ金圓受取ニ滯滞ヲ醸サント故テ寅藏ト稱シ金圓ヲ受取タルモノニシテ被告ニ於テ當時他ニ穴戸寅藏ナルモノアルヲ知リタルニ非ス又平吹源助ハ其差出タル信書ノ肩書ハ米澤上花澤ト記スヘキヲ米澤上花澤信濃町ト誤記セヨリ畢竟既不都合ヲモ求セシ者ニシテ被告ノ之ヲ誤ルモ其故ナキニアラス且被告ガ他人ノ金圓ナルヲ知リ而シテ之ヲ受取タルモノナレハ勝藏ニ對シ禮狀ヲ發スヘキノ謂レナシ由是觀之ハ該金ヲ受取ル時毫末モ詐欺心ナキヤ炳然タリ后々明治十四年十一月七日勝藏ノ回答ヲ得ルニ及ンテ始メテ他人ノ信書タルヲ知ルモ之ヲ郵便局ニ返還スルノ道アルヲ識ラズ在事十余日ヲ經過スルニ明治十四年十一月十九日事主ヨリ駒村勇太郎ヲ以テ尋テラレ速カニ其理由ヲ陳ヘ該金ヲ返却シタルモノナリ然レモ已ニ他人ノ信書アリシコトヲ知リ郵便局ニ返還セズ之ヲ等閑ニ附シタルハ其罪不問ニ措クヘカラス故ニ右所爲ハ郵便罰則第二十三條ニ依リ處斷スヘキ者ト見込居候處裁判官ニ於テハ藏ト治ノ一字ヲ詐リタルヲ以テ斷然詐欺取財ト爲シ處斷セシハ不當ノ裁判ト考思候條破毀ヲ要ムル爲メ及上告候也

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ穴戸寅治ガ穴戸寅藏ト詐稱シ郵便爲換金ヲ受取タルハ詐欺取財ノ念ニ出タルニ非スシテ伊藤勝藏ヨリ寅治ニ贈與シタル爲換金ナルヘシト誤認シタルハ伊藤勝藏ガ申供ニ照シ明瞭ナリトス然ルニ原裁判所於テ郵便局ニ對シ偽名シタルノミノ行爲ヲ以テ詐欺取財ノ罪アリト判定シタルハ不當ノ裁判ナリトス然ラハ

則チ寅治ガ罪ヲ斷スルコトハ所犯明治十四年中ニ在ルヲ以テ偽名ヲ以テ爲換金ヲ受取タルハ雜犯律不應爲條不應爲重キニ問ヒ懲役七十日又平吹源助ヨリ穴戸寅藏ニ宛タル郵便信書ヲ開封シタルハ郵便罰則第二十三條氏名類似セル郵便物ヲ開封セシキハ速ニ其類似スル所以ヲ記シ之ヲ其近傍ノ郵便局ニ申牒シ云々若シ之ヲ申牒セズ或ハ之レヲ投棄ニ付スル者ハ貳拾圓以内ノ罰金ニ處ストアルニ照シ併科スヘキ者ナリト雖モ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十壹號布告ニ照シ新舊ノ法ヲ比照スレハ刑法ニ正條ナキヲ以テ同第二條ニ照シ無罪トナスヘキ者ナリト雖モ刑法第五條此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ云々トアルニ照シ單ニ郵便罰則ニ照シ處分スヘキ者トス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年二月十八日米澤輕罪裁判所於テ穴戸寅治ニ首渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

穴 戸 寅 次

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ郵便罰則第二十三條ニ照シ

罰金壹圓

第七百九十五號

○判文(過失殺ノ件) 明治十五年三月廿二日上告

明治十五年六月十九日判決

熊本縣肥後國玉名郡平山村



平民

山田儀平

明治十五年二月  
四十一年四月

右儀平ニ對シ明治十五年二月二十七日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右ノ者ニ對スル過失殺及ヒ鳥獸獵規則違反ノ公訴一件裁判スル左ノ如シ  
被告人カ明治十四年十二月二十七日福岡縣三池郡平山嶽ニ於テ過失ニ依リ從弟中村求六ヲ銃殺シタルコトハ被告人ノ自首書及ヒ口供其他檢視明細書等ニ據リ事實相違ナキモノト確認ス

右過失殺ノ行為ハ刑法第三百十七條ニ照シ貳拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノニシテ舊法ニテハ人命律過失殺人條ニ依リ例圖ニ照シ懲役終身ノ收贖金四拾圓ヲ追徴スヘキモノトス

又官ノ允許ヲ受ケテ鳥獸獵ヲ爲シタルハ明治十年太政官第十一號公布鳥獸獵規則ニ違反スルモノトシ其第十七條ニ照シ三圓ヨリ少カラズ貳拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘキモノトス

然ルニ其過失殺ノ刑ハ新舊法ヲ比照シ新法ニ從ヒ貳拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトシ如キモ舊法ノ收贖ハ其性質民事ノ賠償法ニシテ全ク刑罰ノ精神ニ非ラサルヲ以テ新法ト比照セズ單ニ舊法ニ依リ收贖金ヲ其家ニ追給スヘキモノトス

右ノ理由ニ基キ檢察官熊本縣警部補伊東庫太郎ノ意見ヲ聽キ被告人山田儀平ニ對シ過失殺ノ收贖金四拾圓鳥獸獵規則違反ノ罰金三圓ヲ言渡ス者也

熊本縣警部補伊藤庫太郎於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月三日附テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右之者儀明治十四年十二月二十七日福岡縣三池郡平山嶽ニ於テ過失ニテ從弟中村求六ヲ銃殺ノ末自首ス因テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ノ收贖金新法罰金ノ範圍内ニアルヲ以テ刑法第三百十七條ニ照シ刑ノ適用ヲ求メタル處明治十五年二月二十七日熊本始審裁判所轄内山鹿治安裁判所ニ於テハ其過失殺ノ刑ハ新舊ノ法ヲ比照シ新法ニ從ヒ貳拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處スヘキモノトシ如キモ舊法ノ收贖ハ其性質民事ノ賠償法ニシテ全ク刑ノ精神ニ非ラサルヲ以テ新法ト比照セズ單ニ舊法ニ依リ收贖金ヲ其家ニ追給スヘキモノトシテ被告人山田儀平ニ對シ收贖金四拾圓ト裁判言渡シナシタリ其言渡シタルヤ一理ナキコトモ非ラズト雖モ奈何セン舊法人命律過失殺傷人條ニ依レハ入テ殺傷スル者ハ各圖毆傷ニ準シ云々トアリ左スレハ之レテ正面ヨリ論スルハ無論過失ニ依リ人ヲ殺ス者圖毆殺ニ準スル時ハ即チ懲役終身ノ刑ニ的該スレモ其事情ヲ憫諒スヘキヲ以テ特別ニ收贖セシムル者ナレハ刑罰タルコトハ喋々ノ辨テ俟スシテ明々瞭々タリ夫レ然リ果シテ然ラハ何ソ舊法而已ニ據ルノ理アラザヤ必ズ新舊ノ法ヲ對照シ刑法第三百十七條ニ照シ貳拾圓以上四拾圓以下ノ罰金ノ範圍ヲ縮メ其範圍内ヲ以テ罰金ノ言渡シナスヘキ者ト信認ス應レ上告ヲ破毀ヲ求ル所以ナリ



辨明

上巻ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ山田儀平ガ中村求六ヲ銃殺シタルハ其所爲過失ニ出テ全ク故意アリシコト非ス而テ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ人命律過失殺傷八條ニ論擬スヘキ者ナリトス又抑留法ハ單ニ收贖ニシテ民事賠償ノ性質ヲ具有セル特別ノ法律ナレハ新舊ノ法ヲ比照セサルヲ以テ不法ト謂フヲ得サルモノトス依テ原裁判所於テ前記宣告書ノ如ク斷定シタルハ相當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年二月二十七日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所於テ山田儀平ヨリ首渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第七百九十六號

○判文(氏名詐稱ノ件) 明治十五年四月十八日上告  
明治十五年六月十九日判決

山口縣長門國赤間關區竹崎

町居住平民

松村定吉

明治十五年二月  
四十年九月

明治十五年二月二十日赤間關治安裁判所ニ於テ山口輕罪裁判所ヲ開キ右松村定吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

汝ニ對シ檢察官ノ請求ニ依リ囚訴ヲ受理シ汝ガ答辨及檢察官ノ意見ヲ聽キ調書ニ依リ汝

ハ同居ノ娼妓小牧「ヨシ」ガ逃走スルヲ届出サルノコトヲス渠ガ娼妓鑑札ヲ返上セズ剩ヘ加賀屋「トシ」ニ携帶サセ小牧「ヨシ」ト詐稱シ娼妓營業令メ居ル内渠モ亦逃走行衛知レサレハ其際ニ至リ「ヨシ」ガ逃走ノ旨ヲ届右鑑札ヲ返上シタルモ中間「トシ」ヲシテ右鑑札ヲ携帶氏名ヲ詐稱令メヨシ「トシ」ヲ包藏シ官ヘ對シ不實ヲ申告スルハ法律ノ免サ、ル所ナリト前非ヲ悔ヒ即明治十四年九月二十六日當地警察署ヘ自首セシモノト判定ス乃チ之ヲ法律ニ照スル刑法第二條末項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未メ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ刑法第五百條二百三十一條八十五條及改定律例第二百四十七條及新律綱領自首條等ヲ比照シ輕キ舊律犯罪自首條凡罪ヲ犯シ事未メ發覺セズシテ自首出首スル者ハ其罪ヲ免ストアルニ依リ其罪ヲ免ス者也

山口縣赤間關警察署詰警部榎部莊一於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月二十一日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要領左ノ如シ

抑該被告事件タルヤ被告松村定吉ハ貸席營業ノモノ「ヨシ」ヲ己レノ家ニ同居ノ娼妓小牧「ヨシ」ナル者カ過ル明治十一年一月中娼妓營業鑑札ヲ遺シ置キ逃走シテ所在相分ラサルヲ其他ヨシテ其筋ヘ届出サルノコトヲナス當時己レノ家ニ滞留ナシ居タル廣島縣出生加賀「トシ」ナル者ニ該小牧「ヨシ」ノ記名アル娼妓營業鑑札ヲ貸與シ官署ニ對シ小牧「ヨシ」ト詐稱セシメ明治十四年七月ニ至ルマテ三ヶ年余ノ久シキ己レノ家ニ於テ娼妓營業ヲナサシメ居タル所同月二十五日ノ夜再ヒ該加賀屋「トシ」カ逃走シテ所在相分ラサルニヨリ小牧「ヨシ」カ逃走シタリト詐リ官ニ届出該鑑札ヲ返上ナシ置キ其後明治十四年九月二十六



日ニ至リ赤間關警察署ニ自首シタル者ナリ右ノ所爲タルヤ既ニ官ヲ欺キ遂ケ以テ不正ノ利益ヲ得タルモノナレハ自首スト雖モ到底償フコト能ハサルノ罪ナリト見認メタリ舊法ヲ業スルニ新律綱領犯罪自首條第三項ニ曰ク其人ヲ損傷シ及ヒ賠償スヘカヲサルノ物ヲ毀壞シ云々自首ノ律ニ非ス第五項ニ曰ク若シ自首シテ贓徴ス可カラサルハ云々右等ノ律意ヲ推スモ自首スト雖モ到底償フコト能ハサルノ罪ハ首免ヲ與フルノ限ニアラサルヤ明ナリ依テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第三條第二項ニ曰ク若シ所犯頒布以前ニ在リテ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ所斷ストアルニヨリ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法改定律例第二百四十七條ニ凡對詔及ヒ奏事ヲ除ク外上ニ告クルニ詐ツテ實ヲ以テセサル者ハ懲役一年事情輕キ者ハ懲役八十日トアリ而シテ新刑法第五條ニ人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ストアリテ同第二百三十一條ニ官署ニ對シテ文書又ハ官署ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ストアリ依テ被告ハ輕キ新刑法ニ依リ尙ホ刑法第八十五條罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ストアルニ依リ相當ノ刑ニ處スヘキ者ト思考セリ然ルニ原裁判所ハ舊法新律綱領犯罪自首條第一項ヲ適用シ免罪ノ旨渡ヲ爲シタルハ擬律ヲ錯誤シタル不當ノ裁判ナリト見認メ及上告候也

辨明

被告松村定吉カ被告事實ハ賠償ス可ラサルノ所爲ナレハ名例律犯罪自首條ヲ適用セシハ不法ニアリト論告スト雖モ抑モ犯罪自首條ニ其人ヲ損傷シ及ヒ賠償ス可カラサル物ヲ毀

棄シ若クハ竊スル者ハ並ニ自首ノ律ニ在ラストアツテ其物品ニ對シタル律意ニシテ被告定吉ノ所爲ノ如キハ適當セザレハ原裁判所ノ自首條ヲ適用シ及ヒ刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ其輕キ舊法ニ從ヒ所斷セシハ允當ナルモ改定律例第二百四十七條凡對詔及ヒ奏事上書ヲ除クノ外上ニ告クルニ詐テ實ヲ以テセサル者云々トアルヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリト言ハサルヲ得ヌ何ントナレハ本條ハ所謂官吏上司ノ命ニ因リ申スヘキ事ニ就キ不實ヲ申シタルモノヲ指シタル法律ニシテ人民ノ官廳ニ對シ不實ヲ申シタル者ニ適用スヘキ法律ニアラザレハナリ因テ被告定吉ニ對シ雜犯律不應爲條不應爲輕ニ問擬シ懲役三十日未發前自首スルニ付名例律犯罪自首條ニ照シ其罪ヲ免スト論決スヘキモノナルモ到底刑ノ結果ニ至テ異同ナキニ因リ破毀ノ限ニアラストス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年二月廿日赤間關治安裁判所於テ山口輕罪裁判所カ松村定吉ニ首渡タル裁判ハ破毀スヘキ限リニアラストス

第七百九十七號

○判文(竊盜ノ件)明治十五年三月一日上告  
明治十五年六月二十日判決

東京府芝區琴平町一番地平

民

横山謙吉

明治十五年二月  
三十年六月  
二五三



右藤吉ニ對シ明治十五年二月十四日東京輕罪裁判所於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
 其方義名取金次郎砂村倭之助ト共ニ宮本藤兵衛土藏ヨリ衣類等ヲ竊取シタルコトキ旨主  
 張スト雖モ第一明治十四年十一月廿六日黎明芝區西應寺町人家ノ路次口ニ於テ倭之助ヨ  
 リ風呂敷包一箇ヲ授ケテ竹内藤吉方ヘ携ヘ至リシ旨自供スルコト第二其方陳辯スル如ク  
 前夜倭之助ガ衣類賣却セント云ヒシ旨承諾シ其指定シタル日時場所ニ付テノ約ヲ踐ミシ  
 モントセハ倭之助金二郎カ藤兵衛土藏ヨリ衣類等ヲ竊取スルヤ其方ヘ約ノ如ク賣却スヘ  
 キ等ナルニ然ラズテ其方ト共ニ藤吉方ヘ持參シ藤吉ヘ賣拂ハントシタルコト第三前夜金  
 二郎倭之助ト共ニ會食シタルノミナラズ其末其方カ銀坐邊ニ買物有之外出云々ト自供ス  
 ル所ハ金二郎倭之助カ後ニ藤兵衛土藏ヘ遺留スル出刃庖丁ヲ三名ニテ銀坐邊ニ購求シタ  
 リトノ供出ニ照合スルコト第四前夜十二時頃歸宅シ曉五時頃出宅ノ旨ノ自供ニハ勉メテ其  
 夜少時間アリト家ニ在リテ寢臥セリトノ意ヲ含マセアリテ其少時間ノ趣ニ供出セサルヲ  
 得サルモノハ其實少シモ家ニ在リテ寢眠セザリシニ因ルモノト推測セラル、コト第五前夜  
 ノ約ヲ踐ミ衣類買取ノ爲メ矢立及ヒ判取帳ヲ携帶シテ豫定ノ場所ヘ至リシ旨供出スルコ  
 ト拘ハラズ當日捕コ就ク際該二品ナク之ヲ如何シタルヤト明言スル能ハサルコト第六着用  
 シタル紺木綿腹掛ハ藤兵衛方コト竊取セザラズル品ノ一ニ居リ正當ニ其方ノ所有ニ歸セ  
 シ証憑ナキコト第七其方所持ノ風呂敷ヲ以テ倭之助ガ贓品ヲ包ミ横濱ヘ行キタルコト第八金  
 二郎倭之助ガ其方ト共ニ竊盜ヲ爲サント謀リ共ニ宮本藤兵衛方ヘ至リ其方ヲ曉望セン  
 ノ土藏ヲ破損シテ忍入り衣類等ヲ竊取シタル旨ノ供出ニ憑リ其方ハ明治十四年十一月二

十五日夜倭之助ト共ニ金二郎ノ發意ニ同シ共ニ藤兵衛方土藏ヨリ損壞ノ所業ヲ以テ衣類  
 等ヲ竊取シタルモノト認定セサルヲ得ズ而シテ其所犯新刑法實施以前ニ在ルヲ以テ其第  
 三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比然スルニ舊法ニ於テハ竊盜條ニ依リ贓金貳百九圓余ナル  
 ニ付懲役十年從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年ニ該ノ新法ニ於テハ第三百六十八條ニ依  
 リ第三百六十九條ニ照シ第三百六十七條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ七月十五日以上六年三月以下  
 ノ重禁錮ニ該ス即チ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二年六月ニ處スル者ナリ  
 横山藤吉於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月二十日附テ以本院ニ差出シタル上  
 審狀ノ旨趣左ノ如ク

私ニ於テ今般ハ勿論是迄ニ於テモ竊盜ノ嫌疑何ソ聊請ムルコト無之誠ハ罰金贖タルコトモ無  
 之又警察署ヘ勾留サレタルコトモ無之既ニ去十一月二十五日ハ午後六時頃芝區愛宕下町二  
 丁目三番地熊井源藏ナル者ヘ兼テ人力車ヲ貸置キ候ニ付羽代取立ノ爲メ右宅ヘ參リ其節  
 隣家則チ砂村倭之助方ヘ立倚リ漸時ニシテ立歸リ其節砂村氏アトヨリ呼ビ留メ彼レ申ス  
 ニハ西應寺町車屋ニ古着有之依テ賣却イタメシレ度旨依類致サレ候ニ付承諾イタメ夫レ  
 リ婦宿致メシ家事向ノ用チナシ居候處兩人共宅ヘ參リ金圓等ハ至急入用ニ付明午前十時  
 頃ニ開達イタメシレトノ依順ニ候得共私古着商ハ昨今ノコト故ヘ柳原ノ市ヘ持參スヘクノ  
 約チナシ夫レヨリ兩人ハ私宅チ出候私ハ同夜十時頃橋邊ヘ賣物有之罷越用辨ノ後チ土  
 橋ノ龜倉ト申ス蕎麥店及ヒ牛店於テ飲食イタメ大ニ酒醉イタメ歸宅迄ハ覺ヘ有レ共其後  
 ハ覺ヘ無之候然レ共翌朝ハ兼テ約セシ所則チ西應寺町車屋ヘ參ル節ハ判取帳贓矢立唐サ



ノ前掛ヲ携帶イタル候ハ判然ナリ前夜龜倉ニ於テ飲食イタルハ當店ニ於テ能ク  
承知イタルハ判然ナレハ私ニ於テ窃盜イタサ、ルハ明瞭也

第一 明治十四年十一月二十六日早朝芝區西應寺町醫藥屋ノ角トニ於テ砂村倭之助ニ出  
合ヒ彼ヨリ小風呂敷ヲ一個受取共ニ車屋則チ竹内藤吉方へ持參リ候得共是ハ全ク不正ノ  
品ニアラス

第二 藤吉方ニ於テ物品ヲ見ルニ私不正品ト見做シ買ハサルヲ以テ金二郎倭之助横濱へ  
持行キ殘品ヲ藤吉ニ賣却ノ儀依頼イタルハ

第三 藤兵衛土藏へ遺留シタル出乃庵丁ハ私ニ於テ知ラサルハ警察署ニ於テ金二郎由  
立コハ四五日前ニ他ニ於テ購求シタル旨申立有之又砂村倭之助ハ前夜ト申立タリ現ニ警  
察署ヨリ私へ御問ヒ合セ有之然者兩人申立齟齬スルニ依テ私覺へ無キハ明瞭ナリ

第四 去十一月二十五日午後十二時頃土橋ノ蕎麥牛兩店ニ於テ熟醉イタル同時歸宅夫  
リ翌朝迄寢眠スルハ判然ナリ

第五 矢立判取帳唐サン前掛ハ二十六日朝家出之節携帶致タル右品ハ西應寺町ニ於テ  
捕縛ニ就キ警察署へ護送ノ際車ノ中へ遺失シタルヲ探偵方へ順ニ候得共其節更ニ受附  
ケス候

第六 着用シタル紺木綿腹掛ハ金二郎ヨリ買ヒ受ケタル

第七 風呂敷ハ藤吉ニ賣シタル

第八 瞭望シタル覺へ更ニ無之候

右ニ付前裁判不當ト相心得御本院ニ於テ公正至當ノ御判決アラント奉願上候也  
尙脱洩ノ分ハ追々補正書ヲ以テ上申仕候

明治十五年二月二十七日附シ以本院ニ差出シタル上告趣意補正書ノ旨趣左ノ如シ

明治十四年十一月二十六日朝名取金二郎砂村倭之助兩人竹内藤吉方へ持行キ不正品ヲ  
私買取ラヌ且ツ私ヨリ密告致シタルヲ推察致シ私ヲ遺恨ニ思ヒ共ニ不正之所業ヲ爲シ

ルハ兩人ヨリ申立有之候得共本年二月十四日御所刑ヲ受ケ翌十五日竹内藤吉ノ件ニ付  
私共三名豫審へ御呼出有之藤吉件御尋問ニ相成依テ右兩人ヨリ逐一上申仕候其節右兩人  
ヨリ今般ノ件何ノ難レヨリ密告致シタルヲ掛リ官へ細洞ヒ申上候處竹内藤吉外署名ヨ  
リ密告致シタルト仰セ有之候ニ付私義密告セサルハ兩人ニ判然致シ候然者右兩人私へ

對シ相濟サルトテ其節掛リ官へ今般其件ハ私關係無之ヲ上申仕候得共最早處刑ノ旨渡  
シ爲シタル後チニ於テハ致シ方無之トノ御達ニ付金二郎倭之助兩人共假監ニ於テ私へ右  
之趣ヲ申聞ケ今更如何申譯シ無之ト兩人ヨリ私へ平ニ詫ヒ入り候然者私義無罪ナルハ

明カナリ然ルニ東京輕罪裁判所ハ只一度ノ御調ヘニテ二年六月ノ所刑ヲ旨渡スハ實ニ不  
當ナリ官ハ申上候得シヤ就テハ右兩人至急御呼出御調ヘノ上私無罪放免有ラント願フ

明治十五年四月四日附シ以本院ニ差出シタル上告趣意補正書ノ旨趣左ノ如シ

第一條

去ル明治十一年二月中ヨリ「ローマチス」症ニ罹リ因テ東京大學醫學部ニ於テ治療ヲ請フ  
所大略登存ヲ歴テ治ス然ルニ難モ又明治十四年八月下旬前病發致シ被テ駒込草津温泉へ



罷趨療養致シ居候所京橋邊ニ住ム松田ト申ス醫師ト同宿致シ種々談話ノ末私病ヲ問ヒ候  
ニ付前云々相話シ候所夫レハ血ヲ取り候ヘハ全治スト申スニ付彼レニ依頼致シ候ヘハ承  
諾致シ呉レ彼レヲチマナ血ヲ取呉レ候ニ付少々疼ハ去ルト雖モ翌日ヨリ左腕右脚ノ血ヲ  
取り候爲メ癩疾ト相成夫レヨリ今日ニ至ル迄手足不相叶故ニ御當課ニ於テモ既ニ握リ飯  
シテ食シ居候所本年二月御所刑後當醫官ノ癩疾診斷ヲ請ケ候如斯シ不自由ナル身体ナリ  
故ニ右理由ヲ思考スレハ名取砂村兩人ノ所業ニ立合フ可キ間レ無ハ明白ナリ然ルチ東京  
裁判所ハ不審不當ノ判決ヲ下スハ是不服ノ第一也

第二條

第一條ニ記載シタル如ク手足不相叶候ニ付僅ノ所モ歩ルコト不能總テ車無クハ用辨スル  
コト能ハス故ニ明治十四年十一月二十六日早朝竹内藤吉方ヘ行シ節モ車ニテ參リ候既ニ其  
際モ西應寺町蕎麥屋ノ角ニ於テ砂村倭之助ニ出合ヒ候是等ノ事實ハ此ノ人力挽キノ能ク  
承知ノコトナリ此ノ人力挽キハ私兼テ乗付ノ者コト西ノ久保明舟町ノ者ニテ熊源ト申ス者  
ナリ然者右等ノ理由ヲ思考シ充分ニ審理ヲ盡ス可キカ公正至當ノ裁判ナルコト然ラスシテ  
去明治十四年十二月上旬ヨリ本年二月迄ニ唯一度ノ御呼出有之警察署ニ於テ爲シタル口  
供ノ寫ニ捺印ヲ爲シタル而已ニテ別ニ何等ノ御訊問モ無之ニテ判決ヲ與ヘ謂ユル審理ヲ  
盡サ、レ裁判ト旨ハサルヲ得ンヤ

第三條

儘ナル証據左ニ記載ス

一 第二條ニ記載シタル如ク該日乗車致シ候其人カ挽キ則西久保明舟町ニ住ム熊源ト申ス  
者ナリ此ノ者御召喚之上御調有之候ハ、私該日兩人ノ所業ニ立合サルコト判然スルコト第一  
ノ証也

一 右該日出家ノ節鎖ヲウ矢立及ヒ判取帳前掛ヲ携帶シテ出宅致シ候ト然者是等ノ理由ハ  
總テ私家内御呼出ノ上御調有之候得者不知不覺ノ罪ナルコト第二証也

一 右當夜十時頃ヨリ新橋邊迄買物有之罷越シ用辨後土橋ノ龜倉ト申ス蕎麥店同所牛店ニ於  
テ私登人ニテ飲食致シ十二時頃歸リ候トハ右兩家ノ主人能ク承知ノコト第三ノ証也

一 本年二月二十七日捧呈セシ補正書ニ記載シタル如ク名取金三郎砂村倭之助兩人御喚出  
之上御調有之候ハ右兩人ノ所業ニ立合サルコト第四ノ証也

第四條

第一條第二條第三條ニ記載シタル如ク理由有之ヲ警察署ハ勿論東京裁判所ニ於テモ逐一  
御訊問有之可クニ然ラスシテ判決ヲ下スハ不法ナリ又私ニ於テ素ヨリ不知不覺之罪ニハ  
承服スルヲ得ヌ因テ原裁判ヲ破毀シ更ニ御院ニ於テ公正至當ノ御判決アラノコト希望ス  
明治十五年五月二十四日附テ以テ本院ニ差出シタル上告退伸書ハ當時ノ事實ヲ認述スルニ  
止リ事重複コト沙ルチ以本案ニ掲記セヌ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ本案被告事件ハ前記宣告書ニ列記スル証憑ニ據  
リ共犯人ノ陳述ニ照シ原裁判所於テ認定シタル事實ニ於テ不當トスル麻アルコトナシ夫ノ



証ニ據リ事實ノ認定ヲナスハ原裁判所承審官ノ主權ナリトス而シテ横山謙吉カ記述スル  
處ハ官ニ事實ノ辨論ニ止ルノミナラス一モ原裁判所於テ事實ノ認定ニ供シタル証憑ニ反  
對ノ証左ナキヲ以テ上告ノ趣旨相立タサル者トス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年二月十四日東京輕罪裁判所於テ横山謙吉ニ言渡タル裁判ハ  
破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第七百九十八號

○判文(恐喝取財ノ件)明治十五年三月廿三日上告  
明治十五年六月二十日判決

群馬縣上野國北甘樂郡高瀬  
桂平民當時同縣同國同郡富  
岡町寄留

源 井 竹 次 郎

明治十五年三月  
四十年三月

明治十五年三月三日高崎治安裁判所ニ於テ前橋輕罪裁判所ヲ開キ右竹次郎ニ左ノ裁判ヲ宣  
渡シタリ

其方備無頼ノ徒ヲ招集シ賭場ヲ開キ加旃明治十四年十一月十三日同町浦野市五郎宅ニ於  
テ同郡警戸村大井田信太郎外數名ト賭錢博戯ヲナシ其際信太郎ハ駒札金貳拾圓丈ケ貸與  
シ后テ同人ニ於テ拾圓ハ該札ニテ返還シタリ而シテ汝ハ百圓貸シ渡シタル旨宣シ

源ケ右金ノ内拾圓ハ返戻セシヲ以テ殘金九拾圓ノ貸ニ相違之ナシ直チニ金圓ヲ返ケ返償  
スヘキト恐迫シ金百圓ヲ強取ナシタルモ汝ハ賭場開張ハ更ナリ浦野市五郎宅ニ立越シ信  
太郎外數名ト賭博手合或ハ貸元ナシシトハ曾テ覺無之旨陳辯スト雖モ第一捕吏ノ探偵番  
警察官ノ証言第二町吏ノ具狀書第三浦野市五郎夫妻ノ始末書登時共犯黒浦嘉平等及大井  
田信太郎ノ上申書等ノ乘証ニ因テ觀之ハ罪狀皎々トシテ明ラケリ故ニ汝ハ恒ニ無  
頼ノ徒ヲ集メ刺ヘ恐喝シ財ヲ得ル者ト認定ス因テ右科所犯刑法頒布以前ニ係ルヲ以テ舊  
律ニ因ルルハ二罪俱發スルヲ以テ一重キ賊盜律恐喝取財條ニ照シ竊盜準シテ論シ一等ヲ  
加ヘ懲役七年ニ可處處刑法第三條ニ基キ新舊ノ法ヲ比照シ其第三百九十條ニ照シ重禁錮  
三年十一月處ス

月下ニ字ヲ脱  
スルカ元ノマ

竹次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月九日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如ク  
自分儀ハ捕職營業罷在候處明治十四年十一月十三日同町浦野市五郎宅ニ於テ同郡警戸村  
平民大井田信太郎黒浦嘉平等及ヒ小林民治郎等カ賭錢博戯ヲ爲シ居ルニ付自分モ其手合ニ  
加リ右小林民治郎ヨリ金貳圓駒札ヲ買取リ供ニ賭博ヲ爲シタルニ僥倖ニモ金貳拾七圓騰  
チテ得タルニ付其場ヲ立去リ自宅ニ引取リ候尤モ右手合中小林民治郎ト大井田信太郎ト  
ノ間ニ於テ金圓貸借上ノ事柄ニ付紛紜ヲ生シ種々口論致居候儀ハ傍觀罷在候得共私關係  
無之處明治十四年十二月二日突然巡查衆派出ノ上自分ヲ捕縛ノ上群馬縣富岡警察署ニ御  
拘引ニ相成同月四日群馬縣ニ御差廻ニ相成御糾問被爲在候ニ付前書ノ次第ヲ逐一上申仕  
候處明治十五年一月九日親戚新井五郎平ニ保管セラレ同年三月三日高崎治安裁判所ニ於



テ前橋輕罪裁判所ヲ開カレ自分ヲ召喚ノ上刑法第三百九十條ニ照シ申渡シ有之然レモ自分於テハ前ニ陳述セシ通り無賴ノ徒ヲ集メ又ハ恐喝シテ財ヲ得ル等ノ所爲ヲナシタルヲ曾テ無之ニ付如斯處刑ヲ請フヘキ謂レ無之ニ付上告シテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

明治十五年五月十八日左ノ追伸書ヲ差出シタリ

自分義被告事件ニ付明治十五年三月三日高崎治安裁判所ニ於テ前橋輕罪裁判所ヲ開キ官渡アリタル裁判ヲ不當トナシ嚮ニ上告趣意書捧呈仕候處檢察官ハ之ニ對シ答辯書ヲ捧呈セリ然リ而シテ其答辯書ノ趣旨タルヤ富岡町戸長代理黒澤大三カ具狀書及ヒ富岡町警察署詰警部西郷英益カ証告書同署詰群馬縣雇原茂作等カ探偵書又群馬縣雇新藤理之助等カ警部西郷英益ニ差出シタル探偵書ト大井田信太郎カ差出シタル上申書等ニ依テ視レハ自分ハ恒ニ無産業ニシテ平素賭博ヲ業トシ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場ヲ開張シテ以テ良民ヲ誘導シ利ヲ圖リタルヤ明白ナリトノ答辯ナリシカ自分ハ從來無産業ノモノニ非ス業ハ桶職ニシテ年々其販賣高ニ應シ多少ノ地方稅ヲモ賦課セラレテ上納シ居リシハ已ニ産業ニ對スルノ義務ナル事ハ瞭々トシテ蔽フヘカラス果シテ然ラハ檢察官ハ事實ノ取調ヲナサズシテ片言ヲ容レ自分ヲシテ終ニ無産業ノ者トナシタル事疑ナシ又曰ク檢察官ハ上告趣意書ニ依レハ公廷及ヒ群馬縣本署ニ於テ供述ヲ變換シ云々トアレモ個ハ是レ何等ノ証左アツテ然ルカ實ニ了解不仕自分ニ於テハ既ニ上告狀ニモ記載アル如ク前ニ陳述セシ通り無賴ノ徒ヲ集メ又ハ恐喝シテ財ヲ得ル等ノ所爲ヲナシタル事ハ曾テ無之旨始終一徹ニ上伸ニシテ毫モ何レノ官衙ニ於テ供述ヲ變換セシ事決シテナケレハ一トシテ其變換セ

シトスル自白ノ証據ハアヲサルヘシ然ルテ原裁判所ニ於テ粗漏ニモ夫等ノ私明ヲ遂ケスシテ刑法第三百九十條ニ依リ裁判セラレタルハ益服從シカタク是則原裁判所不當トスル要點ニシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ夫然リ而シテ又答辯書ノ末項ニ明治十五年二月廿七日被害人大井田信太郎カ差出シタル上申書ニ云々中零暴威ヲ示シ金九拾圓ヲ強取シタリトアリ又浦野市五郎夫妻ノ始末書ニ當時何等ノ金ナルカハ知ラサレトモ信太郎カ被告人ノ面前ニ金圓ヲ並ヘ置タルヲ親受タリトアルニ依テ原裁判官渡シハ事實及ヒ法律ニ於テ一ツモ齟齬又ハ錯誤ナキモノト思考ストアレトモ自分ハ既ニ前條ニ述タル如ク大井田信太郎及ヒ小林民治郎黒浦嘉平等ノ手合ニ加リ錢賭ケ博戯ヲナシタルニ僥倖ニシテ金貳拾七圓ノ勝ヲ得タルマテナシテ右手合中小林民治郎ト大井田信太郎トノ間ニ於テ金圓貸借上ノ事柄ヨリ紛紜ヲ生シ口論セシ義ハ傍觀聽在候得共素ヨリ自分ハ關係セサル事故其場ヲ立去リ歸宅致シ候次第ニテ決シテ無賴ノ徒ヲ集メ恐喝シテ財ヲ得ル等ノ事ハ無之事實ニ齟齬アル裁判ニ付上告趣意書ヲ擴張セシカ爲尙ホ茲ニ辯明書ヲ捧呈仕候也

辯明

上告事件ヲ原書類ニ就テ鑑査スルニ大井田信太郎ノ始末書ニ「私儀明治十四年十一月十三日富岡町浦野市五郎ノ二階ニ於テ名前不相知者ト博奕ヲ致候内只頭字ヲ民トカ竹トカ付箋新井竹次郎トアリ」判然不仕候得共其人ヨリ私ニ金貳拾圓丈ケノ駒ヲ與ヘ其駒ヲ金拾圓丈ケ失ヒ殘リノ駒ヲ右人ヘ相返シ候處右人ノ申事ニ今迄ニ都合百圓ノ貸ノ處ニ駒ニテ金拾圓入リ候間引キ去リ金九拾圓ノ貸ニ有之直ニ調達致候様被申實ニ濫入私ハ金拾圓ノ外借用



無之ヲ申候得共彼ハ金九拾圓ヲ貸ニ相違無之云々(市川己之作ト申入ヨリ金百圓借受右ノ内金九拾圓相渡シ候得共金九拾圓ハ不承知ノ金ヲ取ラレ候ニ相違無之候得共素ヨリ不正ノ所業致シ候ニ付其儘差置其場ヲ立退キ候次第御尋問ニ預リ奉忍縮候トアリテ竹次郎カ信太郎ヨリ強取セシ金圓ハ賭博ノ紛紜ニ係ル所爲ナリトス其他共犯黒浦嘉平三浦榮次郎黒澤友吉房主浦野市五郎等ノ始末書ニ於テモ賭博犯ノ事實ハ明白ナリトス加之富岡警察署長西郷英益ノ證書及富岡警察署詰新藤理之助田島仙藏茂原茂作等ノ申告書ニ據ルニ右ハ賭博上争論ノ授受金ナレハ假令強取ニ出タルニモ審判上採捕スヘキ事柄ニ非ヌ何トナレハ本件ノ原由スル賭博罪ヲ問フモノナレハ非現行ニ係ル上ハ又問フヘキ罪ナレ果テ原由スル賭博罪ノ非現行ニシテ追科スヘキ罪ニ非ルモノナルニ反テ其現場ノ授受金ニ對スル既往ノ罪ヲ審判スヘキ理由ナキナリ然ルニ原裁判所カ(無賴ノ徒ヲ集メ刺ハ忍喝シ財ヲ得ル者)ト爲シ新舊法ヲ比較シ刑法第三百九十條ニ照シ處分シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ不法ノ裁判ナリトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十五年三月三日高崎治安裁判所ニ於テ前橋輕罪裁判所ヲ開キ新井竹次郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如ク

新井竹次郎

賭博争論上金圓ヲ收受シタルモ罪ヲ問フヘキナレ  
第七百九十九號

○判文(詐爲官文書ノ件) 明治十五年二月廿八日上告  
明治十三年六月廿二日判決

熊本縣熊本區小幡町八十七

番地荒木正祐方同居士族

三 澤 淡 水

明治十五年一月  
三十九年五月

右淡水ニ明治十五年一月廿七日熊本輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ宣渡シタリ

其方儀熊本縣官ノ被告書及ヒ証人林良隆小寺嘉七郎及ヒ其方ノ陳述ニ據ルニ明治十年以來熊本縣奉職中其監守スル處ノ官金貳百三拾貳圓三錢九厘ヲ私用シ又擅ニ林良隆所有スル六百六十圓ノ公債証ヲ抵當トシ林良隆代理ノ名義等ヲ以テ小寺嘉七郎外三名ヨリ金四百五拾五圓ヲ欺取又熊本縣令代理松本大書記官ノ公債証預リ証書ヲ詐爲シタルヲ明白ナリ然ルニ所犯刑法頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條未項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新法ニ於テ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者刑法第三百九十條重禁錮四年官ノ文書ヲ偽造シタル者刑法第二百三條輕懲役七年官吏自ラ監守スル處ノ財物ヲ竊取シタル者刑法第二百八十九條及ヒ明治十四年第八十一號布告輕懲役八年自首スルヲ以テ仍ホ刑法第八十五條及ヒ第六十九條ニ依リ重禁錮五年右三罪ハ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ官ノ文書ヲ偽造シタル罪ヲ以テ論ス可キ者トス又舊律ニ於テ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者賊盜律詐欺取財條及ヒ竊盜條贓金百貳拾圓以上懲役十年官ノ文書ヲ偽造シタル者詐爲律詐爲官文書條懲役三年縣ノ文書ハ二等ヲ減シ懲役二年官吏自ラ監守スル處ノ財物ヲ竊取シタル者



明治九年第百一號布告及名例律犯罪自首條賍金百五拾圓以上懲役終身自首シテ賍金  
可ラサルヲ以テ二等ヲ減シ懲役七年右三罪ハ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ賊  
盜律詐欺取財條ノ罪ヲ以テ論ス可キ者トス因テ其輕キ刑法第二百三條及ヒ明治十四年第  
八十一號第八十二號布告ニ依リ輕懲役七年ノ刑ニ處シ除族ヲ附加ス

但刑法附則第五十八條ニ依リ熊本縣及ヒ吉井廣次外四人ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲サシム  
淡水ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月一日本院ニ上告ノ要旨左ノ如シ

第一條 官ノ文書ヲ偽造スル云々一件ニ係ル事

刑法第二百三條ニ曰ク官ノ文書ヲ偽造シ云々輕懲役ニ處スト然ルニ新律綱領ニ依ルニ  
ハ本案ノ如キハ懲役二年ニ該ルモノナリ然ラハ則チ刑法第三條第二項新舊比照ノ例ニ  
違キ輕キヲ以テ論シ一ノ舊法ヲ以テ論セラル可キ法理ニ該ルモノナリ然ルチ却テ新法  
ヲ以テ論セラルタルハ不當ノ公判ナリトス第一主點ナリ

第二條 監守スル處ノ財物ヲ竊取シタル云々一件ニ係ル事

本案一件ニ就テハ會テ其筋ハ自首シ其情狀ニ於テハ第一號証ノ如ク實際官ノ不明瞭ヨ  
リ賍金調達漏レコナリタルモノコシテ既ニ帳簿ノ向キ合ヒ濟ナリトノ報告ヲ得タルチ  
以テ明治十四年一月十二日ノ熊本裁判所公判ニ於テモ自首シ賍金了シタルニ依リ其罪  
ヲ免セラレタル程コシテ此節ノ分ハ其一半ノ命員ニ係ル事ナリ若シ夫レ當時ニ於テ官  
不明瞭ニ非ス帳簿向キ合ヒ等ノ報告ナカリセハ一同自首セシモノナルヲ以テ賍金ノ如  
キモ悉數了ス可キ筈ナリ然ルチ此不明瞭ヨリシテ賍金了ラサリシモノナルカ

ヲハ其情狀ニ於テ刑法第八十九條及第九十條ノ所分アレハ熊本輕罰裁判所ノ所置ニ於  
テ決シテ不當ニ非ラス却テ此處分アルハ當然ニシテ此處分ナキハ不當ノ處分ナリトス  
然ラハ本案ニ於ケルモ亦自首スルヲ以テ一等ヲ減シ而シテ又一等若シハ二等ノ酌量減  
輕法ヲ尽シ減輕セラル可シ果シテ然ラハ本案ハ則チ重禁錮五年以下ノ刑ニ當ルモノナ  
リ然ルニ此酌量減輕ナキハ不當ノ公判言渡シナリトス第二主點ナリ

抑モ本案ニ就キ官ニ自首セシハ總計五百三拾圓余ナリ而シテ三百圓ハ義キニ事明瞭セ  
シチ以テ自首免罪ノ言渡シアリ殘リ貳百三拾圓ニ至リ今回ノ言渡シアリタリ然ルニ當  
時ニ於テ五百三拾圓ノ金額ヲ調理シ徵收ニ應ス可キ爲メ隆ヘ置キタルハ正木六等屬  
ノ親シク知ル處コシテ官ニ於テ既ニ帳簿向合ヒタリト通知アリタラハ直チニ右金貳百  
三拾圓余ハ徵了ス可キ精神ノ處遂ニ報告ナキヲ以テ其事ヲ今日ニ殘セシ程ナリ實ニ事  
情ニ於テ不幸ナリト云フ可キナリ依テ是等ノ情由ヲ酌量アルハ敢テ不當ニ非ルモノト  
推考ス

第三條 人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタル云々一件ニ係ル事

本案一件ニ就テハ明治十四年六月十六日紀問掛ハ差出シタル始末書第十項記載ノ通事  
發覺以前明治十三年十二月二十日頃義妹「テイ」ヲ以テ林良隆ヘ首服致シ既ニ承諾ノ上  
右事件會テ委託致シ置キタル實弟原田宗四郎ハ良隆直接示談ヲ遂ケ右詐爲ノ文書ニ對  
スル公債証書六百六拾圓返辨ノ手續等夫々私和ノ談判相整ヒタルハ良隆ヨリ宗四郎ヘ  
遺シタル第三號証ニ依リ明瞭ナルカヲハ本案ハ相對自談ノ菓ヲ結ヒタルモノナレハ敢



ヲ其隆へ對スルノ罪アル可ヲス

小寺嘉七郎ヨリ金三百五拾圓借リタル始末ハ糾問掛ニ於テ口供摺印シタル通りニシテ其林其隆ノ代理ニ非ル理由ハ兼テ嘉七郎へ差入レ置キタル借用証文面ニ判然タリ而ルニ該証書小寺嘉七郎ニ於テ敢テ包藏致スト雖モ此証書ニ基キ判決アラナイヲ請求ス固ヨリ此証書ニ基キハ則チ小寺嘉七郎ヲ欺キタルノ理由ニ非ルヲ判然ス嘉七郎ニ於テ本案借用証書ハ遺失セシ由チ以テ供述スト雖モ証書ヲ遺失シ委任狀ノミヲ所持スルノ理由ナシ然ルニ此委任狀タルヤ被告人カ差入レタルモノニ非ス尤モ自己ノ辨理ヲ計リ本案公債証書ヲ以テ和氣仁三郎ナル者ヨリ金員若干ヲ借用シタル節林其隆ノ委任狀差添アルハ被告人借用ノ際周旋人出田美昌ヨリ請取リタル段嘉七郎申立ルト雖モ右委任狀ハ毫モ存セサル事柄ニシテ嘉七郎取持ヘタルモノト推考ス

相對自談ニ出テタル事柄タルヤ明治十四年七月六日糾問掛へ差出シタル追始末書ニ記セシカ如ク其証憑タルヤ吉井廣次へハ充分熟談ヲ以テ嘉七郎代理寺尾小一郎ニ對シ五百圓ノ公債証書抵當品替等ノ示談ノ仲裁ヲ願ミタル節自分所有ノ地券証ヲ以テ談判ヲ遂ケタル末小一郎ヲ招キ廣次列席ヲ以テ充分ナル約定ヲ致シ度旨申遣シタル際ノ書簡即チ第二號証ノ通り判然ナリ

且ハ林其隆ニ係ル一件ハ官ノ文書ヲ詐爲シタル事其隆へ打明シ該公債証書他へ抵當ニ差入レ置キタル分ハ總テ取戻シ返辨可致趣キ私和ノ談判ヲ遂ケ承諾シタル末其隆自ラ債主々々へ干渉シ該公債証書流物トナラサル様示談ヲ爲シタル等ヲ見レハ吉井廣次并

ニ寺尾小一郎篤ト承知セシコナレハ敢テ罪アル可キノ事由ニアラス  
吉井廣次ヨリ借用ノ分モ實際市原宮太郎及ヒ北國某ヨリ金員貸渡シタル杯申スト雖モ自分ニ於テ同人等ト直接約定シタル事無之則チ廣次へ對シタル借用金ナリ然ルニ此金百五圓ハ其隆ノ代理ト稱へ借用シタルハ追始末書ニ詳記スルカ如ク實事欺誑ノ所爲ニ非ス

右數項ニ掲グル若キ明瞭ナル事由アルカラハ本案ニ對シテハ罪トナル可キ事柄ナシトスル第三主點ナリ

第四條

第三條ハ無罪ノ判決タル可キ筋合ナルニ依リ爰ニ論ス第一條ト第二條トハ即チ數罪俱發例ニ照シ一ノ重キヲ以テ論セラル、モ今回言渡シニナリタル如キ重刑ニ當ラス依テ本件ハ即チ刑法第三條及ヒ數罪俱發例ニ背キタル所分并ニ刑法第八十九條第九十條ノ所分ナキハ全ク擬律ノ錯誤ト確定ス第三條ニ於テハ全ク擬判ノ錯誤ト確定ス依テ尙審案詳究相成度此段証憑書寫相添申上候以上

辨明

原一件書類ニ就テ被告三澤淡水ガ熊本縣七等屬在勤中監守スル處ノ官金三百八圓余ヲ私借シタルノ末別途調金シ首服シタルモノ即明治十四年一月十二日贓物ヲ還給シタル未發自首ニ因リ免罪ノ宣告ヲ受ケタリ既ニ此免罪ノ判決ヲ經タルノ後更ニ發覺ニ係ル不盡ノ贓貳百三拾貳圓餘ノ科ハ更ニ論スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ前キニ首免ヲ受ケタル



者ト同一視シ之ヲ竊賊中ニ括有シ自首シテ贓物ニヘカラサルヲ以テ論シ二等ヲ減シ懲役七年ト申渡シ且二罪俱發併贓ノ例ニ據ラザリシハ不法ノ裁判ナリ之ヲ法律ニ照スニ刑法第二百八十九條官吏自ヲ監守スル處ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ストアリ而ルコト原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第六十九條ニ據リ一等ヲ減輕シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ相當ナリトス

又林長隆ヨリ預カリシ公債証書ヲ以テ小寺嘉七郎吉井廣次輩ヨリ金圓ヲ欺取シタルハ刑法第三百九十九條ニ據リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

又熊本縣令官岡敬明代理同縣大書記官松本鼎署名ノ公債証書預リ証ヲ偽造シタルハ刑法第二百三三條ニ據リ輕懲役六年以上八年以下トス

而テ數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條及刑法第百二條第二項ニ據リ刑法第二百三三條ニ照シ處斷スヘキモノトス然ルニ刑法實施前ノ犯罪ナルヲ以テ刑法第三條第二項及明治十四年第八十一號布告ノ旨趣ニ遵ヒ之ヲ舊法ニ比照スルニ監守スル處ノ官金ヲ盜ムモノ明治九年第百一號布告監守盜條例贓金百五拾圓以上懲役終身トス詐欺財ヲ取ルモノ賊盜律詐欺取財條贓金百貳拾圓以上懲役十年トス而テ二罪俱發以重論條其贓罪ニ係ル者ハ重贓ヲ以テ輕贓ニ併セ重キニ從テ科ストアルニ據リ詐欺取財贓金百貳拾圓以上懲役十年ノ刑ハ監守盜贓金百五拾圓以上懲役終身ノ區域内ニアルヲ以テ懲役十年ノ刑ハ輕ニヨリ論セス

然ルニ其監守盜ノ科ハ情狀憫誦スヘキヲ以テ酌量シ一等ヲ減シ懲役十年トス大書記官松本鼎ノ文書ヲ詐爲セシハ詐僞律官文書條縣ノ文書ハ二等ヲ減ストアリ懲役二年トス仍ホ二罪俱發ノ例ニ據リ一ノ重キ懲役十年ニ處斷スヘキモノトス

右新舊法ヲ對比スルニ監守自盜ノ罪ハ新法ヲ輕トス詐欺取財ノ罪ハ新法ニ於テハ刑法第百二條第二項ノ例ニ據リ舊法ニ於テハ併贓ノ例ニ據リ論セス官ノ文書ヲ僞造セシノ罪ハ舊法ヲ輕トス因テ輕キ刑ノ中ニ就テ仍ホ二罪俱發ノ例ニ照シ更ニ一ノ重キ刑法第二百八十九條及刑法第六十九條ニ據リ重禁錮ニ處斷スヘキモノナリ

但大川舍出納掛小寺嘉七郎及吉井廣次等ニ對シ曩ニ林長隆ヨリ預ル處ノ長隆所有ノ公債証書六百六拾圓ヲ擅ニ抵當トナシ或ハ長隆代理ノ名義ヲ揭ケ或ハ自分ノ名義ヲ用ヒ長隆ノ承諾ニ係リシモノノ姿ニ申詐リ以テ金四百五拾五圓ヲ取得タルハ淡水ニ於テ事未タ發覺セサル以前已ニ事主ノ處ヘ首服シ且金圓返濟方ノ示談等ヲ遂ケタルニ何レモ曩贓ナシ承知ヲ受ケタル末ナレハ長隆嘉七郎等ト對スルノ罪アルヘカラサルナリトノ旨趣ヲ上告狀第三條以下ニ縷々申立ルト雖長隆嘉七郎等ニ於テハ淡水ヨリ曾テ其罪狀ノ首服又ハ金圓返濟方ノ示談ヲ受ケタルヲ私和セシモナキトノ始末書上申書等ニ明瞭ニ記載シアルヲ觀レハ上告ノ旨ハ一モ信スルニ由ナク又他ニ上告ノ旨ヲ真正ト認メ得ヘキ何等証憑モアラサル上ハ到底採用スルニ足ラサルモノトス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十五年一月廿七日熊本輕罪裁判所ニ於テ三澤淡水ニ申渡シタル



裁判ヲ平議スル左ノ如シ

三 澤 淡 水

二七二

刑法第二百八十九條及刑法第六十九條ニ照シ情狀酌量シ

重禁錮四年

但明治十四年第八十一號布告第六條第十條ニ據リ附加刑ヲ適用セス

第八百號

○判文(官文書詐爲ノ件) 明治十五年三月八日上告  
明治十五年六月廿二日判決

熊本縣熊本區小幡町八十七

番地荒木正祐方同居士族

三 澤 淡 水

明治十五年一月  
三十九年五月

明治十五年一月廿七日熊本輕罪裁判所ニ於テ右三澤淡水ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方備熊本縣官ノ報告書及ヒ証人林真隆小寺嘉七郎及ヒ其方ノ陳述ニ據ルニ明治十年以來熊本縣奉職中其監守スル處ノ官金二百三拾貳圓三錢九厘ヲ私用シ又擅ニ林真隆所有スル六百六拾圓ノ公債証ヲ抵當トシ林真隆代理ノ名義等ヲ以テ小寺嘉七郎外三名ヨリ金四百五拾五圓ヲ欺取又熊本縣令代理松本大書記官ノ公債証預リ証書ヲ詐爲シタルト明白ナリ然ルニ所犯刑法頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新法ニ於テハ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者刑法第三百九十條重禁錮四年官ノ文書ヲ偽造

シタル者刑法第二百三條輕懲役七年官吏自ラ監守スル處ノ財物ヲ竊取シタル者刑法第二百八十九條及ヒ明治十四年第八十一號布告輕懲役八年自首スルヲ以テ仍ホ刑法第八十五條及ヒ第六十九條ニ依リ重禁錮五年右三罪ハ刑法第一百條ニ依リ一ノ重キ官ノ文書ヲ偽造シタル罪ヲ以テ論ス可キ者トス又舊律ニ於テハ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者賊盜律詐欺取財條及ヒ竊盜條金百二拾圓以上懲役十年官ノ文書ヲ偽造シタル者詐僞律詐爲官文書條懲役三年縣ノ文書ハ二等ヲ減シ懲役二年官吏自ラ監守スル處ノ財物ヲ竊取シタル者明治九年第一號布告及ヒ名例律犯罪自首條金百五拾圓以上懲役終身自首シテ贓徵ス可ラサルヲ以テ二等ヲ減シ懲役七年右三罪ハ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ賊盜律詐欺取財條ノ罪ヲ以テ論ス可キ者トス因テ其輕キ刑法第二百三條及ヒ明治十四年第八十一號第八十二號布告ニ依リ輕懲役七年ノ刑ニ處シ除族ヲ附加ス

但刑法附則第五十八條ニ依リ熊本縣及ヒ吉井廣次外四人ニ對シ損害ノ賠償ヲ爲サシム熊本輕罪裁判所檢事補中島孝叔ハ右ノ裁判ヲ不法トシ明治十五年二月三日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

被告三澤淡水於テ熊本縣舊七等屬奉職中明治十年以降自ラ監守スル處ノ官金貳百三拾余圓ヲ竊取セシハ刑法第二百八十九條官吏自ラ監守スル處ノ金穀云々トアルニ依リ輕懲役八年ノ處明治十四年一月十二日首免ヲ經タル監守盜贓金三百圓ト同シ明治十三年十二月十三日熊本縣出納課長一等屬高津慎ハ首出半數以上ヲ還償シタルヲ以テ刑法第八十五條第八十六條ニ依リ通シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮三年七月又曾テ林真隆ヲ預リシ處ノ公

二七三



債証書ヲ以テ明治十二年六月以降小寺嘉七郎及吉井廣次等ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルハ  
 刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ云々トアルニ依リ重禁錮四年且右公債証書ヲ抵當トナセシ  
 事實ヲ隱蔽セン爲メ明治十三年一月二十八日附熊本縣令富岡敬明代理同縣大書記官松本  
 鼎署名ノ公債証書預証ヲ偽造シタルハ刑法第二百三條官ノ文書ヲ偽造シ云々トアルニ依  
 リ輕懲役七年數罪俱發セシキヲ以テ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ輕懲役七年ニ處スヘキモノ  
 ナリ然ルニ所犯刑法施行以前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ舊律ニ比照スルニ監  
 守スル所ノ財物ヲ竊取シタル者明治九年第百一號布告監守盜條例ニ依リ贓金百五拾圓以  
 上懲役終身自首シテ贓徵スヘカヲサルヲ以テ各例律犯罪自首條末項ニ依リ本刑ニ二等ヲ  
 減シ懲役七年詐欺シテ財物ヲ取ル者賊盜律詐欺取財條第一項ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓  
 金百貳拾圓以上懲役十年熊本縣大書記官松本鼎ノ文書ヲ詐爲セシハ詐僞律詐爲官文書條  
 第一項縣ノ文書ヲ詐爲スル者ヲ以テ論シ懲役二年二罪俱發以重論條ニ依リ一ノ重キ詐僞  
 取財懲役十年ニ處スヘキニ處詐爲文書ノ罪其刑新法重シテ監守盜及ヒ詐欺取財ノ二罪  
 ハ其刑舊法重シ仍テ其輕キ刑法第三百九十條ニ從ヒ重禁錮四年ノ上明治十四年第八十一  
 號布告第九條ニ依リ除族ヲ附加スヘキモノニ非ス然ルニ熊本輕罪裁判所ニ於テ刑法第二  
 百三條及ヒ明治十四年第八十一號同年第八十二號布告ニ依リ輕懲役七年ノ刑ニ處セシハ  
 不當ノ裁判ト認メ關係書類ヲ添ヘ上告候也

辨明

原一件書類ニ就テ被告三澤淡水ガ熊本縣七等屬在勤中監守スル處ノ官金三百八圓余ヲ私

借シタルノ末別途調金シ普服シタルモノ即明治十四年一月十二日贓物ヲ還給シタル未發  
 自首ニ因リ免罪ノ宣告ヲ受ケタリ既ニ此免罪ノ判決ヲ經タルノ後更ニ發覺ニ係ル不盡ノ  
 贓貳百三拾貳圓餘ノ科ハ更ニ論スヘキモノトス然ルニ原裁判所ガ前キニ首免ヲ受ケタル  
 者ト同一視シ之ヲ舊贓中ニ括有シ自首シテ贓徵スヘカヲサルヲ以テ論シ二等ヲ減シ懲役  
 七年ト申渡シ且二罪俱發併贓ノ例ニ據ラザリシハ不法ノ裁判ナリ之ヲ法律ニ照スニ刑法  
 第二百八十九條官吏自ラ監守スル處ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ストアリ而  
 ルニ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第六十九條ニ依リ一等ヲ減輕シ二年以上五年以下ノ  
 重禁錮ニ處スルヲ相當ナリトス  
 又林長隆ヨリ預カリシ公債証書ヲ以テ小寺嘉七郎吉井廣次輩ヨリ金圓ヲ欺取シタルハ刑  
 法第三百九十條ニ據リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附  
 加ス第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付  
 ス  
 又熊本縣令富岡敬明代理同縣大書記官松本鼎署名ノ公債証書預リ証ヲ偽造シタルハ刑法  
 第二百三條ニ據リ輕懲役六年以上八年以下トス  
 而テ數罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條及刑法第百二條第二項ニ據リ刑法第二百三條ニ照  
 シ處斷スヘキモノトス然ルニ刑法實施前ノ犯罪ナルヲ以テ刑法第三條第二項及明治十四  
 年第八十一號布告ノ旨趣ニ違ヒ之ヲ舊法ニ比照スルニ監守スル處ノ官金ヲ盜ムモノ明治  
 九年第百一號布告監守盜條例贓金百五拾圓以上懲役終身トス詐欺財ヲ取ルモノ賊盜律詐



欺取財條賍金百貳拾圓以上懲役十年トス而テ二罪俱發以重論條其賍罪ニ係ル者ハ重賍ヲ以テ輕賍ニ併セ重キニ從テ科ストアルニ據リ詐欺取財賍金百貳拾圓以上懲役十年ノ刑ハ監守盜賍金百五拾圓以上懲役終身ノ區域内ニアルヲ以テ懲役十年ノ刑ハ輕ニヨリ論セズ然ルニ其監守盜ノ科ハ情狀憫諒スヘキヲ以テ酌量シ一等ヲ減シ懲役十年トス大書記官松本鼎ノ文書ヲ詐爲セシハ詐僞律官文書條縣ノ文書ハ二等ヲ減ストアリ懲役二年トス仍ホ二罪俱發ノ例ニ據リ一ノ重キ懲役十年ニ處斷スヘキモノトス

右新舊法ヲ對比スルニ監守自盜ノ罪ハ新法ヲ輕トス詐欺取財ノ罪ハ新法ニ於テハ刑法第百二條第二項ノ例ニ據リ舊法ニ於テハ併賍ノ例ニ據リ論セヌ官ノ文書ヲ僞造セシノ罪ハ舊法ヲ輕トス因テ輕キ刑ノ中ニ就テ仍ホ二罪俱發ノ例ニ照シ更ニ一ノ重キ刑法第二百八十九條及刑法第六十九條ニ據リ重禁錮ニ處斷スヘキモノナリ

但明治十四年第八十一號布告第六條第十條ニ據リ附加刑ヲ適用セス

判決

前辨明ノ筋合ナルニ付明治十五年一月廿七日熊本輕罪裁判所ニ於テ三澤淡水ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

三澤 淡水

刑法第二百八十九條及刑法第六十九條ニ照シ情狀酌量シ

重禁錮四年

第八百一號

○判文〔強盜ノ件〕明治十五年三月廿二日上卷  
 明治十五年六月廿二日判決

京都府上京區第拾六組榎本

村平民

中 林 藤 七

明治十五年二月 五 十 五 年

明治十五年二月二十二日京都輕罪裁判所ニ於テ右中林藤七ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

京都輕罪裁判所ハ豫審判事補高橋寬道ヨリ汝カ擅ニ人ヲ監禁シ食物ヲ與ヘス及脅迫暴行ヲ以テ財物ヲ強取シタル事件ヲ本衙ニ移ヌノ旨渡ニ因リ公訴ヲ受理シ爰ニ明治十五年二月二十一日公廷ヲ開キ審理ヲ遂クル處

檢事補山田彌八郎陳述ノ要領汝ハ明治十四年十一月九日妻「トミ」ト共ニ上京區第七組南辻町前川嘉兵衛ヲ自宅ニ監禁セシモノトス其証憑ハ被告者嘉兵衛并ニ長男前川常之介ノ告訴狀証人西川卯兵衛ノ陳述巡查ノ報告書及ヒ汝カ妻「トミ」ヨリ差出シタル証書類等ニ據リ之ヲ証トス

汝ニ於テハ會テ前川嘉兵衛ヘ對シ告訴シタル事件ニ付示談ノ爲メ參リタル次第ニテ自宅ヘ監禁シ食物ヲ與ヘス又ハ所持ノ証書類ヲ奪取等ノ一決テ之レナキ旨ノ答辨ス

仍テ汝カ所爲及ヒ相當官吏ノ作タル調書并ニ被害者ノ告訴狀等ヲ審按スルニ汝ハ明治十四年十一月九日京都裁判所ヨリ妻「トミ」前川嘉兵衛同道自宅ヘ立歸リ表戸ヲ閉テ殊ニ平常ニ異ナリ麻繩ヲ以テ之ヲ結束セシハ近隣ノ小童若シ來リテハ示談ノ妨害タルニ付取締



リ置シトハ探信シ難シ又前川常之介カ養父嘉兵衛汝カ宅ニ留置セラレ居ルヲ聞知シ尋行  
 キシモ戸ヲ開カサル故父ノ名ヲ呼ビタルニ嘉兵衛ハ至急連レ飯リ吳レヨト答ヘタルニ因  
 リ直ニ其事ヲ巡査ニ告訴セシカハ巡査ハ常之介同道汝カ宅ニ至リシニ汝ハ巡査ノ指圖ニ  
 應セス却テ巡査ニ向ヒ警察官ノ出張スル用ナシ杯申張リ戸ヲ明ケサル而已ナラス又「ト  
 」ヨリ提供シタル証書等ニ因テ事實ヲ推測スルニ汝ハ明治十四年十一月九日「ト」ト  
 共ニ前川嘉兵衛ヲ自宅ニ監禁シ該食ヲ與ヘス暴行ヲ以テ其所持ノ証書類ヲ強取シタル者  
 ト確認ス乃チ之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百二十三條擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責又ハ  
 飲食衣類ヲ屏去シ其他苛酷ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓  
 以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百七十八條人ヲ脅迫又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取  
 シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス同第三百七十九條強盜左ニ記載シタル情狀アル  
 者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ一二人以上共ニ犯シタル時同第三百條重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ  
 經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ストアルニ依リ一ノ重キ輕懲役六年  
 以上八年以下ニ處スヘキ所共犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ汝ヲ重懲役九年以上十一年以下ニ  
 處ス然ルニ汝カ所犯ハ新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スル  
 ニ舊法剛嚴律威力制縛條凡威力ヲ以テ人ヲ制縛シ及ヒ私家ニ於テ拷打監禁スル者ハ有傷  
 無傷ヲ問ハズ並ニ杖一百改定律例第百廿七條凡強盜兇器ヲ持セズ威力ヲ以テ人ヲ劫シ財  
 ヲ得サル者ハ皆懲役二年名例律二罪俱發以重論條凡二罪以上俱ニ發覺スレハ一ノ重キ者  
 ヲ以テ論ストアルニ依リ一ノ重キニ從ヒ懲役二年ニ該ルヲ以テ舊法ノ輕キニ依リ懲役二

年ニ處スヘキ處明治十四年第八十一號公布ニ照シ汝ヲ重禁錮二年ニ處ス

但其所持ノ証書類ハ所有主ニ還付ス

京都輕罪裁判所檢事補山田彌八郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月一日附  
 シテ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ  
 被告人中林藤七カ前川嘉兵衛ヲ擅ニ監禁シ嘉兵衛カ懷中ニ居タル他人ノ貸金ノ証書ヲ  
 横取セシ所爲ハ畢竟民事訴訟ニ付嘉兵衛ヨリ出訴セラレ敗訴ノ末身代限リト爲リ其際他  
 人ノ名ヲ借り其財産ノ内ニ入札シタル處果シテ落札ト相成タルモ金額調達セズシテ終ニ  
 其効ナク原告ノ有ト爲リタルヲ以テ更ニ其事件ヲ告訴セシモ到底己レノ訴願相立タサリ  
 シヨリ一時憤懣ニ堪ヘズ右所爲ニ及ヒタルモノニシテ証書ヲ横取シ己レヲ利スルノ念慮  
 ニ出タルモノニ非ラサルカ故ニ素ヨリ盜罪ヲ以テ論ス可キモノニ非ラズ然ルニ該件ハ新  
 法實施以前ニ係ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ依レハ剛嚴律威力制縛條ニ依リ處  
 斷ス可キモノニテ之レヲ新法ニ照セハ刑法第三百二十三條ノ明文ニ該ルヘキ者ナルヲ以  
 テ新法ノ輕キニ從ヒ處斷ス可キモノトス然ルニ京都輕罪裁判所ニ於テ不持兇器強盜財ヲ  
 得サル者ヲ以テ論シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ舊法強盜律ニ依リ重禁錮二年ニ處斷セ  
 シハ其當ヲ得サル裁判ナリト考量ス

辨明

右之理由ナルヲ以テ京都輕罪裁判所ニ於テ官渡シタル裁判ヲ破毀アランコトヲ請求ス

被告人中林藤七カ前川嘉兵衛ヨリ強取セシ書類ハ藤七ヨリ嘉兵衛宛三百圓人見藤助等ヨリ



嘉兵衛宛八拾圓ノ証書及ヒ藤七カ身代限ノ際計算書等コレヲ皆藤七カ義務ニ関スル書類ナレハ固ヨリ他人ヘノ貸金証書ニ非ス其書類ヲ強取セシハ以テ其義務ヲ消滅セント欲スルノ意ニ出ル者ナルコト明白コシテ已レテ利スルノ念慮ニ出タルニ非スト謂フヲ得サルナリ故ニ被告人ノ所爲ハ強盜ヲ以テ論シ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕キニ從ヒ改定律例第百二十七條ニ依リ懲役二年ニ處スヘキモノトス又明治十四年第八十一號布告第一條ニ新舊ノ刑名ヲ掲載セシム比照ノ例ヲ示セタル者コシテ刑名ヲ更改セシムニ非ス然ルニ原裁判所ニ於テ舊法ニ刑名ナキ重禁錮ノ刑ヲ宣告セシハ不法ノ裁判ナリト雖モ單ニ刑名ノ錯誤コシテ刑ニ輕重ノ差アルコト非サルヲ以テ破毀ノ限ニ在ラス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年二月二十二日京都輕罪裁判所ニ於テ中林藤七ニ言渡シタル裁判ハ破毀スルノ限ニ在ラス

第八百二號

判文(詐欺未得財ノ件) 明治十五年四月六日上告  
明治十五年六月廿二日判決

京都府下京區第二十三組柳

町住平民

安達

卯三郎

明治十五年三月二十一年七ヶ月

明治十五年三月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ右卯三郎ヘ左ノ裁判言渡シテ

汝詐欺未得財ノ所爲アリトシ檢事補山田彌八郎ヨリ請求ニ因リ其事件ノ公訴ヲ受理シ茲ニ審理ヲ遂ル處

檢事補陳述ノ要旨汝ハ請求ス可キ權理ナキ金百拾四圓五拾錢ノ手形証ヲ以テ原田「タケ」ヘ係リ不實ノ詞訟ヲ爲シ其金ヲ欺キ取ラントセシモノナリト其証憑ハ豫審判事補調書並ニ証書等ヲ以テ証明ス

汝ハ原田「タケ」ヘ明治十三年二月ニ金三拾圓全四月ニ五拾圓全七月ニ貳拾圓全八月ニ拾圓貸渡シ其他些少、取替タル金四圓程ト相積リ都合百拾四圓五拾錢ヲ無証據ニテ貸渡シ又ハ取替置タル處明治十四年五月廿四日一時其金額ハ返済ヲ受ケ更ニ其場ニ於テ「タケ」並飯室彌三郎ヘ貸渡シ乃チ百拾四圓五拾錢ノ手形証ヲ受取リタルモノコシテ該証ヲ以テ「タケ」外一人ヘ係リ詞訟ヲ爲シタルコト相違無之旨陳辨ス

於茲証憑書類ヲ閱スルニ被害者并証人飯室彌三郎鈴木芳三郎等ノ供狀ニ該手形金ハ彌ニ汝ヲシテ原田「タケ」カ所有ノ建家等ヲ賣却セシムルニ際シ其賣代金ノ内「タケ」ニハ金百圓丈ケ入手シ其他ハ汝ノ得益ニス可キ約定オヒ即チ明治十三年八月十四日附テ以テ其証書ヲ與ヘ置タル末汝ニ於テハ其賣代金百圓ヲ相渡サ、ルコヨリ「タケ」ヨリ委託金請求ノ勸解出願セシ處汝ハ該金ハ得益ニ取リタル旨ヲ主張シ終ニ勸解ハ不調ト相成而シテ汝カ申スニハ粟山善六ヘ已ニ賣渡シタルモノナレ其賣買ハ解除ス可キヲ然ルニ善六ヨリ受取リシ金百貳圓ハ費用ノ手元ニ之ナキ故右百二圓ニ一ヶ月一分六厘五毛ノ利子ヲ付シ六ヶ月分ヲ加ヘ百拾四圓五拾錢ノ手形証ヲ相渡シ與レ可クト申コヨリ其賣買解放ノヲ



汝カ憲ニ應テ明治十四年五月廿四日附ニテ汝ノ名宛ナリテ右手形証相渡タル上尙建築簿  
 ハ「タケ」ヨリ他ニ賣却シ其賣代金ノ内ニテ前約入手ス可キ金百圓ト今相渡セシ百拾四圓  
 五拾錢ノ手形金ヲ合セ貳百拾四圓五拾錢ハ「タケ」ヘ引去リ其他殘金ハ汝ヘ十分ノ内三分  
 五厘ハ尽力ノ功トシテ相渡ス可キ管更ニ約定ヲ遂ケ同日即チ明治十四年五月二十四日附  
 ナリテ其約定書ヲモ相與置タル云々ト之アリ因茲視之ハ其手形証ハ同時ニ相渡シタル約  
 定証ニ付屬シタルモノコトナリ會テ「タケ」ヘ無証據ニテ貸與ヘシ金額ヲ手形証ニ更改セシ  
 モノニ非ラサルコトハ判然タリ又其手形証ニ更改以前「タケ」ヘ無証據ニテ貸與ヘシ金額ヲ  
 ルトノ証ハ少モ無之即チ「タケ」ヨリハ汝ヘ金五圓ヲ貸渡シタルコトハ同人カ提出スル明治  
 十三年九月三十日附ノ証書ニ於テ明カナリ然ラハ右手形証ニ更改セシ際該金ヲ相殺セサ  
 ル可カラズ然ルニ己レノ貸金ノミヲ該手形証ニ改ムルノ謂レ無之因テ汝ハ附屬セシ約定  
 証ヲ隱藏シ請求ス可キ權利ナキ手形証ヲ以テ「タケ」ヘ係リ其金額ヲ詐取セントシタルモ  
 ノト認定ス

乃チ之ヲ法律ニ照スニ此所爲ハ新刑法實施以前ニ係ルナリテ刑法第三條第二項ヨリ既  
 舊ノ法ヲ比照スルニ舊刑法賊盜律詐欺取財條官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計  
 ハ竊盜ニ準シテ論ス云々トアルナリテ賊盜律竊盜財ヲ得ル者ハ懲役四十日トアルニ準  
 テ論シ懲役四十日ニ該ルモノトス

新刑法ニ照セハ第三百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者  
 ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附

加ストアルモ財物ヲ得サルモノナレハ同第三百九十七條及ヒ第三百十二條ニ照シ二月以上  
 四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルヨリ一等ヲ減シ四十五日以  
 上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ同第三百九十四條ニヨリ  
 六月以上二年以下ノ監視ニ付ス可キモノトス

右之理由ニ據リ舊法ノ輕キニ從ヒ懲役四十日ニ處ス可キノ處明治十四年第八十一號公布  
 第二條ニ照シ重禁錮四十日ニ處シ同公布第十條ニヨリ監視ヲ附加セヌ

但該手形ハ犯罪ノ用ニ供セシモノナレハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ且本件ハ明治十  
 四年十二月三十一日以前着手セシモノナレハ明治十四年第八十二號公布ニ依リ治罪法  
 ニ拘ラス處分ス

第一條

明治十五年三月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ檢事補山田彌八郎立會ノ上言渡ス  
 卯三郎於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月廿七日本院ヘ上告ノ旨趣左ノ如シ

汝カ申スニハ栗山善六ヘ已ニ賣渡シタルモノナレハ其賣買ハ解除ス可キ然ルニ善六ヨリ  
 受取リシ金百貳圓ハ費用シテ手元ニ之ナキ故右百貳圓ニ一ヶ月壹分六厘五毛ノ利子ヲ付シ  
 六ヶ月分ヲ加ヘ百拾四圓五拾錢ノ手形証ヲ相渡シ具レ可シト申シヨリ其賣買解放ノタメ  
 汝カ憲ニ應テ明治十四年五月廿四日附ニテ汝ノ名宛ナリテ右手形証相渡タル上尙建築簿  
 ハ「タケ」ヨリ他ニ賣却シ其賣代金ノ内ニテ前約入手ス可キ金百圓ト今相渡セシ百拾四圓  
 五拾錢ノ手形金ヲ合セ貳百拾四圓五拾錢ハ「タケ」ヘ引去リ其他殘金ハ汝ヘ十分ノ内三分



五厘ハ盡力ノ功トシテ相渡ス可キ管更ニ約定ヲ違ケ同日即チ明治十四年五月廿四日附  
 以テ其約定書ヲモ相與置タル云々ト之レアリ此判決ノ文意ニ於ル明瞭セサルモノ、如シ  
 然レハ百拾四圓五拾錢ノ手形証ハ告訴人原田「タケ」伸述ノ如ク栗山善六ト前ノ賣買ノ解  
 除スル爲メ被告人則卯三郎ノ意ニ應シテ右手形証ヲ相渡セシモノ、如ク判決ヲ與ヘラレ  
 タリ之レ事實ヲ齟齬シタル裁判ナリト思慮ス何トナレハ追々ニ原田「タケ」ハ貸金ヲ爲メ  
 其末同人親族飯室彌三郎連帶ニテ取置タル手形証タルハ既ニ口供ニモ詳ナリ然ラハ判  
 決ノ如ク善六ノ賣買解除ノ爲メニ取置タル手形ニ之ナクシテ別箇ノモノタルハ明瞭ナリ  
 加之原田「タケ」ニ於テハ明治十四年四月廿日被告人ハ對シテ下京警察署へ取込金ノ告訴ヲ  
 爲ス程ノモノナレハ同人於テハ被告人ヲ不正視セシモノナリ然ルモ何ソ前額百拾四圓五  
 拾錢ノ手形ヲ善六ト賣買解除ヲ爲サ、ル以前ニ認メ相渡ス理由之レナケレハナリ

第二條

判文中手形証ハ同時ニ相渡シタルハ約定証ニ附屬シタルモノニシテ會テ「タケ」ハ無証據  
 ニテ貸與ヘシ金額ヲ手形証ニ更改セシモノニ非ラサルハ判然タリ又其手形証ニ更改以前  
 「タケ」ハ無証據ニテ貸與ヘシ金額タルトノ証ハ少シモ無之トアレハ該百拾四圓五十錢ノ  
 手形証ヲ以テ彼ノ約定書ニ付屬シタルモノトハ何ニ因テ然ルカ是レ臆測ノ判決ニシテ強  
 テ該手形ヲ右約定証ニ附會セシメタルモノト言ハサルヲ得ンヤ又無証據ニテ「タケ」ハ貸  
 與ヘシ金額ヲ手形ニ更改セシモノニ非ラス或ハ更改以前無証據ニテ貸與ヘシ金額タルト  
 ノ証ナシトアレハ凡ソ契約ハ時リ貸借ノ契約ニ於ルノモナラス凡テ契約ハ双方ノ意思ニ

依テ成立ツモノコアラヌヤ然ラハ無証據ニテ貸スアルモ唯双方ノ意思ニ於テ互ニ之ヲ  
 認メシ上ハ法律上尤モ効力アルモノナリ縱令一方ニ於テ之ヲ認メスト云時アリトモ唯一  
 方ノ損失ニ止テ更ニ法律上意思ノ「ヨ」契約ヲ無効ノモノト謂フコ能ハサルヘシ然ルチ既  
 ニ手形証迄徴シタルモノチ其元素ノ無証據ナルチ性ニ其更改シタル手形証ヲ無効ノモノ  
 トシ之チ犯罪ノ証據トセラレシハ不當ノ判決ニシテ之レ法理ノ尤モ見易キ所ナリ

第三條

判文中「タケ」ヨリハ汝へ五圓ヲ貸渡シタルハ同人カ提出スル明治十三年九月三十日附  
 ノ証書ニ於テ明ナリ然ラハ右手形証ヲ更改セシ際該金ヲ相殺セサル可カラストアレハ該  
 五圓ノ証書前ニ不動産取戻受任中ニ澤田友七チ「タケ」代人ニ使ヒシヨアリ其入費手数料  
 トシテ請取タルモノニシテ純然タル借用証ニ非ラス即友七ヨリノ請取書之レチ証據トス  
 ルニ足ル縱令之チ一箇ノ借用金トスルモ別箇ニ貸借アルハ妨シルコ更ニ之レチキモノ  
 ナリ將法律上相殺ヲ爲スハ双方相殺ヲ爲サ、ルモノ何ノ差障ナル處カアラン然ルチ相殺  
 ナサ、ル可カラストノ判決ハ不當ナリト思慮ス

右辨駁スル如ク決テ犯罪者タルモノニ非ラスト信スレハ左ノ判文ニ付テ劬フルニ縱令犯  
 罪者タリトスルモ解セサルコアリ

第四條

判文ニ官私チ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ并ニ贓ニ數ヘ窃盜ニ準シテ論ス云々トアルチ以テ  
 賊盜律窃盜財ヲ得サル者ハ懲役四十日トアルニ準シテ論シ懲役四十日ニ該ルモノトスト



アリ抑モ窃盜財ヲ得サルモノハ既ニ舊律四十日ノ明文アルヲ以テ間然スル處ナシ然レモ詐欺取財ヲ得サルモノ德役四十日ノ明文ナシ然ルヲ以テ之ヲ四十日ニ該ルトナセシヤ成程官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ賊ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアリ此精神ヲ勘フルコト既ニ財物ヲ取リシ者ノ謂ニシテ取ラサルモノハ準スルノ限リコト非ラサルコト明白ナリ之ヲ証スルコト詐欺取財條第二項ニ監守者其監守スル財物ヲ欺取スル者ハ云々未ダ得サルモノハ云々ト記載シタリ若前項詐欺財ヲ得サルモノヲモ罰スルノ精神ナレハ第二項ト同シ未ダ得サルモノハ云々ト明記セサル可カラズ一步進テ勘フレハ監守者ノ其監守物ヲ詐取スルノ罪重シ又害モ太ク然レハ通常詐欺ノ未ダ得サル者ニ於テ監守者ノ如ク害アラズ故ニ之ヲ罰スルノ限コト非ラサルモノト思慮ス又德義上之ヲ罰スルモノナルコトモモ律ニ明文ナキモノ法官如何セシ哉然ルヲ未得財ニ問ハレシハ不服ノコト候

辨明

上告ノ主點ヲ節約スレハ手形證ノ金百拾四圓五拾錢ハ原田「タケ」ハ無証據コト貸與ヘシモノニテ決シテ家屋賣買契約解除ノ爲メニ取置キタルモノニアラス又縱令犯罪者タリトスルモ詐欺取財條財ヲ得サルモノ德役四十日トノ明文ナシ然ルニ前記ノ如ク裁判セラレタルハ併テ不法ナリト云フニアリ茲ニ原書類ヲ閱スルニ被害者原田「タケ」ニ對シ明治十四年十一月二十九日原裁判所ノ豫審法官ノ作リシ調書中ニ「本年五月二十四日百拾四圓五拾錢ノ手形ヲ認メ渡シタレハ何ノ爲メナルヤ」答卯三郎カ善六ヨリ受取メ家代金百貳

圓ヲ費用シタリ家ヲ取戻スニ付テハ金カ入ルナレハ右百貳圓ハ費用シテ無イ故手形ヲ認メ與ハ其レヲ善六方ヘ渡シテ話シテ付ケルト申スニ付認メ渡シタルナリ」卯三郎ハ右百拾四圓五拾錢ノ手形金ハ昨年以來退々コ汝ヘ貸シタ金ニテ本年五月ニ一ト先ツ返シ賃ヒタレトモ其場コト汝ハ彌三郎カ頼メ故更ニ貸渡シ置兩人ノ手形ヲ取置タルモノナリト如何」答決シテ卯三郎ニ一文モ借受ケタル事無之卯三郎ヘ貸シヨソ有之」問卯三郎ニハ何程貸金シ証書取置アルヤ」答自分ヨリ五圓ハ自分姪「キヌ」ヨリ三圓ト卯三郎ヘ貸渡シ置証書取置キアリ」云々トアリテ飯室彌三郎ニ於テモ同様申立明治十四年十一月廿五日鈴木芳三郎ニ對シタル調書中ニ「問卯三郎ニ於テハ右百拾四圓五拾錢ノ手形金ハ會テ「タケ」ノ取替タル金アルニ付夫レヲ手形ニ認メ受取シモノナリト申立如何」答決シテ左様ノ取替金等ハアラズ齋藤「キヌ」ヨリ三圓「タケ」ヨリ五圓卯三郎ヘ貸金コソアリ其証書モ取置アルナリ」問手形金百拾四圓五拾錢ハ百貳圓ノ金ニ利子ヲ加ヘタルモノナリト申立ルカ一ヶ月何程ノ利子コト何ヶ月分ノ利息ナルヤ」答一ヶ月一分六厘五毛ヲ六ヶ月分ナリ」云々トアリ明治十四年十一月七日上告人安達卯三郎ニ對シタル調書中ニ「問汝原田「タケ」ニ取替金アリト申立ルカ何日何程取替ヘシヤ」答明治十三年二月金三拾圓貸渡シ四月ニ五拾圓貸渡シ其他些少ツ、取替四圓程ニ相積メ都合百拾四圓五拾錢之貸分ニ相成候」問右金員貸與セシ都度々々証書取置キシヤ」答証書ハ一通モ取置カス」問何故取置カサルヤ」答自分ハ其頃「タケ」方ノ相續人ニナル咄シ中ナリシ故証書取置カス」問汝手元帳簿ニ右貸金記載アルヤ」答帳簿等ハナシ自分ハハニ金ヲ渡シテモ受取テ取ラサルコト



モアリ」云々トノ申立而已ニテ其貸與セシ証憑ナク其後數度ノ訊問調書ニモ亦曖昧ノ答  
 辨ノミ到庭貸與セシ事實ヲ徵スルニ由シナク而テ被害者外兩人ノ申分吻合セシ等ヲ觀レ  
 ハ反テ貸與セサリシハ其眞實ナルヲ認ルニ足レリ抑原裁判所カ上告人卯三郎ハ詐欺未得  
 財ノ犯者ナリト認定セシハ相當ナリト又詐欺未得財ノ如キハ竊盜未得財ニ比擬シ論ス  
 ルハ法ノ然ラシムル處ナリ豈監守盜ノ監守人自ラ盜取スルニ未得財ノ謂レナキモノト同  
 一ニ論スヘケンヤ即チ上告ノ趣旨ハ共ニ相立タサルモノトス然リト雖モ新舊法ノ比照ニ  
 依リ其輕キ舊法ニ從ヒ處斷スレハ懲役四十日ト宣告スヘキヲ舊法ニ記載ナキ重禁錮ノ刑  
 名ヲ冠ラセタルハ不法ナルモ刑罰ニ差異ナキヲ以テ破毀ノ限ニアラストス

判決

前辨明ノ筋合ナルヲ以テ明治十五年三月十八日京都輕罪裁判所ニ於テ安達卯三郎へ官渡  
 タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第八百三號

○判文(放火ノ件)明治十五年二月二日上告  
 明治十五年六月廿三日判決

長崎縣肥前國南松浦郡富江

村平民勇吉姉

庄 司

明治十四年三月  
 四十四年七月

明治十四年十二月廿八日長崎裁判所ニ於テ右「スミ」へ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方備明治十三年十月三日夜前隣藤原善吉宅ニ放火致シ終ニ同人宅居燒燬セシメタル旨  
 檢事ノ公訴ニ因リ審問ヲ遂クル處其方於テ明治十四年一月廿日福江警察署ニ於テ右善吉  
 妻「シマ」ニ怨恨有之ヨリ明治十三年十月三日夜善吉宅へ放火セシ旨供述セシモ明治十四  
 年二月廿八日以來追々ノ供述ニ放火セシ覺ヘ毫モ無之追々拷問ヲ受ケ苦痛ニ堪兼一命ニ  
 ハ替ヘ難キト存シ全ク無實ノ儀申立シ旨供述シ前後ノ供述符合セサルニ依リ之ヲ事蹟ニ  
 徵証セシト欲スルモ共ニ形蹟ノ觀ルヘキモノ無之然レハ果シテ明治十四年一月廿日ノ供  
 述ハ獨リ眞實ノ白狀ニシテ明治十四年二月廿八日以來ノ供述ハ前供ヲ翻異セシモノトモ  
 認定シ難シ其レ如斯放火セシモノト斷定スルノ確証無之ニ因リ直ニ放免ス

長崎裁判所檢事補牛島知眞ニ於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月廿八日司法卿ヲ  
 經由シテ大審院檢事ヨリ明治十五年一月廿六日本院ニ送付シタル上告狀ノ趣旨左ノ如シ  
 一被告カ放火ノ所爲タルヤ早ク警察署ノ探知スル所トナリ明治十四年一月廿日福江警察  
 署ニ於テ推問ニ應ジシタル供述ハ清水吉十郎其他ノ申立ト符合セルヲ以テ眞實ノ白狀  
 ナリト認ルニ足レリ然ルニ裁判官ハ(十四年二月廿八日以來豫審中ノ供述ニ追々拷問ヲ  
 受ケ苦痛ニ堪兼無實ノ儀ヲ申立シ旨供述セルヲ以テ警察署ニナシタル供述ハ獨眞實ノ白  
 狀ト認定シ難シ)ト夫レ裁判官ニ於テ如斯警察署ニナシタル供述ノ証據ヲ信セサルハ後  
 ノ供述アルヲ以テナリ後ノ供述之ヲ眞實ナリトスルカ(明治十四年二月廿八日以來ノ供  
 述ハ前供ヲ翻異セシモノトモ認定シ難シ)トセリ之ニ由テ之ヲ觀レハ獨後ノ供述ノ眞  
 實ナリトセルニモアラサルヘシ裁判官ノ見ル所夫レ孰レニ在ルカ畢竟被告カ辨護ノ陳述



ニ遺著〔原〕シテ判定ヲナス能ハサル者ノ如シ凡口供ヲ翻異スルハ犯人ノ通情ナリ被告  
カ拷訊ノ爲メ無實ヲ申立シト云モ其拷訊ト見ルヘキ者ナク却テ警察署ノ調ハ穩便詰問ニ  
出テ又藤原善吉カ妻〔シマ〕等ニ意恨アリタルヲ及ヒ該タ被告カ舉動ノ一等ハ關係人等ノ  
申立ニヨリ疑フヘカラサルナリ之ヲ是レ裁判官ニ於テ罪ヲ論セス直ニ放免ノ言渡ヲナシ  
タルハ聽斷定規ニ乖キタル裁判ナリト考量シ上告シテ破毀ヲ求ル以所ナリ

辨明

上告ノ要點ハ被告人カ明治十四年一月二十日福江警察署ニ於テ爲シタル口供ハ清水吉十  
郎其他ノ申立ト符合セサルヲ以テ眞實ノ白狀ナリ加之該タ被告カ舉動ノ一等ハ關係人等  
ノ申立ニヨリ疑フヘカラサルナリ然ルニ裁判官ニ於テハ是ヲノ証憑ヲ信セス直ニ放免ノ  
言渡ヲナシタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ原裁判所ノ簿冊ヲ閱スルコト十四年一  
月二十日福江警察署ニ於テ爲シタル口供ト二月二十八日以來追々ノ供述ト大ヒニ齟齬ス  
ル處アル而已ナラス放火ヲ爲ス可キ原由ノアルアリト觀ル可キモノキヨ依リ放火ヲナシ  
タルノ確証ト爲スヲ得サルモノトシ原裁判所カ放火セシモノト斷定スルノ確証ナシトシ  
放免ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月二十八日長崎裁判所ニ於テ庄司「スミ」ニ言渡シタル  
裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス  
第八百四號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年二月六日上告  
明治十五年六月廿三日判決

三重縣伊勢國三重郡采女村  
三十九番邸平民

名 倉 又 五 郎

明治十四年十二月  
四十年六月

右名倉又五郎ニ對シ明治十四年十二月二十四日名古屋裁判所安濃津支廳ニ於テ左ノ裁判言  
渡シタリ

其方儀明治十四年四月五日以來金森善六ノ發意ニ同シ三重郡小古曾村林吉平外數ヶ所ヘ  
忍入り衣類物品盜取リ又ハ河曲郡高岡村ニテ姓名知レサル宅軒下ニアル荷車壹輛盜取リ  
タル旨四日市警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ翻異シ善六ノ依託ヲ受ケ賭博ニテ勝チタル物  
品ト知テ賣却又ハ買入方周旋シタルマテニテ竊盜相働キタル事決シテ無之旨申立ルト雖  
モ連犯人等ノ申供及ヒ四日市警察署ヨリ護送ノ途中伊三郎ニ對シ成丈ケ罪ノ輕クナル様  
致シ吳ト依頼セシ等ニ依テ照觀スルニ鑿ニ四日市警察署ニ於テ爲シタル口供ハ眞實ノ白  
狀ト確認ス因テ贓金百四拾九圓七拾三錢ノ科竊盜律ニ依リ從タルニ付一等ヲ減シ懲役七  
年可申付ノ處三等ヲ酌減シ懲役二年半申付ル  
名倉又五郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年一月四日本院ニ差出シタル上告ノ要  
領左ノ如シ

明治十四年六月十七日四日市警察ヘ拘留ニ相成御調ヘノ次第ハ明治十四年四月五日以來



金森善六ノ竊意ニ同シ數ヶ所ニ忍入り衣類物品且荷車等盜取リタル旨兼テ右善六ヨリ連  
犯ナリト申立ル趣ヲ以テ御尋問ヲ受ケタルモ右善六トハ兼テ竊意ノ者ニテ無據金子入  
用ノ由ニテ衣類且物品ヲ持參シ是ハ賭博ニテ勝テタル金子ヲ換リニ受取タル故ニ衣類ハ  
質入レ物品ハ賣却致シ與レト懇ニ依托ヲ受ケ不得止周旋イタシ遣シタル迄ニテ右善六ハ  
竊盜ニシテ持參セシ物品ハ盜贓ナリシ等ハ毫モ存シ不申然ルニ前文ノ如ク連犯ナリトノ  
御尋問ヲ受ケルト雖モ決テ右様ノ義ハ知ラサル義ニ有之旨申立ルト雖モ何分警察官ノ壓  
制強訊ノ堪兼不得止口供爲シタル義ニ有之候事

判文中同署ヨリ護送ノ途中後藤伊三郎ニ對シ成丈ヶ罪ノ輕クナル様致吳レト依頼シタル  
趣キ記載有之右ハ善六及伊三郎ノ所爲等不審ノ應有之ニ付其正實ノ次第ヲ申聞カセト申  
タル迄ニ有之候事

同年七月十日津監獄署へ入監ニ相成後津警察署ニ御招呼ノ上四日市警察署ニテ爲シタル  
口供ヲ以テ御調へニ相成候際前文ノ次第御糾問ノ嚴シキニ堪兼口供ニ捺印ハナシタル共  
決テ其情ハ知得セサルモノニシテ全ク質入方等周旋イタシ候迄ニ有之故ニ善六ト對質イ  
タシ度旨再三願フト雖モ聽許無之シテ明治十四年十二月二十四日名古屋裁判所安濃津支  
廳ニ於テ言渡シタル刑名ハ不法ノ裁判ト信認仕候ニ付該裁判ヲ破毀シ事情御推糾ノ上更  
ニ公明正大ノ御判決被成下度謹テ此段奉告候

辨明

上管事件ヲ審按スルニ上管人名倉又五郎カ金森善六ノ囑託ヲ受ケ物品曲賣ノ周旋シタル

マテコシテ盜贓タルコトハ知ラス又警察署ノ口供ハ全ク警察官ノ壓制強訊ニ堪兼捺印ヲ爲  
シタリト申立レハ警察官ニ於テハ脅迫等爲シタルコト無之由ニシテ証明セシノミナラス該警  
察署ノ口供ハ善六等ノ申述ニ符合セリ又後藤伊三郎ニ對シ成丈ヶ罪ノ輕クナル様致シ吳  
ト依頼シタルトアルハ善六伊三郎ノ所爲不審ノ應有之其眞實ヲ申聞セト申タル迄ナリト  
申立レトモ是又無証憑ノ申立ナリトス因テ原裁判所ニ於テ前ニ掲シタル如ク判決シタルハ  
不法ノ裁判ニアラヌトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月二十四日名古屋裁判所安濃津支廳ニ於テ名倉又五郎  
へ言渡シタル裁判ハ破毀ス可キ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第八百五號

○判文〔懲役人逃走ノ件〕明治十五年三月二日上告  
明治十五年六月廿三日判決

長野縣信濃國下伊那郡上飯

田村平民

當時懲役人

鈴木吉平

明治十五年一月  
十八年

明治十五年一月廿八日松本輕罪裁判所ニ於テ右鈴木吉平ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタル

汝懲役限内逃走セシ事件檢察官ノ公訴ニ依リ明治十五年一月二十六日公庭ヲ開キ同官ノ



陳述ヲ聽キ且ツ書記ヲシテ相當官吏ノ調書ヲ讀聞ケタルニ明治十三年六月十六日窃盜三犯ノ科ニ依リ舊松本裁判所ニ於テ懲役十年ニ處セラレ服役中老衰ノ苦役ニ堪ヘカタクイトテ明治十四年九月十七日外役先ヨリ逃走セシ旨相違ナキコト申立タリ而シテ其所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ同法第二條末項所犯預布以前ニ在テ未ク判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スト云フニ依リ其新舊法ヲ比照スルニ改定律例第三百一條凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦例ニ照シテ杖鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新ニ勾役ストアリ又刑法第四百十二條已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアリ然ルニ改定律例第三百三條凡懲役人逃走シテ自首スル者ハ逃罪ヲ免スト云フ其裏面ヨリ視レハ逃罪ハ全ク杖鎖ニ止マルモノニマテ尙ホ同法第五條云々杖鎖二日ハ原杖六十至七十トアリ因テ其輕キ新法第四百十二條ニ依リ重禁錮一月申付ル

松本輕罪裁判所檢事補森芳麻呂ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月四日付ヲ以テ本院檢事ヲ經由シ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

裁判官渡書中ニ其新舊法ヲ比照スルニ改定律例第三百一條凡懲役五年以上ノ囚人限内逃走スル者モ亦例ニ照シテ杖鎖二日仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新拘役ストアリ乃チ舊法ニ於テ被告吉平カ逃罪ヲ斷スルノ正條ヲ掲ケタルハ尤モ其當ヲ得タリ然リ而シテ却テ其結尾ニ至リ逃罪ハ杖鎖ニ止マルモノトシテ其理由ヲ謂ハス單ニ杖鎖ヲ原杖ニ換ヘ比照シタルハ所謂前後矛盾ナル擬律ナリト云ハサルヲ得ヌ是ソノ破毀ヲ要ムル一ナリ

同旨渡書中ニ杖鎖二日ハ原杖六十至七十トアリ之レ蓋シ新法第四百十二條ノ重禁錮月數

ト比照スルカ爲メ揭示シタルモノト雖モ舊法改定律例第一條ニ管杖徒流ノ刑名ヲ改タメ一体ニ懲役ニ換ヘ云々トアレハ杖刑ハ已ニ廢セラレタルモノナリ然ルチ其已ニ廢止シタル杖刑ノ名ヲ以テ之ヲ揭示スルハ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサルモノニテ是ソノ破毀ヲ要ムルニナリ

前項ノ原杖六十至七十ヲ懲役六十日至七十日ト見做シ新法第四百十二條ノ重禁錮ト比照シタルハ則同法第三條第二項ノ總則ニ依リ新舊法律ヲ比照シタルモノニシテ其一旦ヲ得タリト雖モ新法ハ舊法ヨリ輕シトハ何レノ點ニ依リテ然ルヤ短期ヲ比照セハ即チ舊法ノ六十日ヨリ新法ノ一月ハ輕シト雖モ猶且長期ヲ比照セハ舊法ノ七十日ヨリ新法ノ六ヶ月ハ最重シ然レハ概シテ新法ハ輕シト云ヒ難シ假リニ又新法ハ輕シトスルモ他ニ又比照法ノアルアリ則チ明治十四年第八十一號公布第一條第十項第三條上半項及第十條是ナリ何ソ之ニ依ラサルヤ茲レ亦法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサルモノニシテ是ソノ破毀ヲ要ムルニナリ

抑改定律例第二百九十九條凡懲役百日以下ノ囚人限内逃走スル者ハ杖鎖一日仍ホ原犯ノ日限ニ照シテ新拘役シ云々トアリ又第三百三條凡懲役人逃走シテ自首スル者ハ逃罪ヲ免シ乃チ杖鎖ヲ免ス 仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ新拘役ス云々トアリ依テ之ヲ按スルニ杖鎖ハ懲役人逃走罪ノ主刑ニシテ從新拘役ハ則チ附加刑ナリ之レ懲役人ノ逃走ハ他ノ犯人ト違ヒ目下處刑中ニ居テ尙ホ謹慎改良ノ心ナク苟モ其刑ヲ避ケントスルノ重患ナルヲ以テ臣附俱ニ科シテ痛ク之ヲ懲戒スルノ律意ナル可シ然リト雖モ新法第三條第二項ノ總則ニ



依リ新舊比照シテ其輕キニ從フコ勿論ナリ然レモ從新拘役ヲ廢シ單ニ棒鎖トノミ云ヒシハ不當ノ擬律ト認定シ再ヒ斯ニ縷述シテ此言渡ノ破毀ヲ要ムル所以ナリ依テ治罪法第四百十條ニ依リ及上告候也

辨明

懲役人逃走ノ罪舊法ニ在テ棒鎖ノ上仍ホ原犯ノ年限ニ照シ新ニ拘役シ己ニ役過セシ月日ヲ通算セサルハ即チ逃走ヲ懲スルノ法ニシテ棒鎖ト從新拘役ト併セテ逃走罪ノ本刑ト爲スモノナリ故ニ本案ノ如キハ舊法ノ從新拘役ノ例ニ依リ己ニ役過セシ日數ヲ以テ新法ノ刑期ニ比照シ輕キニ從ヒ處斷スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ逃罪ハ全ク棒鎖ニ止マルモノトシ棒鎖ヲ以テ新法ノ刑期ニ比照セシハ不法ノ裁判ナリト雖モ己ニ新法ノ輕キニ從ヒ處斷セシモノナレハ破毀スルノ限ニ在ラス又本按ハ明治十四年中審理ニ着手セシモノコシテ即チ同年第八十二號布告ニ依リ治罪法ニ拘ハラズ仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘキモノナレハ法律ニ依リ言渡シノ理由ヲ付セスト雖モ之ヲ以テ破毀ヲ要ムルノ原由ト爲スコトヲ得サルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年一月二十八日松本輕罪裁判所ニ於テ鈴木吉平ニ言渡シタル裁判ハ破毀スルノ限リニ在ラストス

第八百六號

○判文(賭博ノ件) 明治十五年三月二十日上告  
明治十五年六月廿三日判決

兵庫縣但馬國養父郡中間村  
平民

上垣 清太郎

明治十五年一月  
三十六年七月

同縣同國同郡同村平民

坂 政平

明治十五年一月  
四十三年六月

同縣同國同郡同村平民

井原 源左衛門

明治十五年一月  
三十五年四月

同縣同國同郡同村平民

中尾 惣右衛門

明治十五年一月  
三十七年十一月

同縣同國同郡大屋市場村平民

民

上垣 茂八郎

明治十五年一月  
二十九年八月

同縣同國同郡同村平民

二九七



井上 三郎

明治十五年一月  
四十六年一ヶ月

同縣同國同郡三宅村平民

和田 三郎

明治十五年一月  
三十八年四ヶ月

同縣同國同郡八鹿村平民

山根 三郎

明治十五年一月  
四十八年五ヶ月

同縣同國同郡八鹿村平民

右清太郎外十八ニ對シ明治十五年一月三十一日豊岡治安裁判所ニ開キタル姫路輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判官渡チナシヨリ

當裁判所ハ檢察官ノ請求ニテ但馬國養父郡大杉村平民正垣文助同郡中村平民田村芳兵衛同郡篠村平民中尾八惣八同郡大屋市場村平民上垣茂八郎同郡中間村平民井原源左衛門上垣清太郎板坂政平同郡町村平民井上龍三郎同郡三宅村平民和田廣三郎同郡篠村平民中尾惣右衛門同郡八鹿村平民山根紋三郎ニ對シ賭博事件ニ付發シタル呼出狀ニ依リ公訴ヲ受理シ爰ニ共犯人ノ陳述被告人辯護人ノ答辨ヲ聽キ警察官ノ豫審調書ヲ檢閲シタル處被告人正垣文助ニ於テハ明治十四年十一月廿一日田村喜四郎宅ニ於テ金錢ニ換フルノ駒札ヲ賭ケ博戯ヲ爲シタル旨陳述シ被告人田村芳兵衛外九名ニ於テハ明治十四年十一月廿一日田村喜四郎宅ニ在リシモ賭博ヲ爲シタルノ之レ無キ旨陳述シタリ然レトモ共犯米田彌三

郎藤原庄三郎川邊米三郎田村喜四郎等カ明治十四年十一月廿四日警察署ニ於テ爲シタル供述及ヒ臨場巡查申立書ニ依リ事實ヲ推考スルニ被告人田村芳兵衛外九名ハ明治十四年十一月廿一日田村喜四郎宅ニ於テ正垣文助等ト共ニ金錢ニ換フルノ駒札ヲ賭ケ博戯ヲ爲シタルモノト認定ス依テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第三條法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

刑法第二百六十一條財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮

ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス云々賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

新律綱領雜犯律賭博條凡財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者ハ皆杖八十賭場ノ財物ハ官ニ入ル

明治十四年第八十一號公布第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從

フ但舊法ノ刑期ニ過ルコトヲ得ス

同第六條舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セズ

右條目ニ依リ被告人正垣文助田村芳兵衛中尾八惣八上垣茂八郎井原源左衛門上垣清太郎板阪政平井上瀧三郎和田廣三郎中尾惣右衛門山根紋三郎ハ各重禁錮二ヶ月十日ニ處ス

但賭博ノ器具財物ハ已ニ共犯人米田彌三郎ヨリ官ニ沒收セシメテ再ヒ裁判セズ

上垣清太郎外七八ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月四日付テ本院へ差



出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一

犯罪ノ証憑充分ナラサル理由

一裁判所ニ於テハ嚮ニ懲役五十日ノ宣告ヲ受タル現犯人ノ口述並ニ檢証巡查ノ申証ニ據リ重禁錮二月ノ公判ヲ附セテラレタルハ巡查臨檢ノ節自分等八名ハ現場ニ連座シタル者ニアラスト田村喜四郎ノ本宅ニテ裏裡ニ熟睡シタリシニ突然臨檢ノ巡查ニ寢床ヲ攪破セラレ起出テタルニ直チニ逐次名稱ヲ録セラレシ者三拾九名計リ喜四郎弟姓不詳敬三郎ハ保管申渡サレタリ然ルニ臨檢巡查ノ該犯二十餘名トセラレシヨリ猥リニ感覺ヲ起サレテ遂ニ二十餘名ノ員數ヲ細録スル爲メ喜四郎外三名ノ言ヲ以テ証憑トセラル、ニ至リシモノナラン歟既ニ臨檢ノ際犯場ニ居ラサリシハ巡查ニ於テ目撃セラレ本宅ニ於テ寢所中録名アリシナラス哉且ツ巡查ニ於テ二十名トセラル、ハ現時喜四郎方ヘ居合セタルハ四十餘名ナリ何ヲ以テ二十有餘名ヲ犯人ト認定セラル、哉解スヘカラサル者コシテ尤事實ノ支吾シタルモノ是レ不服ノ第一也

第二

法文ニ阻礙アル理由

一喜四郎外三名ハ事實參考ノ爲メ出庭上申スルモ証人ノ効アル者ニ非ラス況ンヤ己ノ犯狀ヲ危懼スルヨリ妄リニ無根ノ陳供ヲナシ他ヲ連累セントスル詭譎ノ言ノ疑似セサルヲ得サルヲ裁是レ不服ノ第二也

第三

裁判官渡ニ阻礙アル理由

一裁判所コテ共犯ト見做サレタル喜四郎外三名ハ懲役五十日ノ宣告ヲ與ヘラレ自分等八名コハ二ヶ月ノ重禁錮ヲ附セラル、ハ如何ナル典刑ナル裁判文中喜四郎外三名云々トアレ喜四郎ノ供述ハ田村金藏云々自分等ハ寢睡セシ趣キ云々ト陳ヘタル迄ニテ外三名コ於テモ現ニ某々ト指名シタルナシ設令共犯ト認視セラル、モ彼レニ輕クシテ是レニ重キノ不衡平ヲ見ル有ヘカラス今十日多キヲ加ヘラル、ハ亦裁判官渡ニ上支吾ヲ視ル瞭然タルモノ審判ノ盡サ、ルモノナラン是レ不服ノ第三也

右ノ若シ証憑充分ナラス事實ノ阻礙スル未タ審理ノ足ラサルモノト爲サ、ルヲ得ス加之ニ治罪法百四十六條法律ニ於テハ被告事件ノ模様ニヨリ有罪ト推測ヲ定ムルナント明文アルヲ喜四郎等ノ供述ヲ信據証憑セラレ臨檢巡查ノ二十有餘名ノ言ヲ牽強附會セラレ推測ノ判定ナリシハ甘受スル能ハサルモノニ付理由ヲ陳シテ上告仕候間前官渡ニテ破毀セラレ更ニ至當ノ御公裁ヲ奉仰候

辨明

刑法第二百六十一條ニ財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々トアリテ賭博ノ罪ハ現場ニ於テ捕ニ就ク者ニ非サレハ此條ノ刑ヲ適用スヘカラサルナリ今上告事件ヲ審察スルニ本案ハ賭博犯人米田彌三郎等ノ口供中ニ上告人等モ共犯ナリト指稱セシニ因リ檢察官ノ起訴ニ係ルモノニシテ固ヨリ現行犯罪ニ非ス然ルニ原裁判所ハ其不訴ヲ受理シ上告込



等ヲ以テ賭博ノ罪ヲ犯ス者ト認定シ刑法第二百六十一條ニ依リ處斷シタルハ法律ノ適用  
ヲ錯誤セシ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年一月三十日豐岡治安裁判所ニ開キタル姫路輕罪裁判所ニ於  
テ上垣清太郎外七名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

- 上垣清太郎
- 板阪政平
- 井原源左衛門
- 中尾惣右衛門
- 上垣茂八郎
- 井上瀧三郎
- 和田廣三郎
- 山根紋三郎

法律ニ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ

各無罪

第八七七號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十五年四月廿二日上告  
明治十五年六月廿三日判決

廣島縣備後國甲奴郡中領家

村平民

山田澤右衛門

明治十五年五月  
四十一年五月

明治十五年四月五日廣島輕罪裁判所ニ於テ右澤右衛門ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

右山田澤右衛門カ詐欺取財ノ被告事件檢察官ノ公訴ニ依リ逐審問處被告山田澤右衛門カ  
本案ニ對スル辨護ノ要旨ハ甲第一號被告カ伴鈴三郎借主名義ナル金八拾圓ノ借用証書ハ  
明治十四年八月中現金ヲ返辨シ甲第二號六拾圓ノ借用証書ハ乙第壹號契約書ヲ受取ル前  
已ニ返償シ義務ノ消散シタル証書ニシテ甲第一號証ニ對スル八拾圓ヲ辨償シタル際合算  
シ乙第三號受取証ヲ受取リ甲第壹號二號証兩通ヲ取戻シタルト云フニ外ナラス而シテ第一  
號証契約書タル本年一月廿二日ヲ限リ米金諸物品ニ至ル迄取引上ニ關スル確証ハ勿論確  
証外ト雖モ悉皆反古タルヘシ云々トアリテ總テ取引貸借上權利義務ノ消尽シタル者ノ如  
クナルモ地所質入ニ關スル分ハ乙第一號契約外ニシテ依然有効ナルコトハ被告并ニ被害者  
田邊清一郎ノ申立符合セリ然ルニ被告ハ只甲第一號証ノニ有効ニシテ甲第二號証ハ乙第  
一號証ニ依テ無効ニ屬セリト云フモ甲第二號証ハ甲第壹號証質地ニ依リ増借セシ者ニシ  
テ地所入質ニ關シ乙第一號契約外ナルコト多辨ヲ費サスシテ明晰タリ又甲第一號証ニ對シ  
現金ヲ返辨シタリト云フモ果シテ現金ヲ返償シ証書ヲ取戻シ甲第二號証ハ乙第一號証ニ依  
テ無効ノ証ナリトセハ甲第一二兩號証ヲ受戻シタル上ニ何ソシ乙第三號受領証ヲ要スル  
理アランヤ仮リニ被告言ノ如ク現金ヲ返償シ受取書ヲ要スルモノトスルモ甲第一二號兩



通へ對し返償シタル年月ヲ登記スヘキコト第三號証ノ如キ合算シ百四拾圓ナリ一時ニ受授セシモノ、如シ記シタルハ其受取書ノ實ナラサレバ証スルニ足レリ況ンヤ甲第二號証ノ乙第一號契約外ニシテ甲第一號証ト等シク有効ナルコト明断タルコト於テオヤ依テ被告ハ乙第六號証ノ如キ一ノ顯跡ナキニ田邊清一郎カ行爲ヲ十條ニ記載シ稻草交番所へ差出シタル等ノ清一郎ヲ陷害セシムヘキ事蹟アルヲ以テ見レハ清一郎カ官有地ノ境界ヲ誤リシヨ乘シ官有地胃腸杯ト告訴シ和解ニ托シ借金百四拾圓ヲ詐取シタルモノニシテ三次警察署ニ於テノ口書ハ眞實ノ白狀ナリト判定ス

右所爲ハ刑法頒布以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルコト舊法ニ在テハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ贓金百貳拾圓以上總役十年新法ニ在テハ刑法第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ附加罰金ニ該ルヲ以テ舊法ヨリ輕キ新法ニ從ヒ尙ホ明治十四年第八十一號布告新舊比照ノ法ニ照シ被告山田澤右衛門ヲ重禁錮二月ニ處スヘキ處所犯原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條及ヒ九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮一月ニ處スル者也

澤右衛門ニ於テハ右ノ裁判ニ服セシ明治十五年四月十三日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

廣島輕罪裁判所裁判ノ要領ヲ撮摘シ而シテ不服ノ廉々ヲ掲ケル左項ノ如シ  
第一 甲第一號金八拾圓ノ借用証書ハ明治十四年八月中現金ヲ返辨シ甲第二號六拾圓ノ

借用証書ハ乙第一號契約書ヲ受取前已ニ返償シ義務ノ消散シタル証書ニシテ甲第壹號証ニ對ル八拾圓ヲ辨償シタル際合算シ乙第三號受取証ヲ受取リ甲第一二號証兩通ヲ取戻シタリト云フニ外ナラス而シテ乙第一號証ノ契約ハ甲第一號証ニ關涉セサルハ被告人并告訴人共ニ申立符合セリ然ラハ甲第二號証ハ甲第一號証ノ質地ニ依リ借増セシ者ニシテ乙第一號契約外ナルコト明断タリトノ事

第二 甲第一號証ニ對シ現金ヲ返辨シタリト云フモ果シテ現金ヲ返償シ証書ヲ取戻シ甲第二號証ハ乙第一號証ニ依リテ無効ノ証ナリトセハ甲第一二號兩號証ヲ取戻シタル上ニ何ソ乙第三號受領証取要スル理アラン假リコト現金ヲ返償シ受取書ヲ要スルモノトスルモ甲第一二號兩通ニ對シ返償シタル年月ヲ分記ス可キ等ナルニ百四拾圓ナリ一時ニ受授セシモノ、如シ記シタルハ其受取書ノ實ナラサルヲ証スルニ足レリトノ事

第三 被告ハ乙第六號証ノ如キ一ノ顯跡ナキニ田邊清一郎カ行爲ヲ十條ニ記載シ稻草交番所へ差出シタル等ノ清一郎ヲ陷害セシムヘキ事蹟アルヲ以テ見レハ清一郎ハ官有地ノ境界ヲ誤リシヨ乘シ官有地胃腸杯ト告訴シ和解ニ托シ借金百四拾圓ヲ詐取シタル者ニシテ三次警察署ニ於テノ口書ハ眞實ノ白狀ナリトノコト

第二條

廣島輕罪裁判所ニ於テ第一條第一項ノ如ク説明ナレハ右ハ惟リ皮相ノ問ヲ視ルニ止リ之レカ精神ヲ看認ラレシモノコト有ラサルナリ固ヨリ單ニ乙第一號証ノ契約中ニ甲第一号并甲第二号証共ニ無効ト爲ル可キ旨趣ノ含有セシ文意ト解釋シ難キハ童子ト雖モ得テ知



ル可キナリ必覺甲第二號証ノ金六拾圓ハ甲第一號証八拾圓ノ質地ニ依リ一端借増シタル  
 モノナレハ其實該地ハ元地主勢村又太郎ニ金八拾圓ヲ以テ受返シ爲サシムヘキ等ナルカ  
 故ニ若シ他日ニ不都合ヲ生ス可キモ難計ト思慮シ互ニ熟談ノ上六拾圓ニ當リ間モナク明  
 治十四年一月〔日ハ〕不覺〔上旬〕頃速ニ返辨セシモ該証ヲ取戻サ、ルハ指向見當ラサル應ナル  
 ナリ以テ〔田邊清一郎ト自分ハ習字師弟ノ間柄ナルカ〕恬トシテ其儘ニ措キシモ既ニ貸借ハ  
 故ニ當時相親睦シテ互ニ疑團ヲ容レサリシ〔甲第壹號証ノ八拾圓ノ外更ニ無之カ故ニ元地主勢村又太郎ヨリ受戻ノ節ハ同人ヨリ八拾  
 圓ヲ出金ス可キハ勿論ナルニ依リ被告則上告人ハ告訴人則上告人ニ對シ更ニ借金返  
 辨ノ義務アラサルノ意志ニテ乙第一號証ヲ領置シタルモノナリ然ルニ其後勢村又太郎ヨ  
 リ該地受戻方ニ付田邊清一郎ニ對シ掛合アリ此時双方熟談ノ上乙第二號〔該証ニ於テ山  
 八拾圓迄入質ニ受取〕証ヲ田邊清一郎ヨリ勢村又太郎ニ指入タリ由之視之甲第二號証ノ  
 六拾圓ハ前ニ辨償濟ニシテ入質ニ當リテハ獨リ甲第一號証八拾圓ニ極ルヘキハ誠ニ火ヲ  
 視ルヨリモ尙明カナリト奉存候事

第三條

廣島輕罪裁判所ニ於テ第一條第二項ノ如ク説明ナレハ甲第二號証ノ金六拾圓ハ業ニ既ニ  
 返償シタルコトハ第二條陳述ノ如ク乙第二號並ニ乙第三號証ノ性質及之レカ文意ニ依リ昭  
 明タリ然リ而シテ甲第一二兩號証ヲ受取タル以上ハ敢テ乙第三號証ヲ受領スルコト及ハサ  
 ルハ勿論ナレハ當時甲第一號証ノ元金八拾圓ヲ以テ原地ヲ指戻ス可キ熟談調ヒタルカ故  
 ニ先ツ八拾圓ヲ手渡シ爲シタルモ田邊清一郎ニ於テ本証ヲ所持セサルコト付受取證則チ乙

第三號証ヲ領置シ后チ甲第一二號証ヲ取戻シタル際ナレハ決テ怪シムコト足ラス當時甲第  
 一號証ノ金八拾圓ヲ渡シ百四拾圓ノ受取證ヲ受領シタルハ一應不都合ニ似ルカ如シト雖  
 モ前陳ノ如ク曩キニ返償金六拾圓ヲ併セテ記載シタルモノナレハ之カ事實ニ於テ毫モ不  
 都合有ラサルモノナリ然ルニ唯前後ノ月日ヲ分記ナキヲ以テ其受取證ノ實ナラサルヲ證  
 スルコト足レリトハ牽強附會モ亦太甚ナル可キ

第四條

廣島輕罪裁判所於テ第壹條第三項ノ如ク説明ナレハ先キニ被告則チ上告人カ田邊清一郎  
 ニ係リ稻草交番所ヘ告訴シタルハ被告則チ告訴人カ拜借ノ官有地ヲシテ清一郎カ所有地  
 ノ如クナシ作附爲シタルヨリ屢々談判ニ及フモ更ニ聞入ナク不得止ニ出アタルモノナリ  
 然レハ告訴ノ后チ清一郎ニ於テ後悔セシ平示談ヲ頼ミ出ルニ付則チ熟濟シテ願下セシ義  
 有之是レカ證左ハ乙第四號〔田邊清一郎ヨリ山田澤右衛門名當テ〕并ニ丙第貳號〔毛利  
 木下才市ヨリ田邊精一〕證ニヨリ判然タリ然ルニ和解ニ托シ借金百四拾圓ヲ詐取シタルモ  
 一郎名當ノ證ナリ〔證ニヨリ判然タリ然ルニ和解ニ托シ借金百四拾圓ヲ詐取シタルモ  
 ノトハ實ニ推測ノ甚キト謂フ可キナリ且三次警察署ニ於テ口書ハ決テ眞實ニアラス何  
 トナレハ則チ大原全吾并田邊清一郎口書ノ如キ狀マニテ始メヨリ警察署ノ役員カ告訴人  
 田邊清一郎ノ宅ニ止宿シテ被告則チ上告人ヲ捕縛シ剩ヘ強テ毆打セラレ精神ノ疲勞無極  
 協合偏ニ恐怖シテ唯命是レニ從ヒ押印爲シタルモノニ有之夫ト申スモ壓制苛酷ノ責ヲ被  
 ルナラハ忽チ身體保ヲ難キヲ患ヒ速ニ公明ノ法衙ニ出レハ果シテ事實御審糾相成可シト  
 思慮シタル者ナレハナリ



以上陳述ノ次第ナルニ付廣島輕罪裁判所ノ裁判ハ事實覺ナキヲ以テ誠ニ遺憾堪ヘカタク  
カ故ニ不得止奉告候間原裁判御破毀ノ上公明正大ノ御裁判奉仰候以上

明治十五年五月十七日澤右衛門ハ重テ追上告明細書及ヒ手續書ヲ差出シタリ

追上告明細書

本年四月五日廣島輕罪裁判所ニ於テ重禁錮一ヶ月ノ刑ニ處セラレト雖モ敬服難致ニ付  
本年四月十三日付テ以上告仕明細書中余蘊ナク陳述シタル心得ニハ候得共尙聊カ詳細ヲ  
欠キタル處アルヲ以テ這回追上書ヲ捧呈シテ自分カ犯罪ノアラサル点ヲ證明シ曩キニ呈  
供セシ書面ヲ確メントス

一抑自分カ廣島輕罪裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケタル判文ノ要領及ヒ證據ヲ推考スルニ乙第  
一號乙第三號證等ノ無効ニシテ之ヲ約言セハ金圓ヲ拂入ス告訴和裁ヲ名トシ漫ニ百四拾  
圓ノ金ヲ詐取セシト云フニ外ナラサルヘシ然レハ則借金百四拾圓ハ現金ヲ出シテ濟方ヲ  
爲セシカ將ヲ認定セラレタル如シ金圓ヲ拂入ス借金證書ヲ詐取セシカラ判スルヲ肝要ノ  
事ナリトシ亦之レカ反證ヲ擧ケルヲ以最モ本件上告ノ一大眼目ナリトス茲ニ於テ自分ハ  
正ニ現金ヲ拂入而シテ兩通ノ證書ヲ落掌セシ證明ヲナスコアリ蓋シ本件告訴人田邊清一  
郎ニシケル確乎タル證據ナルニ非ラス單ニ乙第一三號證領收ノ手續ト最初告訴人田邊清  
一郎ヲ被告トシ稻草交番所ヘ御届ナシタル等ノ事跡ニ由リ斷定セラレタルモノニテ決シ  
テ證據ノ完全セシモノニ非ラス素ヨリ刑法ハ民法ト異リ事實ノ推測ヲ主トスル最モ緊要  
ノ事ナリト思料セリ果シテ然レハ谷本惣十郎カ檢事局ヘ呈出シタル書面ニヨルモ全ク現

金拂渡シタルハ著明ニシテ此點ニ事實ノ推測ヲ下サルヘキハ當然ノ事ナルコ却テ其事ナ  
ク自分ナシテ犯罪ナリト斷定セラレタルハ満足セサルノ甚キナリ夫谷本惣十郎ナル者ハ  
告訴人田邊清一郎ノ荷擔者ニシテ業已ニ客年十一月十五日檢事局ノ喚問セラレ、ニ由リ  
出廣シ敷席ノ御糾治アルモ容易ニ白狀セサリシカ漸ク十二月二十日ヲ以テ眞實ノ白狀爲  
シ其手續書ヲ呈シタル即チ別紙證據ノ如シ該證ノ明文ニ憑レハ清一郎ノ頼ヲ受ケ事ヲ枉  
テ自分ヲ犯罪者ニ陷レントスル事跡ト亦現金八拾圓拂入タル事等明白タリ然リ而シテ三  
次警察署ニ爲シタル口供ノ如キハ自分儀檢事局ヘ始メテ出頭開陳セシ爾來陳述スル如ク  
眞實自由ノ白狀ニ非ラス亦心中甘シテ爲シタル摺印ニ非ラス右ハ必竟拷訊ヲ恐レ異日歷  
制ナキ場所ニ出頭シテ白日ナラシメント思料シ壓制ニ隨ヒタル迄ナリ尙探偵係大原全吾  
等ノ舉動ニ於ル自分壹人ノ陳述ニアラス引合或ハ被告トシテ檢事局ヘ喚問セラレタルモ  
利常藏外四名ノ者カ親シク陳述セシ如ク實ニ不都合ノ暴舉動ニシテ警察署ノ如キハ概シ  
テ如此吟味アルヤト僻邑ノ小民恐惶スル處ナリ尙亦大原全吾カ申供ノ如ク自分等逮捕ノ  
際ハ告訴人ノ宅ニ宿泊シテ其事ヲ扱ヒタル等ハ爲スヘカテサル最モ甚シキ行爲ナリト思  
料セリ如此ノ舉動ニシテ是等ノ点ヨリ論スルモ三次警察署ヘ口供ハ眞實ノ吐白ニアラサ  
ル義ヲ御推考飽迄モ熱望シテ止マサル處ナリ

右開陳スル如キ次第コテ告訴人カ主張スル金圓ヲ拂ハス漫ニ借金證書ヲ詐取セシトノ陳  
述ハ別紙證書ニ憑テ虛誕ナルヲ著明ナリ  
〔甲第二號證ヘ對スル拂入金ノ義ハ〕然レハ則自  
〔上告明細書ニ委シキ故茲ニ記セス〕  
分ニ於テ犯罪アルナキハ旨ヲ俟タサリシカ原裁判所ニ於テ宣告セラレタルハ如何ニモ撤



服難仕飽迄モ事實ノ御推測被成下公明ノ御裁判奉願候

手續書

一自分儀本年月日ハ確ト相覺ヘ不申候得トモ舊七月頃日モ時間モ覺ヘ無御座午去リ晝ニハ相違無御座候田邊清一郎ノ依頼ヲ受ケ同郡稻草村ノ豆腐屋ト申家ヘ參リ候處該家ノ中庭ニ於テ清一郎ナル者金八拾圓ト受取證ヲ懷ニ入自分ヘ申方只今取引相濟シ候間此受取證ヘ自分實印押捺致シ與レ候様申ニ付其意ニ應シ申候夫ヨリ裏座敷ニ於テ山田澤右衛門兒玉正四郎澤與四郎安田政藏田邊清一郎自分ト都合六名ニテ酒宴ヲ相催暫時ニシテ各相歸リ該入費ハ何レヨリ仕拂ヒタルカモ自分ハ承知不仕儀ニ御座候

一凡舊七月頃日ハ相不覺候得トモ正午十二時頃田邊清一郎自分細工桶屋ハカヘ致シ居リ候處ヘ參リ申様ハ過日澤右衛門ヨリ受取タル金八拾圓ハ他言スルコトナカレト堅ク依頼申候ニ付其儀相守リ是迄度々ノ御席ニモ誠實不奉申上段重々奉恐入候右ハ手續有休ノ書ヲ以テ奉上申候也

辯明

上告ノ要旨ハ金圓ヲ拂ヒタルコトハ谷本總十郎カ檢事局ヘ呈出シタル書面ニ據テ著明ナルニ三次警察署ノ壓制ニ由リ押印シタル口供ヲ眞實ノ白狀ナリトシ金圓ヲ拂ハス漫コ借金證書ヲ詐取シタル者ト断定セラレシハ不當ナリト云ニアレトモ總十郎カ嚮ニ三次警察署ニ於テ爲シタル口供内ニ「清一郎ニ向ヒ此餘如何可成行カ難計最早金銀ニテ和解スルノ外ナレ何ント考ヘハ無之哉申進メ候得ト同人ハ今一應親類ヘ面會ノ義歎キ出ルモ番人與

四郎ノ不聞入ヨリ不得止得必致シ尤モ金子此節持合サスト申立候ニ付然ラハ兼テ澤右衛門ヨリ書入レタル田地并ニ證文共返戻シ且此度ノ入費辨償スレハ随分和談可相成ト申聞ルコト清一郎モ其意ニ應シタレハ安田政藏ヨリ其旨澤右衛門ヘ傳ヘルニ同人モ納得ノ趣ニテ濟口證文ノ案文持來リ清一郎ニ筆記爲致都合金百四拾圓ノ證文ト外ニ地券書壹枚澤右衛門ヘ相渡シ右事件熟談ノ上願下致シ和解ノ酒宴ヲ催シ夜ニ入テ立歸候トアリテ其後檢事補兒玉利明カ訊問ニ對シ爲シタル供狀ニ「三次警察署ニ於テ押印シタル口供ハ相違ナレトアルヲ觀レハ其檢事局ヘ呈出シタル書面ハ信ヲ措クニ足ラス又三次警察署ニ於テ爲シタル口供ハ壓制ニ因リ押印シタルトノ證憑ナクハ採用スルニ由ナキカ故ニ上告ノ旨趣ハ相立タルモノトス

判決

若ノ如クナルヲ以テ明治十五年四月五日廣島縣裁判所ニ於テ山田澤右衛門ニ言渡シタル裁判ハ被毀スヘキ理由ナキヨリ上告狀却下スル者也

第八百八號

○判文(二重眞實ノ件)明治十五年四月廿五日上告  
明治十五年六月廿四日判決

栃木縣下野國那賀郡瀧岡村

平民

大島利八郎

明治十五年四月  
三十一



明治十五年四月十四日栃木縣裁判所ニ於テ右利八郎へ左ノ裁判ヲ言渡シテ  
 其方儀明治十三年十二月二日ニ代價金貳百五拾圓ニテ増淵寅吉ヨリ買得セシ三町四反八  
 畝三步ノ地所ハ明治十三年十一月十八日矢野良元へ賣渡シテアリタル情ヲ知ラズシテ買得  
 セシモノナリト抗辯スレハ第一増淵寅吉ニ於テハ其情ヲ共通セシモノナリト白狀シ第二  
 汝カ領収スル所ノ賣渡證書ハ汝ノ長男市太郎カ筆記セシ際買主則汝ノ名義ヲ省キ置キ加  
 判人谷口元次増淵熊吉ノ連署アリシ后テハ其宛名ヲ記載セシモノナリト供述セリ第三明  
 治十四年一月八日付ヲ以テ増淵寅吉ト連署ノ上谷口元次へ交付セシ約定證中其文詞ハ事  
 實ニ反スルモ枉テ捺印セシモノナリト申立ツレハ該證ヲ調整セシ際川上玄碩川島嘉一郎  
 等ニ於テハ右約定證ハ増淵寅吉及ヒ汝カ意詞ヲ落合充美ニ告ケ充美ニ於テ之レヲ筆記シ  
 汝ニ於テ異議ナシ捺印セシモノナリト證言スルニ依リ正當ニ成リ立タル約定證ナルコト明  
 ラカナリ而シテ其證書中ニ「矢野良元方へ賣渡シ置候處我等方ニテ承知致シ買受ケ云々」  
 トアリ右ノ數證ニ依リ其事實ヲ推測シ是レヲ審按スルニ矢野良元へ未ダ公證アル賣渡證  
 ノ交付シナキ奇貨トシ重賣ノ情ヲ知リ本件ノ地所ヲ買取セシモノト認定ス而シテ其所  
 犯刑法實施以前ニ在ルヲ以テ戸籍律重典賣田宅條ニ重テテ典買スルノ人及ヒ牙保情ヲ知  
 ルモノハ犯人ト同罪トアルニ依リ右科竊盜ニ準シテ論シ懲役十年ニ該ルト雖モ輕キニ從  
 ヒ刑法第四百一條ニ照シ九月ノ重禁錮ニ處シ賣渡證書并地券狀ハ刑法第四十三條ニヨリ  
 之ヲ沒收ス將テ上文三町四反八畝三步ノ地所ハ被害者則矢野良元へ交付スヘシ  
 但シ附加ノ罰金ハ明治十四年第八十一號布告ニ照シ之レヲ適用セズ

大島利八郎於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年四月十九日本院ニ差出シタル上告狀ノ旨  
 趣左ノ如シ

一裁判狀認定ノ第一「増淵寅吉ニ於テハ其情ヲ共通セシモノナリト白狀シ」云々ヲ以テ  
 自分カ増淵寅吉カ矢野良元へ賣買ノ約定アルヲ知リテ買得セリトノ認定ハ法官ノ臆測私  
 量ニ出テ法理ニ基キ認定セタルモノニ非ラズ何ントナレハ相當代價ヲ以テ地所ヲ自分カ  
 買得スルニ他人ニ賣買ノ約定アルヲ知リテ其地所ヲ強テ買得スルノ道理ナキモノナリ地  
 所ハ増淵寅吉特リ所有スルモノニモアラス社會億百万ノ所有スルモノナレハ相當代價ヲ  
 以テ買得セントスルハ毫モ瑕瑾ナク聊モ故障ナキ地所ヲ買得スルヲ得ヘシ然ルニ他ニ  
 賣買ノ約定アルコトヲ自分ニ於テ知得シナカラ巨額ノ金圓ヲ増淵寅吉ニ渡シ后日故障アル  
 地所ヲ買得スルノ理由ナキコト自分カ喋々論辨ヲ俟タスシテ明ラカナリ而シテ増淵寅吉カ  
 自分ト共通ノ上賣買シタルモノト申立タルハ事實ノ白狀ニ非ラズ故造ヲ以テ陳述シタル  
 モノナリ然ルヲ認定ノ第一ニ掲ケ憑據トスルハ不法ノ裁判ト謂フヘシ  
 又第二「汝カ領収スル所ノ賣渡證書ハ汝ノ長男市太郎カ筆記セシ際買主則汝チノ名  
 義ヲ省キ加判人谷口元次増淵熊吉ノ連署アリシ后ニ其宛名ヲ記載セシモノナリト供述セ  
 リ」云々ヲ以テ自分カ増淵寅吉ト共通シテ地所ヲ買得シタルモノトノ認定ハ法理ニ因テ  
 論スルモ事實ノ推測ニ因テ論スルモ不當ノ認定ト云ハサルヲ得ス何ントナレハ長男市太  
 郎ハ増淵寅吉ノ依頼ニ依リ宛名ナキ地所賣渡證ヲ筆記シ其后チ尙ホ又同人ノ依頼ニ因リ  
 宛名ヲ筆記シタルハ増淵寅吉ノ頼ミニ應シ市太郎ニ於テ筆記シタルモノナルヘシ假令此



事由アリト雖も自分カ増淵寅吉ト共通シテ地所賣買シタルノ憑據トナルヘキモノコ非ラ

又第三ニ「明治十四年一月八日付ヲ以テ増淵寅吉ト連署ノ上谷口元次ヘ交付セシ約定證  
中其文詞ハ事實ニ反スルモ枉テ押印セシモノナリト申立レハ該証ヲ調整セシ際關係セシ  
川上玄碩川島嘉一郎等ニ於テハ其約定證ハ増淵寅吉及ヒ汝チカ意詞ヲ落合充美ニ告ケ充  
美ニ於テ之レヲ筆記シ汝チニ異議ナク捺印セシモノナリト証言スルニ依リ正當ニ成リ立  
チタル約定証ナルヲ明ラカナリ」云々ト判定セシハ不當モ亦太タシ何ントナレハ自分カ  
谷口元次ヘ交付セシ約定證ハ該件熟談ニテ買得ノ地所ヲ返地シ買受ケ代金ヲ受取ラント  
約定スルノ際ナレハ事ノ虛實コ論ナク熟談濟方チ第一ノ極度ト心得約定文詞ノ何タルチ  
知ラス調印シタルモノナレハ之レヲシテ増淵寅吉ト共通シテ地所買得シタルモノト認定  
スルハ事實ニ阻礙シタルモノト私量ト云フヘシ假ニ自分カ増淵寅吉ト共通シテ地所買得  
シタルモノナレハ深ク彌縫シ容易ニ他人ニ語ラサルハ人情ノ常ナリ然ルコ矢野良元ヘ賣  
買ノ約定アル事チ知リナカラ買得シタル地所ナリト証書チ谷口元次ヘ交付スルハ文詞ノ  
何ニタルチ知ラス捺印シタルモノナルヤ明カナリ  
若陳述ノ理由ナルコ因リ増淵寅吉カ他人ニ賣買ノ約定アルコハ毫モ知ラス買得シタル地  
所ナルニ判官ニ於テ増淵寅吉カ故造ノ片言チ信シ又タ長男市太郎ニ宛名ナキ地所賣買証  
チ筆記シタルト且ツ自分カ錯誤ニテ交付シタル証書ニ依リテ増淵寅吉ト共通シテ地所買  
得シタルト認定裁判アリシハ不當ニ付其裁判破毀アラシコチ謹テ上告仕候以上

明治十五年五月十七日第三條ノ追補及ヒ第四條第五條第六條チ加ニ左ノ追伸書チ差出シタ

第三條追補

一自分ニ於テ増淵寅吉ヨリ本件ノ地所チ買取セシ時既コ矢野良元ヘ賣渡スヘキ密約ノア  
リシコチ毫モ知ラサリシ概略ハ第一條ヨリ第三條マテニ開陳セシ如クナリ且ツ其之チ知  
ラサリシ事實ノ火チ賭ルヨリ明ラカナルモノアリ彼ノ先キニ増淵寅吉カ矢野良元ヘ密約  
チ以テ賣渡シタル代金ハ貳百貳拾五圓ナリ而シテ自分カ公然買取シタル代金ハ貳百五十  
圓ナリ若シ夫レ自分ニ於テ代金二百五拾圓チ相渡シ地所チ買取スルニ既コ他人ヘ賣渡シ  
アル地所ナルコチ知ラハ何チ頼シテ貴重ナル金額チ拂ヒ葛藤チ買取スルノ理アラソヤ此  
ノ一事チ推シテモ當時重賣ノ情チ知ラサル事實ノ賭易キモノナラヌヤ然ルニ原裁判所ハ  
其事實ノ認定チ錯誤シ重賣ニ係ル情チ知リタルモノト臆斷セラレシハ不當ノ裁判コアラ  
スシテ何ソヤ

第四條

一前條々ニ於テ原裁判ハ事實ノ認定錯誤ニシテ不當ナルコチ開陳セリ夫レ事實ノ認定ハ  
當該裁判官ノ心証ノ判斷ニ任カヌモノトスルハ其據ルヘキノ証跡ナキ場合若シコチ相矛  
盾シテ心証ニ委セサレハ得テ判スヘカラサルノ時ニ限ルハ裁判官ノ通法ニシテ豈其據ル  
ヘキノ証跡アリ觀ルヘキノ事實アルニモ關セス任意ノ臆斷ヲ以テ心証判斷ナリト云フチ  
得ンヤ是レ本件ノ認定ハ不法ノ認定ナリトシテ破毀チ求ムル所以ナリ



第五條

一原裁判所ハ刑法第二條ノ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之レヲ罰スルヲ得  
 スト云フ法律ノ命令ヲ遵守セザリシ不法ノ裁判ナルヲ開陳セントス  
 抑モ自分カ増淵寅吉ヨリ地所ヲ買取シタル所爲ハ言渡書ニ明示セラレシ如ク舊律即チ新  
 律綱領戸婚律重典賣田宅條ニ重テ典賣スルノ人ハ犯人ト同罪トアルノ正條ニ適當スル  
 罪ナリト判定セラレシハ不法ニアラサルカ如シ 仮リニ其情ヲ知リテ買取 然ルニ本年一月  
 一日新法即チ刑法ノ實施セラレタルニ因リ彼ノ重テ典賣スルノ人ハ同罪トアル法律ハ  
 廢止セラレタルモノニアラスヤ如何トナレハ刑法及ヒ其他現行ノ法律規則ニ重テ典賣  
 スルノ所爲ヲ罰スヘキ正條ナクハナリ然ラハ則チ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑  
 チ廢止シタル場合ナレハ治罪法第九條ニ依リ公訴ヲ爲スノ權ハ消滅セシモノナリ然ルニ  
 原裁判所カ本件ノ公訴ヲ受理セラレシハ其重テ典賣セシ所爲ハ即チ刑法第四百一條詐  
 欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受テ又ハ寄藏故買シ若シクハ牙保チ  
 爲シタル者ハ云々トアル正條中ノ故買シタル者ニ適用セラレシモノナラン果シテ然ラハ  
 此適用タル實ニ誤謬ノ太クシキモノト云フヘシ請フ其誤謬ヲ詳陳セシ夫レ刑法第四百一  
 條タルヤ其明文ノ如ク詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知リテ故買シタル者  
 チ罰スヘキ正條ニシテ甲者カ贖キニ乙者ニ賣渡シノ契約ヲ爲シタル物件ナルヲ知リテ  
 甲者ヨリ丙者ニ買取シタル如キハ只民法上其契約ノ効力ノ有無ヲ爭フニ止マリ此所爲チ  
 罪トシテ罰スヘキノ法律ニアラサルナリ然ルニ原裁判所ハ此所爲ヲ以テ直チニ詐欺取財

等ノ犯罪ニ關スル贓物チ故買シタルモノト同視セラレシハ誤謬ニアラスシテ何ソヤ此レ  
 原裁判所カ法律ニ違ヒ公訴ヲ受理シ無罪ノ自分ニ對シ刑ノ言渡シヲ爲シタルハ即チ不法  
 ノ裁判ナリト愚料スル所以ナリ

第六條

一右ノ理由ナルヲ以テ本院ニ於テ原裁判所カ刑法第四百一條及ヒ刑法第四十三條ニ照シ  
 言渡サレタル裁判チ破毀セラレ治罪法第四百二十九條ニ依リ本院ニ於テ直チニ裁判ヲ言  
 渡サレノヲ請願ス

辨明

上告人ニ於テ増淵寅吉ヨリ買得セシ地所ハ他人ニ賣渡シアリタルノ情ハ毫モ知ラザリシ  
 ニ寅吉カ故造ノ片言等ニ據リ其情ヲ知テ買取セシ者ト認定セラレシハ不法ナル旨陳辨ス  
 ト雖モ其陳辨スル所一モ確信スヘキ證據ナキヲ以テ採用スルニ由ナキモノトス又上告人  
 ニ於テ假リニ其情ヲ知テ買取セシ者トスルモ新法ニ於テ正條ナクハ之ヲ罪ト爲シ罰ス  
 ルヲ得サルモノナルニ原裁判所ニ於テ刑法第四百一條ヲ適用セシハ不法ナル旨論辨ス  
 ト雖モ舊法ニ於テ盜賣田宅條及重典賣田宅條ニ依リ論スヘキ者新法ニ比照スレハ刑法第  
 三百九十三條他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財  
 チ以テ自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣典シ又ハ重テテ  
 抵當典物ト爲シタル者亦同シトアルニ該ルヲ以テ其情ヲ知テ買取セシ者ハ即チ刑法第四  
 百一條詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受テ又ハ寄藏故買シ若シハ



牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルコト依リ處斷スヘキ者トス故ニ原裁判所ニ於テ刑法第四百一條ヲ適用セシハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年四月十四日栃木輕罪裁判所ニ於テ大島利八郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニヨリ上告狀却下スルモノ也

第八百九號

○判文(三重典賣ノ件)明治十五年四月廿五日上告  
明治十五年六月廿四日判決

栃木縣下野國那須郡瀧岡村

平民利八郎長男

大島市太郎

明治十五年四月  
二十二年七月

明治十五年四月十四日栃木輕罪裁判所ニ於テ右市太郎ヘ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年十二月二日ニ増淵寅吉ヨリ父利八郎ヘ買得セシメタル三町四反八畝三歩ノ地所ハ明治十三年十一月十八日ニ矢野良元ヘ賣渡シアリタルノ情ヲ知ラステ買得セシメタルモノナリト申立ツレ共第一増淵寅吉ニ於テハ其情ヲ共通セシモノナリト白狀シ第二利八郎カ領収スル處ノ賣渡証書ハ汝カ筆記セシ際買主則利八郎ノ名義ヲ省キ置キ加判人谷口元次増淵熊吉ノ連署アリタル后ニ其宛名ヲ記載セシモノナリトノ白狀アリ第

三利八郎及ヒ増淵寅吉連署ノ上明治十四年一月八日付ヲ以テ谷口元次ヘ交付セシ証書ニ矢野良元方ヘ賣渡置候處我等方ニテ承知致シ買受ケ云々トアリ右ノ數証ニヨリ其實情ヲ推測シ是レヲ審按スルニ矢野良元ヘ未タ公証アル賣渡証ヲ交付シナキ奇貨トシ重賣ノ情ヲ知テ右ノ地所ヲ買得セシメタルモノト認定ス而シテ其所爲ハ刑法實施以前ニ在ルヲ以テ戸婚律重典賣田宅條ニ典買スルノ人及ヒ牙保情ヲ知ルモノハ犯人ト同罪トアルニ依リ右科竊盜ニ準シテ論シ賍金百貳拾圓以上懲役十年父利八郎ト共犯ナルヲ以テ名例律共犯罪分首從條第三項ニ其盜罪云々ハ凡人首從ノ法ニ依ルト云フニヨリ從ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七年ニ該ルト雖モ輕キニ從ヒ刑法第四百一條ニ照シ十一日以上一年以下ノ重禁錮其犯罪ヲ容易ナラシメタルモノニ付刑法第九百九條ニ依リ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ六月ノ重禁錮ニ處ス

但シ附加ノ罰金ハ明治十四年第八十一號布告ニ照シ之レヲ適用セス

大島市太郎ニ於テ右裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年四月十九日日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

一自分ニ於テハ明治十三年十一月中増淵寅吉ヨリ矢野良元方ヘ三町四反八畝三歩ノ地所ヲ既ニ賣渡シ有之事ハ毫モ其情ヲ知ラスシテ増淵寅吉ノ乞ヒニ由リ父利八郎方ヘ賣渡証ヲ明治十三年十二月二日ニ筆記シ差遣シタルニ過キサルヲ栃木輕罪裁判所ハ之レニ判決下ラシテ曰ク(第一増淵寅吉ニ於テハ其情ヲ共通セシモノナリト白狀シ)トアリ其實情吉カ口實ノ片言ト又(第二利八郎カ領収スル處ノ賣渡証ハ汝カ筆記セシ際買主則利八郎



ノ名義ヲ省キ置キ加判人谷口元次増淵熊吉ノ連署アリタル后ニ其宛名ヲ記載セシモノナ  
 リトノ白狀アリ」トアレハ其宛名ヲ最初ニ記載セシテ爾後記載セタル理由ハ僉依頼者  
 即チ寅吉ノ乞ヒヨ由リ記シタルモノニアリテ何ソ自分カ之ヲ左右ス可キモノコアラサレ  
 ハナリ尋テ「第三利八郎及ヒ増淵寅吉連署ノ上明治十四年一月八日付ヲ以テ谷口元次へ  
 交付セシ証書ニ矢野良元方へ賣渡シ置候處我等方ニテ承知致シ買受ケ云々トアル」トア  
 レハ該第三ノ点ハ自分カ關與セシモノニアラサレハ之ヲ知ルニ由ナシ然ルニ朽木輕罪裁  
 判所ハ豈圖ラン「矢野良元へ未タ公証アル賣渡証ヲ交付シナキ奇貨トシ重賣ノ情ヲ知  
 テ右ノ地所ヲ買得セシメタルモノト認定ス」ト憶測ノ判決ヲ下サレタルハ不當ノ裁判  
 ナリト思考ス

明治十五年五月十七日第二條ノ追補及第三條四條五條ヲ加ヘ左ノ追申書ヲ差出シタリ

第二條追補

一自分父利八郎ニ於テ増淵寅吉ヨリ本件ノ地所ヲ買取セシ時既ニ矢野良元へ賣渡スヘキ  
 密約アリシコト毫モ知ラザリシ概略ハ第一條ヨリ第二條マテニ開陳セシ如クナリ且ツ其  
 之ヲ知ラザリシ事實ノ火ヲ賭ルヨリ明カナルモノアリ彼ノ先キニ増淵寅吉カ矢野良元へ  
 密約ヲ以テ賣渡シタル代金ハ貳百貳拾五圓ナリ而シテ利八郎カ公然買取シタル代金ハ貳百  
 五拾圓ナリ若シ夫レ利八郎ニ於テ代金貳百五拾圓ヲ相渡シ地所ヲ買取スルコト既ニ他人へ  
 賣渡シタル地所ナルコトヲ知ラハ何チ頼シテ貴重ナル資金額ヲ拂ヒ葛藤ヲ買取スヘキ理ア  
 ランヤ此事ヲ推シテモ當時利八郎及ヒ自分カ重賣ノ情ヲ知ラザル事實ノ賭易キモノナラ

スヤ然ルニ原裁判所ハ其事實ノ認定ヲ錯誤シ重賣ニ係ル情ヲ知ラザルモノト臆斷セラレ  
 シハ不當ノ裁判ニアラスヤ何ソヤ

第三條

一前條々ニ於テ原裁判ハ事實ノ認定錯誤ニシテ不當ナルコトヲ開陳セリ夫レ事實ノ認定ハ  
 當該裁判官ノ心証判斷ニ任カスモノトスルニ其據ルヘキノ証跡ナキ場合若シハ相矛盾シ  
 テ心証ニ委セザレハ得テ判ス可カラサルノ時ニ限ルハ裁判ノ通法ニシテ豈其據ルヘキノ  
 証跡アリ觀ルヘキノ事實アルニモ關ハラス任意ノ臆斷ヲ以テ心証判斷ナリト云フヲ得  
 ヤ是レ本件ノ認定ハ不法ノ認定ナリトシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

第四條

一原裁判所ハ刑法第二條ノ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖ヒ之ヲ罰スルコト得ス  
 ト法律ノ命令ヲ遵守セザリシ不法ノ裁判ナルヲ開陳セントス  
 抑モ利八郎カ増淵寅吉ヨリ地所ヲ買取シタル所爲ハ官渡書ニ明示セラレシ如ク舊律即新  
 律綱領戸婚律重典賣田宅條ニ重子テ典買スルノ人ハ犯人ト同罪トアルノ正條適當ナル罪  
 ナリト判定セラレシハ不法ニアラサルカ如シ假リニ其情ヲ知リテ買取然ルニ本年一月一  
 日新法即チ刑法ヲ實施セラレタルニ因リ彼ノ重子テ典買スルノ人ハ同罪トアル法律ハ廢  
 止セラレタルモノナリ如何トナレハ刑法及ヒ其他現行ノ法律規則ニ重子テ典買スルノ所  
 爲ヲ罰スヘキ正條ナクハナリ然ラハ則チ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シ  
 タル場合ナレハ治罪法第九條ニ依リ公訴ヲ爲スノ權ハ消滅セシモノナリ然ルニ原裁判所



カ本件ノ公訴ヲ受理セラレシハ其重テ典買セシ所爲ハ即チ刑法第四百一條詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ云々トアル正條中ノ故買シタル者ニ適用セラレシモノナラン果シテ然ラハ此適用シタル實ニ誤謬ノ太シキモノト云フヘシ請フ其誤謬ヲ詳陳セン夫レ刑法第四百一條タルヤ其明文ノ如ク詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知リテ故買シタル者ヲ罰スヘキ正條ニシテ甲者カ買キ乙者ニ賣渡シノ契約ヲ爲シタル物件ナルヲ知リテ甲者ヨリ丙者ニ買取シタル如キハ只民法上其契約ノ効力ノ有無ヲ争フニ止マリ此所爲ヲ罪トシテ罰スヘキノ注律コアラサルナリ然ルニ原裁判所ハ此ノ所爲ヲ以テ直チニ詐欺取財等ノ犯罪ニ關スル贓物ヲ故買シタルモノト同視セラレシハ誤謬ニアラスシテ何ソヤ此レ原裁判所カ法律ニ違ヒ公訴ヲ受理シ無罪ノ自分ニ對シ刑ノ言渡シヲ爲シタルハ即チ不法ノ裁判ナリト思料スル所以ナリ

第五條

一右ノ理由ナルヲ以テ本院ニ於テ原裁判所カ刑法第四百一條及ヒ第百九條ニ照シ言渡サレタル裁判ヲ破毀セラレ治罪法第四百二十九條ニ依リ本院ニ於テ直チニ裁判ヲ言渡サレシヲ請願ス

辨明

上告人ニ於テ増淵寅吉ヨリ父利八郎ニ買得セシメタル地所ハ他人ニ賣渡シアリタルノ情ヲ知ラスシテ買得セシメタルモノナルニ寅吉カ片言等ニ據リ情ヲ知テ買得セシメタルモノト認定セラレシハ不法ナリト陳辨スト雖モ其陳辨スル所一モ信ヲ措クコ足ル者ナキヲ以テ採用スルニ由ナキモノトス又上告人ニ於テ假リニ其情ヲ知テ買得セシメタルモノトスルモ新法ニ於テ正條ナクシテハ之ヲ罪ト爲シ罰スルヲ得サルモノナルコ刑法第四百一條ヲ適用セラレシハ不法ナル旨論辨スト雖モ舊法ニ於テ盜賣田宅條及重典賣田宅條ニ依テ論スヘキ者新法ニ比照スレハ刑法第三百九十三條他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス自己ノ不動産ト雖モ已ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重テテ抵當典物ト爲シタル者亦同シトアルニ該ルヲ以テ其情ヲ知テ買取リタル者ハ即チ刑法第四百一條詐欺取財其他犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若シハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上二拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルコ依リ處斷スヘキ者トス故ニ原裁判所カ刑法第四百一條ヲ適用セシハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年四月十四日栃木輕罪裁判所ニ於テ大島市太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキコヨリ上告狀却下スル者也

第八百十號

○判文(兇徒聚衆ノ件) 明治十五年二月一日上告  
明治十五年六月廿七日判決

群馬縣上野國西群馬郡三ツ

寺村平民



明治十四年十二月  
四十二年八月

右紋彌ニ對シ明治十四年十二月二十一日熊谷裁判所前橋支應於テ左ノ裁判ヲ言渡シテリ  
 其方儀當明治十四年三月五日以降同村外十二ヶ村ノ人民共騒擾ニ及ヒタル原因ハ去ル明  
 治十二年一月中稜名山續キ中野入會秣場ニ聯合村ノ内同郡松ノ澤村清水勇造外七名ニ於  
 テ組合村々ニ協議ヲ尽サヌ一己ニ部分木地拜借ノ義本縣ニ出願シ許可ヲ得ルニ依リ各村  
 ノ人民往々不平ヲ唱ヘ既ニ明治十三年十月中右部分木ヲ濫伐セント欲シ數百ノ人馬西明  
 屋村宇城塩嶺口ニ屯集シ頗ル穂ヤカナラサル風聞モ有之ニ村暴民鎮撫ノ心得ヲ以テ該村  
 ニ至リタル折柄警部或ハ郡書記等ニ於テ鎮靜ニ盡カスルモ驚聲激噪相止マヌ依テ青木龜  
 吉松本泰造等ト共ニ百方説諭ヲ爲シ漸シ歸村セシメタル上組合八十一ヶ村ト協議ヲ遂ケ  
 該事件ヲ融解セシム可クト相考ヘ各村惣代壹二名ヲ撰シ濱川村來迎寺ニ集會致テ可ク旨  
 撤文ヲ發シ書札下ト唱フル六十三ヶ村ノ者來會ニ及ヒタル處棟高村志村彪三ナル者同所  
 へ來リ西明屋村下田純一郎ト協力シ松ノ澤村ニ説諭ヲ加ヘ靜穩ニ歸スル様致シ度趣故同  
 入ニ相任セ且組合村ノ内四五ヶ村ヲ聯合シ各一名ノ惣代ヲ撰舉シ猶右惣代十五名ノ内ヨ  
 リ一名ノ大惣代ヲ撰ニ該事件ヲ委任スル事ニ評決シ各村惣代ノ者共投票ヲ爲シ遂ニ其撰  
 ニ當リ爾後戶長代理ト稱シ平田九平次等モ仲裁ヲ爲シ松ノ澤村ト種々談判ノ末同村ニ於  
 テ官廳ニ部分木地ハ願下ケテ爲シ各村ト共ニ盡ク伐採スル事ニ熱議相整ヒ互ニ契約書ヲ  
 取り替ハセ最モ其際本郡々長吉見郡直ニ其事ニ與カリ然ルニ松ノ澤村ニ於テ前首ヲ食ニ

契約ノ如ク履行セヌ故ニ同年十二月下旬ヨリ右和解書ノ趣ニ依リ部分木ヲ伐採シ是迄ノ  
 如ク入會秣場地ニ据置キ度段郡役所ニ數次願書ヲ差出ヌモ排斥セラレ加フルニ仲裁人志  
 村彪三其他取扱人共モ兎角等閑ニ附シ空シ時日ヲ經過スル中明治十四年一月中旬ニ至  
 リ秣稅上納ニ及ハス且該地拜借致シ度者ハ更ニ出願ス可ク旨郡役所ヨリ違シ有之其レガ  
 爲メ小前ノ者共ニ於テハ惣代人等カ徒ラニ金圓ヲ費消シ該事件關連方ニ盡力セサル者  
 ナル可クトノ疑感ヲ生シ異論鼎沸スル趣ニ依リ各村惣代共ニ福島村金剛寺ニ會合セシメ  
 仲裁人ヲ相招キ廣シ協議ヲ遂ケ將來ノ方向ヲ定ム可クト存シ明治十四年三月二日ヨリ同  
 寺ニ於テ會議ヲ設ケシニ村惣代ノ外小前暴民共漫リニ集會場ニ立交リ部分木伐採論ヲ主  
 張シ爲ニ罵詈暴言ヲ放テ元來各村ニ於テハ松ノ澤村ノ專行ヲ責メ其不信ヲ憤リ自然人氣  
 洩騰シ遂ニ騒擾ニ至リタル者ナレハ鎮靜ニ盡カスルモ何分行届カサル譯ニテ其方カ大惣  
 代ノ專權ヲ以テ衆民ヲ煽動シ多人類ヲ囑集シ官ニ強願セシ者ニハ無之トノ旨趣ヲ以テ種  
 々辨護スルト雖モ第一明治十三年十二月中該件ニ由リ其筋ノ許可ヲ經ス私ニ群馬縣騒擾  
 新誌及ヒ秣場口説ト題シタル冊子ヲ前橋曲輪町活版齋梶山榮吾方ニ托シ印刷ニ附シ各村  
 々ニ配賦スル而巳ナラヌ右小説中各官々吏臆空中ニ飛ヒ手足ノ措置其處ヲ得ヌ等ノ文字  
 ヲ挿入シ群馬縣ノ官吏ヲ誹謗シ加フルニ其事實ニ反シタル虛偽ノ形跡ヲ構造シ人氣ヲ攪  
 擾シ輕躁者ヲ誘起動搖セシムルニ足ルノ語ヲ掲記シ第二聯合惣代青木龜吉其他數名ノ供  
 狀ヲ查スルニ明治十四年一月廿九日同郡高崎驛本町旅店銀杏屋源平方ニ於テ會合ノ際官  
 ノ成規ニ從ヒ松ノ澤村清水勇造外七名カ其筋ノ允許ヲ得テ裁付ケタル部分木ヲ私ニ伐採



七ノ一ヲ決死ノ語ヲ以テ勸誘シ猶同年三月一日十四金古驛本光寺ニ小會議ヲ開設セシ砌  
 リモ其席ニ與リタル梅山傳七外數名へ再ヒ擅伐セシヲ誘導セシ者ナルヤ炳然アリ第三  
 同年三月二日十四福島村金剛寺ニ集會セシ處小前ノ者共安リニ會場へ立入り暴論ヲ發シ  
 且村惣代ノ内ヨリ強テ要求セラレ毎戸一名ツ、同寺へ來會ス可ク旨回章ノ起草ハ爲シテ  
 レ共右ヲ現ニ發付セシハ他人ノ專行ニ出テ更ニ與知セサル旨陳述スルト雖モ其者ヲ指定  
 スル能ハズ殊トコ他ノ惣代人共ヨリ該場ニ於テ小前ノ者立交リ暴論ヲ發シタル等ノ事ハ  
 無之旨申供ス之レニ由テ是レヲ視レハ其當時事ハ遂ケサルモ其方カ人民ヲ囂集センカ爲  
 メ專斷ヲ以テ發附セシ者ナルヤ明カナリ第四同月三四兩日十四年猶引續キ金剛寺ニ會場  
 ナ設ケ夫々協議中部分木擅伐論ヲ提起シ遂ニ其事ニ決議セシメタル趣旨ハ村惣代ノ外小  
 前ノ者共多數安リニ集合シ秣場据置キノ義本縣廳へ相迫リ強願ス可ク旨主張シ容易ナ  
 ラサル形勢ニ至リ因テ登時擅伐ノ方へ誘導シ其銳氣ヲ避ケ時日ヲ遲緩ナラシムル時ハ自  
 然官吏モ派出シ靜穩ニ屬ス可クト思料セシ者ナル旨申述スルモ其會場ニ列セシハ聯合及  
 ヒ村惣代ノモヨシテ當時粗暴ノ行爲ヲナシタル者ハ無之單ニ伐採論ヲ唱ヘタル者モ有之  
 タレ共僅々ヨシテ其意ヲ遂ル能ハサリシニ其方カ大惣代ノ權力ニ頼リ一身ノ覺悟ニ有之  
 旨ヲ以テ擅伐論ヲ主唱シ爲メニ順從論ノ者モ已チ得ス屈從セシ旨數名ノ供狀皆一ツニ歸  
 ス故ニ暴舉ニ至ルヲ慮カリテノ權謀ナリト爲スチ得ス第五同五月五日十四年ハ組合六十  
 三ヶ村ヨリ五六名ツ、同郡保渡田村滿行社へ會合スルコトニ協議ヲ遂ケ置キタルニ各村人  
 民共意外ニ囂集シ一千八百多キニ至リ直チニ部分木ヲ伐採ス可キ勢ヒニ有之タレハ其期

事遲延ナラシムル爲メ舊野付判元拾八ヶ村へ右ノ趣ヲ通報セシ迄ヨシテ俱々擅伐ス可ク  
 旨強誘シ或ハ毎戸壹名ツ、繩鎌ヲ携ヘ會同ス可ク様指示セシ儀ニハ無之段申供スルモ松  
 本泰造其他數名ノ審牒ト當時ノ現狀トニ就キ其事實ヲ推測スルニ元來多數ヲ糾合スル  
 ノ意ニ出ルニ非ストセハ自己ノ所見ヲ以テ暴舉ヲ爲スニ何ソ他人へ報知ヲ要スルノ理ア  
 ラン殊トニ落合多平等ノ如キハ常ニ大惣代則チ其方カ指揮ヲ俟ツテ進退ヲ爲ス者ナレ  
 ハ右拾八ヶ村へ來會ヲ促カシ且繩鎌ヲ執持シ毎戸壹名ツ、會合ス可ク様指示シタルハ  
 同人等カ專斷ニ出テ更ニ干與セサル者ト爲スチ得可カラス第六前同日則チ明治十四年三  
 月五日右滿行社ノ地内へ屯集セシ人民ノ内竹槍ヲ製作シ或ハ竹螺ヲ吹キ鎮撫ノ爲メ出張  
 セシ七等警部齋藤學等へ不敬ノ所爲ニ及ヒタル際俱ニ官吏へ對シ暴言ヲ發セシコト無之旨  
 申立ルト雖モ齋藤學カ開申書ニ同人ヨリ其方へ解散ヲ命セシニ其指示ニ抗シ官吏ハ俸ヲ  
 受ケ其公務ヲ延滞スル則チ月給盜入ト云フテ可ナリ杯惡口セシ旨具申ス故ニ罵詈ニ及ヒ  
 タル覺ヘ無之トノ供述ハ信用スルニ由ナシ第七同月六日十四年該件取扱人平田九平次外  
 二人ニ來會ヲ促ス爲メ同家へ多人數ヲ派遣セシハ暴民共ノ情願ナレハ其暴舉ヲ慮カリ取  
 締リトシテ夫々聯合惣代ヲ添付シタル旨申立ルト雖モ素ヨリ其方ハ大惣代ノ任ニ在ツテ  
 百事衆民ヲ左右スルノ權ヲ有シ殊トニ長坂孫四郎等數名ノ供狀ヲ審查スルニ暴民カ強迫  
 ニ出テタル者ト思料ス可キ嚴重モ無之ニ由テ是ヲ視レハ其方カ衆力ヲ要シ暴威ヲ示シ九  
 平次等ヲ畏懼セシメ官私ノ間ヲニ周旋ナサシメ暗ニ自己ノ素意ヲ暢達セシコト企圖セシ  
 者ナルヤ知ル可シ第八爾後引續キ金剛寺へ屯集スル折柄同月九日十四年 群馬縣大書記官



森野於郡長吉見邦直其他屬官等ヲ率ヒ其場ニ莅シ情願ノ筋アラハ速カニ退散ノ上願  
 亭ヲ經テ出願ス可シ旨説諭セシム由リ其際從前ノ如ク八十餘ヶ村ノ秣場ニ据ヘ置キ松ノ  
 澤村部分木ハ和解書ノ通り入會村ニ至急伐採致シ度トノ願書ヲ郡長ヘ差出セシム其後  
 右願書ハ却下セラレ其上月十四日十四年三月早日ニ屯集ノ人民ヲシテ解散セシム可ク旨管  
 廳ヨリ青木龜吉外一人ヘ演達有之タレ共巨多ノ人民ニ於テ其命ヲ遵奉セサル而已ナラス  
 強威ヲ以テ依風セラレ幾キニ弄却ニ相成リタルト同一ノ願書ヲ再ヒ進達ニ及ヒタル旨申  
 立ルト雖モ其方カ衆力ヲ願ミ退去セシムルヲ拒ミタル等ノ儀ハ松本泰造其他數名ノ審牒  
 ニ就キ其實質ヲ推知スルニ足レリ右ノ理由ナルヲ以テ起頭ハ前願ノ紛紜ヲ融解セシム  
 ト欲シ其事ニ尽力セシモ容易ニ調理スル能ハサルニヨリ半途ニシテ兇暴ノ意ヲ發シ人民  
 ヲ煽動シ衆ヲ集メ管廳ヘ強願セシ者ト認定セサルヲ得ヌ因テ右科改定律例第五百十三條  
 中衆ヲ聚メ訴ヘテ捕ヘ官ニ強迫スルト雖モ良民ヲ擾害セサル者ハ云々トアルニ比擬シ懲  
 役十年ノ處情法ヲ量リ本罪ニ四等ヲ減シ懲役二年半申付仍ホ私ニ小説ノ冊子ヲ刊行シテ  
 群馬縣ノ官吏ヲ誹謗セシ科ハ出版條例第二十七條及ヒ罰則第一條ニ依リ其冊子ヲ沒收ノ  
 上讒謗律第四條ニ照シ禁獄三十日申付ル  
 眞摺紋彌ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月三十日附テ以本院ニ差出タル  
 上告狀ノ旨概左ノ如ク

第一條

「宣告書前文略」各村惣代共ニ福島村金剛寺ニ會合セシメ仲裁人ヲ相招キ廣ク協議ヲ遂ケ

將來ノ方向ヲ定ム可シト存シ明治十四年三月二日ヨリ同寺ニ於テ會議ヲ設ケシニ村惣代  
 ノ外小前暴民共漫リニ集會場ヘ立交リ部分木伐採論ヲ主張シ爲ニ罵詈暴言ヲ放テ元來各  
 村ニ於テハ松ノ澤村ノ專行ヲ責メ其不信ヲ憤リ自然人氣沸騰シ遂ニ騷擾ニ至リタル者ナ  
 レハ鎮靜ニ尽カスルモ何分行届カサル譯ニテ其方カ大惣代ノ專權ヲ以テ衆民ヲ煽動シ多  
 入數ヲ囂集シ官ニ強願セシ者ニハ無之トノ旨趣ヲ以テ種々辨護スルト雖モ第一明治十三  
 年十二月該件ニ由リ其筋ノ許可ヲ經ス私ニ群馬縣騷擾新誌及ヒ秣場口説ト題シタル冊  
 子ヲ前橋曲輪町活版職堀山榮吾方ヘ托シ印刷ニ附シ各村々ヘ配賦スル而已ナラス右小説  
 中各官々吏臆空中ニ飛ヒ手足ノ措置其處ヲ得ヌ等ノ文字ヲ挿入シ群馬縣ノ官吏ヲ誹謗  
 加フルニ其實實ニ反シタル虛偽ノ形跡ヲ構造シ人氣ヲ攪擾シ輕躁者ヲ騷起動搖セシムル  
 ニ足ルノ語ヲ掲記シ云々ト判定セラレシハ不當モ亦甚シ奈何トナレハ自分ハ六十三ヶ  
 村ノ大惣代ナルヲ以テ明治十四年三月二日各村ノ惣代并ニ仲裁人ヲ招キ騷擾ノ患ナカラ  
 シメン爲メ豫メ會議ニ付シ事ヲ總カニ計ラヒ安着ヲ主トシ謀リシニ平素不平ヲ懷ク部民  
 漫リニ集會場ヲ侵シ暴言ヲ放テ已ニ暴行セシトノ勢ヒナルカ故ニ百方説諭ヲ加ヘタリシ  
 モ毎ニ不平ノ愚民ナレハ大惣代ノ任ヲ帶フル自分ナレハ迎焉ソ能ク一言ノ下ニ抑壓スル  
 ノ權アランヤ已ニ職ヲ官ニ奉スル警吏ノ抑制猶且聽用セヌ數月鎮靜スルノ勢ヒアラサル  
 ニ於テチヤ又曰シ小冊子ヲ編輯シ印刷ニ付シ云々トアル是レハ自分カ日記ニシテ同志ノ  
 惣代共カ机上ヲ扣テ持行シナリ何ソ各村ニ配賦スルコトアラン然ルニ判文ニ輕躁ノ民ヲ煽  
 動スル云々トアリ豈萬々アル可カラサル事ヤ明クシ其ノ理何レニ存ストナレハ編輯シテ



印刷コ付ツタルハ昨明治十三年十二月ノ事ニシテ已ニ和議ノ諧調シルル登時迄ヲ筆記ナ  
シタルモノナリ此意外ナラズ自分カ各村ヨリ附托セラレタル事業ノ大任峻効ノ歡喜ヲ記  
載シテ後ニ傳ントナシタル以謂ナリ而シテ初メ自分ハ詐爲ナシタル松ノ澤トノ契約書ヲ飽  
迄履行セントナス社道理何ソ此初意ニ悖リ人ヲ動搖シ笑テ江湖ニ迎ヒ法網ニ罹ルノ恥ヲ  
探ルノ頑且愚ナルヲ有ル可ケンヤ是等ノ一自分但ナラズ凡宇宙ノ廣キモ自ラ作り自ラ損  
スル如キモノアラソヤ然ルニ判文ハ此理ヲ誤リ素志ナリ權謀ナリトスルハ甚タ不當ナリ  
トス

第二條

〔第二聯合惣代青木龜吉其他數名ノ供狀ヲ查スルニ明治十四年一月廿九日同郡高崎驛本  
町旅店銀杏屋源平方ニ於テ會合ノ際官ノ成規ニ從ヒ松ノ澤村清水勇造外七名カ其筋ノ允  
許ヲ得テ裁付ケタル部分木ヲ私ニ伐採センコトヲ決死ノ語ヲ以テ勸誘シ猶同年三月一日金  
古驛本光寺ニ小會議ヲ開設セシ砌リモ云々トハ無根ノ妄言ニシテ決シテ斯ノ言ヲ吐露シ  
タル義無之此ノ如ク供述セハ果シテ云フ者アラソカ官告狀ノ中ヲ本縣廳ニ相迫リ強願ス  
可シ旨主張容易ナラサル形勢ニ至リ因テ登時擅伐方ニ誘導シ其銳氣ヲ避ケ云々ト自カラ  
明言スル處ロアリ由之觀是推測シテモ証スルコ足ル可シト否決シテ然ラサルノ理アリ已  
ニ明治十四年三月四日擅伐ヲ勸誘セシハ銳氣ヲ退カシメルト時刻ヲ通延セシメ警官ノ派  
出ヲ暗ニ待テ居ルト二點ノ策ニアリ果シテ決死ノ語ヲ以テ勸誘スルノ意アラハ明治十四  
年三月五日千有余人繩鎌ヲ携帶シテ來リタルノ際伐採セサルヲ得ス是レ何人カ嘴ヲ揃ヘ

供出爲スモ無限ノ妄言ナリト云フ反證ト云フテ其効力存ス可キナリ

第三條

第三同年三月二日十四 福島村金剛寺ニ集會セシ處小前ノ者共妄リニ會場ニ立入り暴論ヲ  
發シ且村惣代ノ内ヨリ強テ要求セラレ毎戸一名ツ、同寺ニ來會ス可ク旨回章ノ起草ハ爲  
シタレモ右ヲ現ニ發付セシハ他人ノ專行ニ出テ更ニ與知セサル旨陳述スルト雖モ其者ヲ  
指定スル能ハス殊トニ他ノ惣代人共ヨリ該場ニ於テ小前ノ者立交リ暴論ヲ發シタル等ノ  
事ハ無之旨申供ス之レニ由テ是レヲ視レハ其當時事ハ遂ケサルモ其方カ人民ヲ囂集セン  
カ爲メ專斷ヲ以テ發付セシ者ナルヤ明カナリ云々ト推測セラレシモ事實ト齟齬スル處大  
ナリ已ニ云フ暴論者ノ要求コト不得止銳氣ヲ止メントノ策ヨリ起草ハ爲シタル共事實ニ  
行フノ意ナシ其事實ニ行フノ意ナシト云フニ意ハ外ニ露ハサルカ故ニ反證ヲ表明スル能  
ハサレ共條理ニ依テ是レヲ破フラン夫レ自分ハ苟モ即チ六拾有餘ケ村人民ノ惣代ニシテ  
抑亦多少知覺精神ヲ備ヒ魯魚菽麥ヲ同視スルコ至ラス其代人ノ位置ニ撰ハレタル自分  
平素ノ誓ヒニ悖リ何ノ一戸一名ノ加勢ヲ得テ何ノ用ニ供ス可キ歟暴行ヲ以テ人ニ害ヲ加  
ハセントノ意趣ヲ動ス小膽ニ非サルヲ推テ知ル可シ

第四條

〔第四〔中略〕其會場ニ列セシハ聯合及ヒ村惣代ノミニシテ當時粗暴ノ行爲ヲナシタル者  
ハ無之單ニ伐採論ヲ唱ヘタル者モ有之タレモ僅々ニシテ其意ヲ遂ル能ハサリシニ其方カ  
大惣代ノ權力ニ頼リ一身ノ覺悟ニ有之旨ヲ以テ擅伐論ヲ唱シ爲メニ順從論ノ者モ已チ



得ス屈從セシ旨數名ノ供狀皆一ツニ歸ス故ニ暴舉ニ至ルヲ慮カリテノ權謀ナリト爲メテ得スト云フト雖モ第二條ニ於テ辨明スルヲ以テ爰ニ贅セズ然レトモ已チ得ス屈從セシ旨數名ノ供狀皆一ツニ歸ストノ文字ニ就キ自分大ニ疑フノ一点トス其事實ニモナシ又夢ニシテ見シ事ナキニ數名ノ供狀皆一口ニ歸スノ理アル可カラズ自分ハ風カコ聞ク身縲綆ノ中ニアリタルヲ以テ目撃シ其証ヲ得ルニ由ナケレ共衆人ノ口供始末書ヲ何人カ之ヲ指揮シ之ヲ朱書シ以テ添削シタリトカヤ故ニ文章ノ跡概チ一ナリト果シテ然ラハ數名ノ供狀一ツニ歸着セシメ自分チテ害惡ニ陷ラシムル亦何ノ疑フ所ラカ之レアラソ

第五條

〔第五〔中略〕〕松本泰造其他數名ノ審牒ト當時ノ現狀トニ就キ其事實ヲ推測スルニ元來多人數ヲ糾合スルノ意ニ出ルニ非ストモ自己ノ所見ヲ以テ暴舉ヲ爲スニ何ソ他人ノ報知ヲ要スルノ理アラソ殊トニ路合多平太等ノ如キハ常ニ大惣代即チ其方カ指揮ヲ俟ツテ進退ヲ爲ス者ナレハ右十八ヶ村來會ヲ促カシ且繩鍊ヲ執持シ毎戸壹名ツ、會合ス可ク操術ヲ示セタルハ同人等カ專斷ニ出テ更ニ干與セサル者ト爲ヌテ得可カラスト云フモ當時ノ現狀ニ法官カ派出セラレタルヲ見聞セズ又松本泰造外數名ノ審牒ハ如何ナル者カ上告ノ日限已ニ切迫ノ期ニ在リ檢閱スルニ由ナケレハ十八ヶ村へ通報シタルハ甲ヶ村チ云フ但六十三ヶ村ト既ニ伐採スルト唱ヒタルヨリ乙ヶ村チ云フ十八ヶ村モ同人會ノ故該事ヲ通知ナシタル迄ニシテ靈心平氣別ニ繩鍊ヲ需メ來會ヲ促セタルモノニ無之也

第六條

第六前同日則チ明治十四年三月五日右滿行社之地内屯集セシ人民ノ内竹槍ヲ製作シ或ハ竹蠟ヲ吹キ鎮靜ノ爲メ出張セシ七等警部齋藤學等へ不敬ノ所爲ニ及ヒタル際俱ニ官吏へ對シ暴言ヲ發セシ一無之旨申立ルト雖モ齋藤學カ開申書ニ同人ヨリ其方へ解散ヲ命ゼシニ其指示ニ抗シ官吏ハ俸ヲ受テ其公務ヲ延滞スル則チ月給盜人ト云フテ可ナリ杯惡口セシ旨具申ヌ故ニ罵詈訾及ヒタル覺へ無之トノ供述ハ信用スルニ由ナシトハ不當ノ判定ナリ如何トナレハ警察官吏私憤私怨ヲ懷挾シ無根ノ具申ヲ爲シタル片言ヲ信シ罵詈訾タルモノトスルモノナレハナリ若シ官吏ノ具申ヲ悉ク信用シ罵詈訾或ハ打毆セラレタリトノ言ヲ納レ悉ク人民ヲ罰セハ愛憎四出一日安堵シ實ニ手足ノ措置其處ヲ得ヌ

第七條

〔第七同月六日〕十四年三月 該件取扱人平田九平次外二人ニ來會ヲ促ス爲メ同家へ多人數ヲ派遣セシハ暴民共ノ情願ナレハ其暴舉ヲ慮カリ取締リトシテ夫々聯合惣代ヲ添付シタル旨申立ルト雖モ素ヨリ其方ハ大惣代ノ任ニ在ツテ百事衆民ヲ左右スルノ權ヲ有シ殊トモ長坂孫四郎等數名ノ供狀ヲ審查スルニ暴民カ強迫ニ出テタル者ト思料ス可キ廉毫モ無之ニ由テ是ヲ觀レハ其方カ衆力ヲ要シ暴威ヲ示シ九平次等ヲ畏懼セシメ官私ノ間タニ周旋ナサシメ暗ニ自己ノ素意ヲ暢達セシメテ企圖セシ者ナルヤ知ル可シト判定セラレシハ不當ナリトス如何トナレハ躬ハ大惣代ノ任ヲ帶ヒルモ百事衆民ヲ左右スル權ヲ有セス先ツ代人タルモノハ委任ノ權域ニ劃リアリ暴民ニ指揮ヲ與フルノ托ヲ受ケザレハ何ソ能ク衆民吾カ指揮ニ隨フ可ケンヤ且ツ曰フ暗ニ自己ノ素意ヲ暢達セシメテ企圖セシ者ナル



ヤ知ルヘシハ官官カ注目スルニ其處ヲ異ニシ只ニ兇徒衆集ニシテ意ヲ注キタル所以ナル  
可シ自分カ暗ニ自己ノ素意ヲ暢達セント企圖セシハ只ニ鎮撫ノ策略ノミ

第八條

〔第八爾後引續キ金剛寺へ屯集スル折柄〔中略〕同月十四日三月十四年 早旦ニ屯集ノ人民チ  
テ解散セシム可シ旨管應ヨリ青木龜吉外一人へ演達有之タレ共巨多ノ人民ニ於テ其命ヲ  
遵奉セサル而已ナラス強威ヲ以テ依屬セラレ曩キニ辨却ニ相成リタルト同一ノ願書ヲ再  
ヒ進達ニ及ヒタル旨申立ルト雖其方カ衆力ヲ頼ミ退去セシムルヲ拒ミタル等ノ儀ハ松  
本泰造其他數名ノ審牒ニ就キ其事實ヲ推知スルニ足レリト推測セラレシハ蓋シ法官ノ  
誤愆アラシク果シテ誤愆ニ出テタルニ非サレハ人ノ思想ニ立入り推知ノ判文最モ不當ニ候  
夫レ自分ハ六十有余ケ村ヨリ附托ヲ受ケ入會秣場引直シ和解ニアリテ衆民暴發セントノ  
萌芽アルモ始終鎮靜ニ百方尽力セシモノナリ斯ク論スレハ果シテ人アラシク衆ヲ集メ官  
ニ強願セントスルノ素意ナレハ社トシ己ニ内務省へ迄出頭シ越訴セリト之レ決シテ強願ス  
ルノ意ニアラサル事ヲ擧ケシコ素ヨリ本件ハ入會秣場ノ和解ニアリテ業已ニ盟約モ調理  
セシモノナレハ自分大惣代ノ權民事詞訟ヲ仰キ是非ヲ判ツハ素ヨリ知ル所ナレハ其内務  
省へ直チニ出願セシ以謂ノモノハ當時人民嚮々又縣官ヨリハ警吏巡查ノ捕縛ノ爲メト派  
遣ニ際シ事最モ急卒ニ出ルヲ以テ其源ニ溯リ之レカ鎮靜チ一時ニ爲サント爲ス素意何ソ  
越訴ニアラン又群馬縣廳ノ御指令ニモ相尋ル義云々願意之外ノ如シ茲ニ於テカ素願ノ相  
届ケハ只内務省ノ一路ノミ故ニ事不得止茲ニ及ヒタリ

第九條

既ニ前數條ノ如クニシテ其判文終局ニ「右理由ナルヲ以テ起頭ハ前顯ノ紛紜ヲ融解セシ  
メント欲シ其事ニ尽力セシモ容易ニ調理スル能ハサルニヨリ半途ニシテ兇暴ノ意ヲ發シ  
入民ヲ煽動シ衆ヲ集メ管應へ強願セシ者ト認定セサルヲ得ス云々」ト是何等ノ判決ナル  
ヤ抑モ其事實証據ノ搜索ニ由ナキヲ以テ首尾相異ナル認定ノ裁判ヲ下ス是レ奇怪ニヤ天  
下ノ理初メ惡ニシテ後善トナル社好ケレ然ルニ此判文ヤ初メ善ニシテ後惡ノ如シ曰ク紛  
紜ヲ融解セント欲シ其事ニ尽力シ云々半途ニシテ兇暴ノ意ヲ發シ云々總テ事跡ヲ見ス証  
據ニ求メテ唯ニ想像一片斯クアラフト判セシハ不當モ亦甚シ人民ヲ集聚セシ証モナク亦  
管應ニ強願セシトモナキニ法官ノ想像ヲ以テ断定セラレ罪科ヲ被ラシムルハ法ノ原則ニ  
違フ所ナリ依之例第五百十三條ニ比擬セラレシハ承服相成難キト謂フ所以ナリ

第一條

抑例第五百十三條ニ曰ク「凡衆ヲ聚メ訟ヲ構ヘ官ニ強逼スト雖モ其民ヲ擾害スルニ至ラ  
サル者云々」トアリ此律意ヲ解釋セハ衆民ヲ囂集シ私愆ヲ逞マシフシテ村市ヲ喧噪シ或  
ハ擧ニ乘シ官ニ逼迫シテ訟ヘシ構フ造意或ハ從者ヲ罰スルノ條ニシテ衆民暴行シ官ニ強  
願セントスル者ヲ止メ鎮靜ニ尽力スル民ヲ罰スルノ法律ニアラス然ルチ該條ニ比擬シ罰  
セラレシハ苛酷モ亦甚シ然レ共自分ノ片言ヲ以テ宣告セラレタル裁判ヲ破毀ス可キモノ  
ニモアラサル可ケレハ爰ニ反證トモナル可キ事蹟ヲ擧ゲニ明治十三年十月十八日同郡



西明屋邨城壕領口ニ衆民聚合ノ際已ニ強暴セントノ勢ヒテ露ハセシヲ鎮靜ニ歸セシメン  
ト必死尽力ヲ終ニ解散ニ至ラシメ能ク其功ヲ奏シ以テ松ノ澤ヲ擅ニ入會地ヲ村民專有  
ノ權ヲ有セシテ返地爲サシムル約ヲ結ヒ專ラ穩カニ局ヲ結ハントノ精神ハ泰山ノ如クニ  
テ衆力ヲ要シ官廳ニ強願シ或ハ暴行セントノ意アラサル事推知スルコ足ルヘシ

第二條

夫レ宣誓書ノ明文ニ掲ケアル如ク三月三四兩日金剛寺ニ集會ノ節秣場据置キノ義本縣廳  
ニ相迫リ強願ス可ク旨主張シ容易ナラサル形勢ニ至リ因テ擅伐ノ方ニ誘導シ其銳氣ヲ避  
ケ時日ヲ遅緩ナラシムルノ策ヲ設ケシホトノ事ナレハ何ソ官ニ強逼スルノ意アラサル事  
昭々乎トシテ明ラカナル可シ

第三條

積惡數日ニ沙ル隙昧ノ衆民カ松ノ澤村民カ前首ヲ食ミ契約ヲ履行セズ剩レ論地ニ標杭ヲ  
建テ人々專有タルヲ示シタルノ事ナラズ其契約ノ成ル際立會ナセシ郡長モ事ヲ等閑ニ付  
シ終ニ秣場上納ニ不及トノ御指令アリタルヲ憤リ百方ニ洗滌セシヲ鎮靜ニ至ラシメント  
スルモ其職掌タル警吏巡查カ制スルヌラ空手シテ退クホトノ事ナレハ何ソ自分ノ制スル  
ニ隨テ可ケンヤ亦益スル處ロノ目的モナクシテ德義ヲ亂ラシ社會ノ安寧ヲ害ス可キ事ヲ  
爲スモノハ凡ソ社會ニアラサル可シ又強暴ヲ行ヘハ法網ノ免レ難キハ三尺ノ童子モ知ル  
處ロナレハナリ

第四條

法官ハ〔半途ニシテ兇暴ノ意ヲ發シ人民ヲ煽動シ衆ヲ集メ管廳ニ強願セシ者ト認定セサ  
ルヲ得スト推測セラレシハ不當モ亦甚シ如何トナレハ罪ノ疑カハシキハ罰セサルノ原則  
アルニモ不拘賊盜律部内ニアル兇徒衆聚條ニ比擬サレシハ其當誤アリト云フモ過ナカ  
ル可シ

辨明

上告事件ヲ審案スルニ原裁判所於テ眞摺紋彌カ所爲ニ對シ兇徒衆聚ノアリト斷定シタル  
事實ハ第一官ノ許可ヲ經ス群馬縣騷擾新誌及ヒ秣場口説ト題スル冊子ヲ印刷シ輕躁者ヲ  
誘起煽動スルニ足ルヘキ文詞ヲ掲載シ各村ニ配賦ス第二高崎驛銀杏屋源平方及ヒ金古驛  
本光寺ニ於テ爭論地ナル秣場ノ樹木ヲ擅伐セシヲ青木龜吉外數名ニ對シ決死ノ語ヲ以  
テ勸誘ス第三聯合村毎戸壹名宛福島村金剛寺ニ來會スヘキノ回章ヲ發シタルヲ第四金剛  
寺ニ集合シ秣場樹木擅伐論ヲ主張シ集合人民等チシテ其論ニ服從セシメタルコト第五保  
渡田村滿行社ニ暴民ヲ集合シ秣場樹木擅伐ノ爲メ繩鎌ヲ携ヘ毎戸一名宛會同スヘキ旨ヲ  
指示シタルヲ第六滿行社集合場於テ出張ノ官吏ニ對シ罵詈暴言ヲ發シタルヲ第七本件取  
扱人平田九平次外二人ヲ暴威シ以テ集合場ニ喚ヒ寄スル爲暴民多數ヲ同人等家宅ニ派遣  
セシヲ第八群馬縣大書記官及隨行官吏金剛寺集合場ニ出張シ聚民ノ解散ヲ命スルニ其ノ  
命ニ抗拒スルノ事ナラヌ一旦弄却セラレタル願書ヲ衆力ヲ以テ再ヒ進達シ強テ願意ヲ達セ  
ント試ミタルヲ右數箇ノ事實或ハ甘結シ或ハ招承ニ服セスト雖モ原裁判所於テハ前記宣  
誓書ニ掲載スル如ク衆証ニ據リ認定シタル者ナリ然ラハ則テ原裁判所於テ紋彌ハ改定律



例第五百五十三條及出版條例第二十七條ヲ犯シタル者トナシ前記宣告書ノ如ク處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年十二月廿一日熊谷裁判所前橋支廳於テ眞摺紋彌ヨ言渡タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキヨ因リ上告狀却下スル者也

第八百一十一號

○判文〔兇徒聚衆ノ件〕明治十五年二月一日上告  
明治十五年六月廿七日判決

群馬縣上野國群馬郡福島村

平民

青 木 龜 吉

明治十四年十二月  
五十年一月

右龜吉ニ對シ明治十四年十二月二十一日熊谷裁判所前橋支廳於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ  
其方備明治十三年十月中曾テ榛名山續キ入會秣場地ヘ組合村ノ内同郡松ノ澤村清水勇造外七名ニ於テ各村ヘ通知モ爲サス一己ニ管廳ヘ出願シ其允可ヲ經テ部分木ヲ裁ヘ付ケタルヨ由リ組合村ノ者共不平ヲ生シ殆ント暴舉ニ及ハントスル際其紛紜ヲ融解セシムル爲メ聯合惣代トナリ從前ノ如ク秣場ニ据ヘ置キ部分木ハ伐採致シ渡官管廳ヘ乞願スルモ容易ニ許可ヲ得ル場合ニ至ラサル迎大惣代眞摺紋彌ヲ幫助シ集會席ニ於テ暴論ヲ發シ遂ニ明治十四年三月五日以降六十余ヶ村ノ人民ヲ聚集シ騷擾ニ至ラシメ殊トニ縣官ヨリ屯集

ノ人民ヲシテ解散セシムル機展々命令セシニ其意ヲ遵行セズ利ヘ多人數ヲ要シ擧ギニ却下セラレタル同一ノ請願書ヲ再ヒ管廳ヘ進達スル右科改定律例第五百五十三條中衆ヲ聚メ訴ヘテ擧ヘ官ニ強迫スルト雖モ良民ヲ擾害セサル者ハ云々トアルニ比擬シ懲役十年ノ處紋彌ノ從ニシテ其犯狀稍輕キ者ナルヲ以テ本罪ニ二等ヲ減シ仍ホ情法ヲ量リ四等ヲ減シ懲役一年半申付

青木龜吉於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年十二月三十一日附テ以本院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

判文ニ曰〔前署〕聯合惣代トナリ從前ノ如ク秣場ニ据ヘ置キ部分木ハ伐採致シ度管廳ヘ乞願スルモ容易ニ許可ヲ得ル場合ニ至ラサル迎大惣代眞摺紋彌ヲ幫助シ集會席ニ於テ暴論ヲ發シ遂ニ明治十四年三月五日以降六十余ヶ村ノ人民ヲ聚集シ騷擾ニ至ラシメ云々ト是甚タ事實ニ反對シタル不當ノ判決ナリト言ハサルヲ得ヌ抑自分ニ於テ該事件ニ關涉セシハ明治十三年中曾テ榛名山續キ入會秣場地ヘ組合村ノ内同郡松ノ澤村清水勇造外七名ノ者共カ一己ニ管廳ヘ出願シ允可ヲ經テ部分木ヲ裁ヘ付ケタルヨ由リ組合村ノ者不平ヲ生シ殆ント暴舉ニ及ハントスル際其紛紜ヲ融解セシムル爲メ百方尽力ナシタル義ニテ當時眞摺紋彌ハ該件ニ付聯合大惣代ニ自分ハ松本泰造等ト共々聯合惣代ニ擧舉セラレタルヲ以テ前顯融解ノ爲メニハ始終紋彌ト協議商量セシモ紋彌ヲ幫助シテ暴舉ニ加擔セシ義ハ決シテ無之況ンヤ集會席ニ在テ暴論ヲ發シ六十余ヶ村ノ人民ヲ聚集シ騷擾ニ至ラシ



メタル等ノ義ハ毫モ之レナキコ於テオヤ其証タルヤ自分ヨリ前橋支廳へ提出セシ口供中  
片言隻辭モ其形跡ナキノコナヲ運累者松本泰造外四名ノ供述ニ於テ見ルモ前額ノ如ク  
自分カ紋彌ヲ幫助シテ騷擾ニ至ラシメタル等ノ旨辭ナキヤ判然タリ然ルニ判官ハ漫ニ臆  
測ノ見解ヲ下シ自分カ人民ヲ囂集シテ騷擾ニ至ラシメタル如ク判決セラレタリ是裁判ニ  
服セシテ取消ヲ求ムルノ一ナリ

第二條

判文ニ曰「殊トニ縣官ヨリ屯集ノ人民ヲシテ解散セシムル權屢々命令セシニ其意ヲ遵行  
セズ剩ヘ多人數ヲ要シ獨キニ却下セラレタル同一ノ請願書ヲ再ヒ管廳へ進達ス云々」ト  
是亦事實ニ反對セル不當ノ判決ナリ如何トナレハ連累者松本泰造ノ口供ニ據ルニ明治十  
四年三月十三日同十四日ノ兩日ニ於テモ同人等共々管廳ノ命令ヲ奉シ聚民解散ノ事ニ奔  
走尽力セシヤ明瞭ナリ如何セン當時衆民ノ氣勢甚ク熾シコシテ自分共カ再三ノ説諭ニ承  
服セズ終ニ其尽力モ無効ニ歸シタルハナリ且判官ハ獨キニ却下セラレタル同一ノ請願書  
再ヒ管廳へ進達シタリト言フト雖モ右者前陳ノ如ク自分共ヨリ再三説諭スルモ聚民ニ於  
テ承服セズ是非願書ヲ再呈ス可キ旨ヲ強唱シ之ヲ強テ抑制セントスレハ聚民ノ舉動果シ  
テ何レニ發スルヤ豫知スヘカヲサル勢ナルヲ以テ一時其暴發ヲ遏止セシカ爲メ無餘義  
自分共ニ於テモ該再願書ニ調印セシ次第ナリ此等ノ事情ハ松本泰造等カ口供ハ勿論風馳  
紋彌カ口供ニ據テ見ルモ明瞭タリ是裁判ニ服セシテ取消ヲ求ムルノ一ナリ

第三條

前二條ノ陳述ニ於テ事實反對ノ點ハ業ニ已ニ照然タリ然ルニ判官ハ律ヲ兇徒聚衆ノ條ニ  
擬シ判決ヲ下シテ曰改定律例第五百十三條中衆ヲ聚メ訴ヘテ構ヘ官ニ強迫スルト雖モ良  
民ヲ擾害セサル者ハ云々トアルニ比擬スト因テ兇徒聚衆律ニ就テ按スルニ抑モ兇徒聚衆  
律ノ本旨タルヤ元來無賴ノ惡徒一層自己ノ兇意ヲ逞フセント欲シ詭言ヲ傳布シ或ハ恐嚇  
シテ良民ヲ囂集シ以テ衆人ノ力ヲ恃ミ村市ヲ燒掠シ或ハ官廳ニ強逼シテ無法ニ財物ヲ要  
訟スルノ徒ヲ待ツ所以ノモノナリ而シテ其例第五百十三條ハ本律ノ補欠ニシテ其補欠ノ  
律意ニ於ケル無賴ノ兇徒ニシテ衆ヲ聚メ訟ヲ構ヘ官ニ強逼スルモ其行爲ノ良民ヲ擾害ス  
ルニ至ラサルモノハ首唱者ト雖モ本律ニ依リ之ヲ絞殺セズテ只懲役十年ニ處スト云ナ  
リ故ニ本律ヲ以テ賊盜律中ニ掲ケタル所以ノモノハ地方ノ兇荒ニ乘リ財物ヲ目的トシテ  
衆ヲ聚メ良民ヲ擾害スル等ノ最モ惡ムヘシ賊シムヘキノ意アルヲ以テニアラスヤ然ルニ  
自分ニ至テハ初メヨリ一点衆ヲ聚メテ訟ヲ構ヘ官ニ強逼スルノ意思ナキノコナラス其聚  
集セシ人民ト雖モ亦只同郡八十二ヶ村入會ノ秣場ヲ獨リ松ノ澤村人民カ專横ニ所分セシ  
ノ所爲ヲ憤リ其共有ノ權利ヲ恢復センカ爲メノ熱心ニ發シ切ニ管廳ニ哀願シタル迄ニシ  
テ徹頭徹尾賊意ヲ懷狹シ官長ヲ挾制セシニアラスヤ明ケシ是裁判ニ服セシテ取消ヲ  
求ムルノ一ナリ

第四條

然ルニ判官ハ漫ニ臆測ノ見解ヲ以テ法律ノ適用ヲ誤マレリ夫レ比擬ノ文字タルヤ正當其  
事ニ適セサルモノナリ他ニ比附援引スルノ謂ニシテ素ヨリ正確ナル語ニアラス今ヤ判官カ



判決ヲ下スニ當テ比擬スト云フ是其判決ノ正確ナラサルヲ証明スルニ足ルモノナリ其認定スヘカヲサルモノヲ認定シテ枉ケテ判決ヲ下セルナリ且ツヤ賊盜律ノ如キハ刑律中屈指ノ重罪ニ當ルモノナリ而シテ判官ハ其本人ノ口供ニモ據ラヌ又連累者ノ供述ヲモ取ラズ曖昧模糊ノ間ニ於テ輕々ニ比擬認定セラレタルハ之ヲ不當ノ裁判ト言ハスシテ何ソヤ是ニ由テ之ヲ觀レハ首唱者ヲ以テ擬セラレタル眞鹽紋彌ト雖兇徒聚衆律ヲ以テ論スヘキモノニアラス況ヤ自分ニ於ケル始終該件ノ融解ニ盡力セシノヨニシテ毫モ暴舉ヲ補助セシニアラサルニ於テオヤ是裁判ニ服セスシテ取消ヲ求ムルノ四ナリ

辨明

上告ニ因リ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ青木龜吉於テハ明治十四年五月二十三日警察官ニ對シ爲タル口供及ヒ明治十四年十一月十六日原裁判所ニ於テ爲タル口供トニ因レハ眞鹽紋彌ヲ補助シ暴民ノ集合場於テ暴論ヲ發シ衆力ヲ以テ縣廳ニ強願シタルハ明瞭ナリトス故ニ原裁判所於テハ右自由任意ノ口供ニ據リ龜吉ハ改定律例第五百十三條ノ罪ヲ犯シタル者トナシ紋彌カ從トナシ前記宣告書ノ如ク處斷シタルハ不當ト爲ス廉アルコトナリ然リ而テ龜吉カ上告ノ要領ハ當時ノ事實ヲ記述スルニ止リ前口供ニ反對ノ証左アルナキヲ以テ上告ノ旨趣相立タル者トス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十四年十二月二十一日熊谷裁判所前橋支廳於テ青木龜吉ニ言渡タル裁判ハ被毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第八百十二號

○判文「官林樹木盜伐ノ件」明治十五年三月一日上告  
明治十五年六月廿七日判決

大阪府大和國平群郡有里村

平民

奧山 亥之松

明治十四年十二月十七年十月

同府同國同郡小瀬村平民

北島 常松

明治十四年十二月十八年八月

同府同國同郡同村平民

高山 千松

明治十四年十二月十八年十月

明治十五年二月二十三日奈良輕罪裁判所ニ於テ右亥之松外二名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

奧山 亥之松

被告奧山亥之松ニ對シ竊盜事件ニ付檢事ノ公訴ヲ受理シ檢事ノ陳述ヲ聽キ證據物件及相當官吏ノ作リタル調書官林監守人奧西伊平外一人ノ告訴書類等ヲ檢閲シ被告奧山亥之松ヲ尋問スルニ明治十四年十二月十三日北島常松及高山千松ト共謀シ大和國添下郡矢田村官林ニアル杉樹都合十本ヲ盜伐セシ旨申立ツ依テ右科ヲ法律ニ照スニ竊盜ノ罪トシ刑法



第三百七十三條ニ依リ一月以上一年以下ノ重禁錮ノ處已ニ樹木伐採セシモ即時監守人ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キシヲ以テ未遂罪トシ刑法第一百十二條ニ依リ本刑ヨリ一等ヲ減シ尙年二十歳ニ滿サルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ又一等ヲ減シ通シテ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮及刑法第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ處所犯新法頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ之ヲ舊律ニ照スニ常人盜ニ準シテ論シ贓金三拾五錢總役六十日ノ處已ニ樹木ヲ伐採スルモ即時監守人ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キシヲ以テ未得財トシ總役五十日事主ノ官ニ告ケテ知テ自首セシヲ以テ開捕自首ニ擬シ本罪ヨリ一等ヲ減シ總役四十日ニ相當スルヲ以テ明治十四年第八十一號布告ニ照シ重禁錮四十日ニ處斷ス

但シ贓品ハ取上ケ監守者奧西伊平外登人へ還付スル者也

北 島 常 松

被告北島常松ニ對シ竊盜事件ニ付檢事ノ公訴ヲ受理シ檢事ノ陳述ヲ聽キ證據物件及ヒ相當官吏ノ作リタル調書官林監守人奧西伊平外一人ノ告訴書類等ヲ檢閱シ被告北島常松ヲ尋問スルニ明治十四年十二月十三日奥山亥之松ノ發意ニ同シ高山千松ト俱ニ大和國添下郡矢田村官林ニアル杉樹都合十本ヲ盜伐セシ旨申立ツ依テ右科ヲ法律ニ照スニ竊盜ノ罪トシ刑法第三百七十三條ニ依リ一月以上一年以下ノ重禁錮ノ處已ニ樹木ヲ伐採セシモ即時監守者ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キ逃走セシヲ以テ未遂罪トシ刑法第一百十二條ニ依リ本刑ヨリ一等ヲ減シ尙年二十歳ニ滿サルヲ以テ刑法第八十一條ニ依テ又一

等ヲ減シ通シテ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮及刑法第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ處所犯新刑法頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ之ヲ舊律ニ照スニ常人盜ニ準シテ論シ贓金三拾五錢總役六十日ノ處已ニ樹木ヲ伐採スルモ即時監守人ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キ逃走セシヲ以テ未得財トシ總役五十日事主ノ官ニ告ケ惡事ノ逆モ難達ト思慮シ自首セシヲ以テ開捕自首ニ擬シ本罪ヨリ一等ヲ減シ總役四十日尙從タルヲ以テ又一等ヲ減シ總役三十日ニ相當スルニ付明治十四年第八十號布告ニ照シ重禁錮三十日ニ處斷ス但贓品ハ取上ケ監守人奧西伊平外一人ニ還付スル者也

高 山 千 松

被告高山千松ニ對シ竊盜事件ニ付檢事ノ公訴ヲ受理シ檢事ノ陳述ヲ聽キ證據物件及相當官吏ノ作リタル調書官林監守人奧西伊平外登人ノ告訴書類等ヲ檢閱シ被告高山千松ヲ尋問スルニ明治十四年十二月十三日奥山亥之松ノ發意ニ同シ北島常松ト俱ニ大和國添下郡矢田村官林ニアル杉樹都合十本ヲ盜伐セシ旨申立ツ依テ右科ヲ法律ニ照ラスニ竊盜ノ罪トシ刑法第三百七十三條ニ依リ一月以上一年以下ノ重禁錮ノ處已ニ樹木ヲ伐採セシモ即時監守者ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キ逃走セシヲ以テ未遂罪トシ刑法第一百十二條ニ依リ本刑ヨリ一等ヲ減シ尙年二十歳ニ滿サルヲ以テ刑法第八十一條ニ依テ又一等ヲ減シ通シテ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮及刑法第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ處所犯新刑法頒布以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項



○照シ之ヲ舊律ニ照ス○常人盜ニ準テ論シ贓金三拾五錢懲役六十日ノ處已ニ樹木ヲ伐採スルモ即時監守人ニ撞見セラレシヨリ盜品ヲ其場ニ捨テ置キ逃走セシヲ以テ未得財トシ懲役五十日事主ノ已ニ官ニ告ケ惡事迎モ難通ト思慮シ自首セシヲ以テ聞捕自首ニ據シ本罪ヨリ一等ヲ減シ懲役四十日尙從タルヲ以テ又一等ヲ減シ懲役三十日ニ相當スルコト付明治十四年第八十一號布告ニ照シ重禁錮三十日ニ處斷ス但贓品ハ取上ケ監守人奧西伊平外壹人ニ還付スル者也

奈良輕罪裁判所檢事河井淡○於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年一月卅一日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ趣旨左ノ如シ

被告等ノ罪ヲ舊法ニ據スルニ當リ常人盜ニ准シタリ今其律條ヲ明示セスト雖モ想フ○其憲蓋シ新律綱領賊盜律盜田野穀麥菜菓及ヒ人ノ看守スルノ無キ器物ヲ盜ム者ハ竊盜ニ准ス云ヤトアル權衡ニ依リ官物ニ係ルヲ以テ常人盜ニ准シタルモノナルヘシ然ルニ本按事件被告等ノ所爲タル其自認スル所ノ口供及被害者ノ告訴狀ニモ明記スル如ク監守アル官林ニ於テ監守人ノ透テ窺ヒ竊ニ樹木ヲ伐採セシモノニシテ即チ眞盜ヲ以テ論スヘキモノトス然ルニ准盜ヲ以テ論シタルハ治罪法第四百十條第十條擬律ノ錯誤アルモノニシテ該裁判ヲ不法トスル第一ナリ  
又人ノ官ニ告ケント欲スルコトヲ知テ自首スル者聞捕自首ニ據シ本罪ヨリ一等ヲ減シ云ヤトアリ今裁判官ニ於テ陳告自首ト認ムルニ於テハ名例律犯罪自首條ニ依リ減二等ニ從フヘク聞捕自首ト認ムルニ於テハ減一等ニ從フヘキナリ然ルニ事實ハ陳告自首トナシ法律ハ

聞捕自首ヲ以テ論ス何ソ事實ト法律ノ相牴牾スルノ甚シキヤ此レ治罪法第四百十條第九條實及ヒ法律ノ齟齬アル者ニシテ上告スル所以ノ第二ナリ

又贓品ハ取揚ケ監守者奧西伊平外壹人ニ還付スルトノ旨渡テ爲シタルハ何等ノ理由ニ基クモノナルカ今本按事件ニ付奈良輕罪裁判所ハ被告ヲ處斷スルニ竊盜未遂犯ヲ以テセシムアラヌヤ抑モ未遂犯ナルモノハ種々ノ區別アリト雖モ概シテ之ヲ言フモ未タ其所爲ノ目的ヲ達セサルモノニシテ之ヲ竊盜ニ例セハ其財ヲ盜了ラサル間チ云々然ラハ其所爲ノ目的ヲ達セヌ即チ未タ其財ヲ得サル本按事件ニシテ贓品ノアルヘキ理由アラシヤ然ルニ之ヲ取揚ケ還付スルノ旨渡テ爲シタルハ治罪法第四百十條第十條越權ノ處分ト云ハスニテ何ソヤ此レ上告スル所以ノ第三ナリ

又本按一件書類ヲ閱スルニ明治十五年一月二十六日付本件ノ公判始末書追録ノ部ニ記スルカ如ク被告亥之松等カ郡山警察署ニ自首セシ日時ト奧西伊平等カ告訴セシ日時トノ前後ヲ知ラシ爲メ明治十五年一月廿三日主任判事ニ於テ奧西伊平外壹人ヲ呼出シ檢事及書記ノ立會無シシテ私ニ其始末ヲ訊問シ手續書ヲ徴収シタリ

抑モ訊問及ヒ辨論ヲ公行スルハ社會ニ對シ裁判ノ信憑ヲ保持センカ爲メニシテ實ニ治罪法第一大原則ナリ故ニ若シ裁判官ニ於テ訴訟關係人ニ對シ訊問セント欲スルコトアラハ治罪法第二百六十三條ニ依リ公庭ニ於テ檢事及書記ノ立會ニ依リ公然之ヲ訊問スヘキナリ然ルニ奈良輕罪裁判所ハ右ノ手續ヲ爲サスニテ密行セシハ之レ治罪法第四百十條第八條傍聽ヲ禁スルノ旨渡ナシシテ訊問ヲ公行セサルモノニシテ上告スル所以ノ第四ナリ



右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年一月廿三日奈良輕罪裁判所ニ於テ被告奥山亥之松外二名ニ對シテ言渡シタル裁判ハ破毀アラントテ求ム此段上告候也

辨明

上告事件ヲ審按スルニ被告奥山亥之松ハ被告北島常松外壹名ヲ同意セシメ官林ノ樹木ヲ砍伐シテ將ニ持去ラントスル際取押ヘラレ官林看守人ニ警察署ヘ護送サル、途中ヨリ逃走シ後自首スル者北島常松外壹名ハ一旦現場ヲ逃走シタル末自首シタル者ナリ故ニ亥之松ハ盜田野穀麥律ニ據シ未タ竊取ノ目的ヲ達セサルヲ以テ竊盜律竊盜財ヲ得サルモノニ依リ懲役四十日又棄毀器物稼穡律凡ソ人ノ品物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ云々官物ハ一等ヲ加フトアルニ依リ贓金壹圓以下懲役六十日ノ二罪ナルヲ以テ二罪俱發律ニ照シ一ノ重キ懲役六十日ニ處シ其看守人ニ護送サル、途中逃走シ後自首シタルハ改定律例第二百九十七條ニ據シ逃走罪ヲ免スルニ止メ本罪ヨリ減等スヘキモノニ非ストス北島常松外一名ハ同上從タルヲ以テ共犯罪分首從律ニ依リ一等ヲ減シ懲役五十日其出首シタルハ亥之松ガ現場ニ於テ取押ヘラレ官林看守人ニ解送サレタル後ニ係ルヲ以テ改定律例第五十九條聞捕自首ヲ以テ論シ又一等ヲ減シ懲役四十日ニ該ルノ罪ナリトス然ルニ處斷新法實施後ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ之ヲ新法ニ照スヘキ亥之松ハ刑法第三百七十三條同第三百七十五條同第三百七十二條即山林ニ於テ竹木竊取ノ未遂罪ト同第四百十九條人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタルノ二罪ナリトス因テ同第四百條ニ依リ一ノ重キ同第三百七十三條同第三百七十二條ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ヨリ一

等ヲ減シ仍罪ヲ犯スヘキ二十歳ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ依リ又一等ヲ減シ通シ二  
等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ同第三百七十六條ニ依リ六月以上二年以下  
ノ監視ニ付スヘキ所仍明治十四年第八十一號布告第二條第十條ヲ適用シ單ニ十五日以上  
二月以下ノ重禁錮ニ處斷スヘキモノナルヲ以テ舊法ヨリ輕シトス因テ輕キ新法ニ從ヒ十  
五日以上二月以下ノ重禁錮北島常松外一名ハ同上十五日以上一月以下ノ重禁錮ニ處斷ス  
ルヲ正當ナリトス然ルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ヲ免レサル所ナリ且宣告但  
書ヲ以テ贓品ハ取揚ケ監守入奥西伊平外一人ニ還付スト言渡シタルハ是亦不當ノ裁判ナ  
リトス何トナレハ未得財ヲ以テ論決セル犯人ノ手ニ贓品ノアルヘキ謂ハレナケレハナリ

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年一月二十三日奈良輕罪裁判所ニ於テ奥山亥之松外二名ニ言  
渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

奥山亥之松

刑法第三百七十三條及ヒ同第三百七十二條同第八十一條ニ依リ

重禁錮一月十日

北島常松  
高山千松

刑法第三百七十三條及ヒ同第八十一條同第三百七十二條ニ依リ同第四百四條ニ依リ

各重禁錮一月



○判文(地券書換失期ノ件) 明治十五年三月廿二日上告  
明治十五年六月廿七日判決

福岡縣豊前國上毛郡千束村

士族當今同郡宇島村寄留

宮

秋 榮 甫

明治十四年十二月  
六十九年三月月

榮甫ニ對シ明治十五年一月二十日福岡輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シヨリ

福岡輕罪裁判所ハ檢事ノ請求ニテ福岡縣豊前國上毛郡千束村士族荒物商宮秋榮甫ニ對シ地券書換規則ノ件ニ付書記局ヨリ發シタル呼出狀ニ因リ公訴ヲ受理シ爰ニ檢事ノ陳述ヲ聽キ司法警察官ノ調書及ヒ被告人ノ自首狀ニ據ルニ被告人宮秋榮甫ハ長男啓カ死亡シ跡相續ニ依テ讓リ受ケタル地券貳枚ノ書換ヲ六ヶ月内ニ出願セサルヲ悔ヒ明治十四年十二月廿六日八屋警察署ニ自首シタル者ト判定ス之ヲ法律規則ニ照スニ

明治十三年第五十二號公布土地賣買讓渡規則第五條死亡者ノ家督相續ニヨリ土地ヲ讓リ受ケタル者ハ戶長役場ヲ經テ地券書替願ヲ管轄廳ニ差出スヘシ若シ遺產相續ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ戶長役場迄之ヲ差出サ、ル者ハ証印稅五倍ノ科料ニ處ス

明治十四年第三十號公布改正証券印稅則中代換授與地券書換ハ券面代價ノ有無ニ拘ハラズ券狀一通ニ付三錢トス

新律綱領名例律犯罪自首條凡罪ヲ犯シ事未タ發覺セシテ自ラ自首スル者ハ其罪ヲ免ス

右條目ニ依リ被告宮秋榮甫ニ免訴ヲ言渡スモノ也

福岡輕罪裁判所檢事補井上計之助ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年一月廿四日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑モ被告カ犯贖タル明治十三年四月十三日長男宮秋啓死亡ナシ其節遺囑ニ依リ讓リ受ケタル宅地券証並荒地券証都合貳枚ヲ六ヶ月過去スル迄書換願出ス明治十四年十二月廿六日前非ヲ悔ヒ福岡縣八屋警察署ニ自首セシ者ナレハ之ニ對シテハ明治十三年第五十二號公布土地賣買讓渡規則第五條ニ依リ地券貳枚ノ証印稅五倍ノ科料金三拾錢ニ處斷ス可モ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首セシテ以テ刑法第三條法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス第五條此刑法ニ正條ナシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ云々若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從ヒ同第八十五條ニ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス云々第七十二條ニ拘留科料ニ該ル者加減スヘキトハ禁錮罰金ノ例ニ照シ云々右各條項ニ照シ本刑科料金三拾錢ニ一等ヲ減シ則金二十二錢五厘ヲ科ス可キト至當ナリトス然ルニ福岡輕罪裁判所判事補原英清ニ於テハ舊時常律ヲ以テ處斷スヘカヲサレ罰則違犯ノ者ニ對シ直チニ新律綱領名例律犯罪自首條ヲ適用セシハ即チ擬律ノ錯誤ト云ハサルヲ得ンヤ依テ該裁判ノ破毀ヲ需ムル所以ナリ

辨明



上告事件ヲ審按スルニ被告入宮秋榮甫ハ明治十三年四月中長男啓カ死亡ノ際其遺囑ニ因リ讓受ケタル宅地及荒地ノ地券二枚ヲ六ヶ月以内即チ成規期限内ニ書換願出テサル者ニ付後警察署へ自首シタルモ舊法ニ於テ名例律犯罪自首條ヲ適用シ減免ヲ與フヘキモノニ非サルヲ以テ明治十三年第五十二號公布土地賣讓渡規則第五條及ヒ明治十四年第三十號公布ニ依リ証印稅ノ五倍科料金三拾錢ヲ科スヘキ所處斷新法實施後ニ係ルヲ以テ刑法第五條第二項若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フトアルニ依リ同第八十五條同第七十二條第二項ヲ援用シ本刑ニ一等ヲ減シ科料金二十二錢五厘ニ處斷スキキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年一月二十日福岡輕罪裁判所ニ於テ宮秋榮甫ニ官渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

宮 秋 榮 甫

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十三年第五十二號公布第五條及明治十四年第三十號公布ニ依リ仍刑法第五條第二項同第八十五條同第七十二條第一項ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ科料金二十二錢五厘  
第八百十四號

○判文(私印偽造ノ件)明治十五年三月廿九日上告  
明治十五年六月廿七日判決

德島縣阿波國美馬郡岩倉山

村六百五十六番地平民

西 口 美 喜 藏

明治十五年一月  
五十五年四月

明治十五年三月八日脇町治安裁判所ニ於テ德島輕罪裁判所ヲ開キ右西口美喜藏ニ對シ左ノ裁判ヲ官渡シタリ

右者ニ對シ檢察官中村元長ヨリ公訴シタル私印偽造事件ヲ受理シ審問遂シル處  
檢察官ニ於テハ被告ハ美馬郡岩倉山村十族三宅伊之藏ノ實印ヲ偽造シ同人ヨリ被告ヲ充テタル第二十二號証則畑六畝六歩ノ返リ証第二十四號金八拾九圓拾錢ノ副約定書其他第二十號第二十一號第二十三號第五十號第四十八號第四十五號第四十六號第五十二號第五十一號第五十三號ヨリ第五十八號ニ至ル書類ニ押用シタリ其証據ハ被告カ脇町警察署ニ於テ爲シタル白狀及ヒ証人三宅伊之藏古泉壽三郎ノ陳述ニ依テ明瞭ナル旨申立  
被告ニ於テハ三宅伊之藏ノ實印ヲ偽造セシメ無之明治十四年十二月十六日脇町警察署ニ於テ爲シタル白狀ハ取調ノ嚴ナルヨリ無實ノヲ申立テタリ然シテ第二十二號証及ヒ第二十四號証ハ當今死亡西岡「カチ」宅ニ於テ古泉壽三郎ヨリ受取タルモノコシテ該証書ハ壽三郎ノ同伴人氏名知ヲサル者ノ執筆ニテ伊之藏其席ニ於テ押印シタルモノナル旨申立タリ

依テ判決スルノ左ノ如シ

被告ヲ明治十四年十二月十六日脇町警察署ニ於テ爲シタル白狀ハ訊問ノ嚴ナルニヨリ無



實ノイテ申立タル旨陳述スレドモ其訊問ノ節嚴實ヲ加ヘタルトシテ證據無之且証人古泉壽三郎ニ於テハ第二十二號及ヒ第二十四號証ノ証人ニ立テタルヲ又該証書ヲ取扱ヒタルヲ無之旨申立証人三宅伊之藏於テハ第二十二號証及ヒ第二十四號証並ニ其餘ノ証書ノ印影ハ實印ニ非サル旨陳述スルノミナラス該印影ハ三宅伊之藏カ當時用ヒタル真正ノ印影ト似テ非ナルモノナルヲ以テ被告ハ三宅伊之藏ノ實印ヲ偽造シ第二十二號証第二十四號証及其余ノ書類ニ押用シタルモノト判決ス

右ハ刑法第二百八條ニ依リ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキモノトス然ルニ所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第二條第二項ニ依リ之ヲ舊法詐偽律偽造私印條ニ照セハ懲役百日ニ該ルニヨリ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ノ輕キニ從ヒ處斷スヘキモノトス依テ被告人西口美喜藏ヲ懲役百日ニ處スルモノナリ

西口美喜藏ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月十三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

抑本件ノ原由ハ明治八年九月中告訴人三宅伊之藏ナルモノ徳島縣阿波國名東郡寺島町旅籠屋笹木京藏方ニ同縣同國美馬郡小島村士族淺尾淺六ナルモノト同席ノ場ニテ伊之藏曰ク金子差當リ入用出來殆ント迷惑有之ニ付取替吳ノ度旨頼リト頼談申出ルニヨリ幸ヒ持合金四拾五圓ヲ証人同伴人淺尾淺六ノ証人ヲシテ貸渡シアルヲ原由トシテ豫審第廿四號証ノ通り明治十二年八月中証人古泉壽三郎ヲシテ期限ノ後ニ伊之藏ノ姉三宅「ミマ」ノ

建家ヲ利子ノ爲メニテ受取ル約定ヲ爲シタリ然ルニ三宅伊之藏於テ返金通々スルノ際限無之ニ付不得止明治十四年三月中高知裁判所徳島支廳ニ詞訟シタルニ三宅伊之藏ハ先年上告人カ店賣ニアル銅判ヲ押印シタルニ之レニ類似印數夥有之ヲ幸ヒトシ上告人ノ實印ト稱シ押印セシメ多夥ノ偽造証券ヲ擧ケ之カ爲メ明治十四年十一月八日上告人曲者ノ裁判ヲ受ケタリ而シテ上告人ハ之ヲ承服難仕ニ付控訴裁判ヲ仰クノ存意ナル處豈圖乎三宅伊之藏ヨリ上告人ヲ相手取り告訴ニ及ハレ之ヨリ起リタルモ上告人ニ於テハ元ヨリ詐陳非サル真正ノ証券ヲ所有シ拒辨故ニ書類ヲ三宅伊之藏ノ實印見合且ツ上告人ノ印影見合トシテ其他種々關係證據ヲ呈出スルニ第廿二號証第廿四號并ニ第廿九號証松田寛二ノ印影及ヒ以下關係アル古泉壽三郎大若紋太(悲カナ豫審中ニ死亡)壽三郎ハ虛言ヲ吐露シ其他關係アル松村榮太郎武田桃太郎ノ如キハ真正ニ取扱ヒタルヲ單ニ之ヲ偽造シ私印ヲ造リ詐偽ノ所意アルトテ渾テ偽造ニ判定セラレタルハ毫モ服従スルヲ能ハス之レ治罪法第四百十條第九項第十項ニ背反スル公判ニ付上告ニ及フ所以ナリ

第二條

明治十四年十一月十九日徳島縣脇町警察署ニ入監アリテ第二舍ニ謹慎能ニ在候處其當時係リ官小田切某ニシテ獄丁栗林義兼ヲ以テ同日午後第二時頃ヨリ凡二時間格ヲ抱カスト唱ヘ格子ヲ抱セ體ヲ空中ニ浮マセ脅折レントス之カ爲メ一旦絶命ニ及ヒ口鼻ヨリ出血アリテ終ニ醫師藥質ヲ投シタリ如此嚴責ノ苦シミニ恐唱シ無實ヲ語ラシメ口詰一旦押印ヲ示スモ後日明白ヲ檢事官ニ証據証人ヲシテ陳述セント開述スルニ其証據口鼻ヨリ出テ



血沙ヲ取リアル紙ヲ呈シ証人召喚ヲ請求スルヤ否豫審判事ニ護送セラレタルヲ以テ前  
 隙ノ如ク壓制ヲ受ケタルコトヲ開陳シ證據トシテ口鼻出血ノ絞リタル紙ヲ呈シ証人ハ其當  
 時上告人監會第二舍ニ拾名アリ之レ德島縣阿波國麻植郡川田村〔姓不詳〕芳藏同郡上浦村  
 市野市太郎同村〔姓不詳〕楠太郎外六名アリ亦隣リ壹舍ニ同國美馬郡舞中島村井上近太郎  
 同郡西端山村長岡慶太郎亦隣リ三舍ニ同郡羽原村三宅秀吉外二名彼レ等上告人カ格ヲ抱  
 ス壓制ニ掛リ一旦絶命ヲシテ醫師ニ藥種ヲ投セラレタルヲ識ルコ足レリ如此壓制ニテ一  
 命ヲ憂ヒ明治十四年十二月十六日嚴責ヲ加ヘラレタルヨリ不得止無實ノ口述ヲ爲シタル  
 ニ相違無之ニ付是等ノ口述ニ片憑セラレ、モ証スルニ足ラズ

第三條

裁判狀中ニ三宅伊之藏カ當時用ヒタル真正ノ印影トハ似テ非ナルモノナルヲ以テ被告  
 ハ三宅伊之藏ノ實印ヲ偽造シ第二十二號証第二十四號証及其余ノ書類ニ押用シタルモノ  
 ト判定ス」ト断定セラレタルハ夫レ治罪法第四百十條第十項ニ該ル擬律ノ錯誤ナル斷定  
 ト言フ可ケンヤ上告人ヨリ兼テ差出シアル書類ニ押捺アル三宅伊之藏ノ印跡ヲ技術人ノ  
 鑑定ヲシテ明カニ亦明治十四年十二月十六日德島縣脇町警察署ニテ壓制ニ懸リ申立タ  
 ル無實ノ口供ヲ出血ノ證據ト証人ヲ召喚シ取調タレハ決シテ如此擬律ニ相成ラサルモノ  
 ナ技術鑑定人ナクシテ裁判セラレタルニ付登判官ヲ恨ムノ理ナランヤ夫成カ否トナリ否  
 カ真正ト頼シ剩ヘ檢察官ノ壓制ヲ第一恨ムル處ニシテ之カ爲メ一命ニ換ハシメント無實  
 ナ檢察官ノ意ニ任セタル多數人ノ証人召喚ナク口鼻出血ノ證據ヲ採用ナク嗚呼矜憫ヲ盡

レノコトヲ法律ニ照シテ以テ本件ノ精神ヨリ起リ書類ヲ御檢閱相成度候事

第四條

本件ハ治罪ノ手續ヲ履マサル法規ニ悖ル裁判トス夫レ明治十四年第五十四號第七十七號  
 公布ノ理アルモ公判廷ニ引キ裁判官ハ治罪法第三百五十二條第三項第四項ヲ一切履マサ  
 ル公判治罪法第四百十條第九項ニ悖ル裁判言渡シ上告ノ第二點ナリ亦治罪法第五百十四  
 條ノ証人對質ヲ豫審ノ際請求スルモ毫モ受理ナシ之カ爲メ上告人ハ利益ヲ失ヒタルヲ鮮  
 カラス亦證據ヲ調フルニモ治罪法第四百十六條ニ明條ニ被告事件ノ摸樣ニ因リ有罪ナル  
 ノ推測ヲ定ムルコトナシ」トアルニ頗ル背キ之カ治罪法第四百十條第十項ノ精神ニ係リ擬  
 律ノ異ナル第壹點ト壹言フ可ケンヤ

第五條

前陳ノ如ク不當ノ裁判セラレタルニ付上告セシト欲スルニ上告人ノ證據書類尙クモ五十  
 余通アルヲ以テ一概一目スルコト前後錯雜ニ涉ルヲ恐レ其裁判所ニ寫抄ヲ仰クニ兼テ治罪  
 法第五百十三條ニ示シタルヲ管上告人ノ口供ノミ下附セラレ余ハ一切下渡サレズ裁判官  
 ノ曰ク上告ノ部コナシ豫審ノ部分ニ示シタル明條ナレハ上告人ノ陳述書ヲ差下ケタルハ  
 一時ノ寛大ノ處置ナリト下合セラレシヲ以テ逐次詳カニ討辨付シ兼候得共是等本院ニ於  
 テハ前條ノ理由ヲ圖リ壓制ヨリ成立タル無實ノ口供証人第二條ニ示シアルヲ召喚セラレ  
 事實御訊問ノ上取消サレ三宅伊之藏ノ印跡及ヒ松田寛二名下ノ印影ト技術人ヲシテ鑑定降サレルニ於テハ三宅  
 五通ノ證據三宅伊之藏及ヒ松田寛二名下ノ印影ト技術人ヲシテ鑑定降サレルニ於テハ三宅



伊之藏カ己レニ惡意ヲ圖リ僅カノ負債ヲ免カレント官ニ不實ヲ陳告シタル有罪者ナルト  
昭々トシテ上告人ハ無罪者タルコト明カナリ然ルニ原裁判官ハ有罪者ト裁判セラレタルハ  
治罪法第四百十條第九項第十項ニ適スルモノトス故ニ速ニ破毀セラレ更ニ妥當ナル公明  
ノ御斷定冀望焉

辨明

上告事件ヲ審接スルコト上告人西口美喜藏カ被告事件ハ明治十四年十二月十六日脇町警察  
署ニ於テ爲シタル自陳中ニ「答斯ク御手詰ヲ蒙リシ以上ハ包ムニ道ナク寛二ノ印形ノ一  
ニ於テハ一言申分無之候事」〔問然ラハ之レヨリ寛二ノ偽印出來シタル手續ヲ述フヘシ〕  
〔答其實ハ過般來度々ノ公事詞訟ニ係リ漸次損失相嵩ミ甚困難ノ折柄會テ紛失セシ前顯  
四拾五圓証文發顯シアルヲ幸ヒ不圖不良心ヲ生シ明治十四年六月三十日大坂府ヨリ歸村  
ノ途中讃岐國多度津宇鉄砲町南西へ外レ右手ウヅン屋ニテ姓名不知印刻師ニ出會ヒ右副  
戸長松田寛二ノ與印爲シアル書類ヲ差出自分ノ印形ナリト詐リ價八錢ヲ以テ右寛二ノ實  
印トハ故ラニ異形ニ偽造致サセ之ヲ明治九年一月五日付ニテ名浮〔元ノ〕地券名据願書及  
ヒ外ニ通へ同人與印ヲナシタル体ニ拵へ之レニ右偽印ヲ押捺シ會テ伊之藏へ相渡シ置タ  
ル右四拾五圓紛失証文ニ對スル返リ証文ノ寛二ノ與印ヲ無効ノモノトナシ右金員ハ詐取  
セント相謀リ〕〔問然ラハ伊之藏ノ實印モ偽造セシヤ〕〔答恐入候事〕〔問右寛二伊之藏兩人  
ノ偽印ハ即今何レニ差置キシカ〕〔答右若干書類ニ押捺シ最早不用ナルヲ以テ月日忘却竈  
中へ投シ燒捨候事〕云々トアリ而シテ豫審ノ際之レヲ翻言シ不實ノ陳白ナリト云フモ其

言ヲ證スル一片ノ憑據ナク加之古泉壽三郎大倉紋太ノ豫審廷及ヒ警察署ニ於テ爲シタル  
證言ニ徴シ前キノ陳白ヲ眞實ナリトシ原裁判所ハ犯罪ノ事實明白ナリト認メ其罪ヲ斷シ  
タルハ毫モ違法ノ處アルコトナク允當ノ裁判ナリトス然ルニ上告人美喜藏ハ警察官ノ嚴責  
ニ堪へ兼無實ヲ吐露シタリト云ヒ又原裁判ハ治罪ノ順序ヲ履マズ證人對質ヲ請願スルモ  
許サレヌ云々不服ナリト申立ルト雖モ謂レナキ申分ナレハ破毀ノ原由ト爲スニ足ラサル  
ノミナラス到底事實覆審ヲ請願スルノ趣旨ナルコト因リ本院ニ於テ採用スヘキ限リニ在ラ  
ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月八日脇町治安裁判所ニ於テ德島輕罪裁判所カ西口美喜  
藏ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキコト因リ上告狀却下スル者也

第八百十五號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十五年四月六日上告  
明治十五年六月廿七日判決

大坂府西區阿波座四番町十

二番地平民

雄

崎

彌 七

明治十五年三月  
三十二年

明治十五年三月十四日大坂輕罪裁判所ニ於テ右彌七ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年九月七日巡查澤治三郎カ家宅搜查スルニ營リ發見セシ松見家ノ印アル



木綿河内編外八點ハ山西喜兵衛ヨリ預リタル品ナリト陳辨スト雖モ抑同人ニ於テ之レヲ預ケタルヲ無之旨陳述シ又妻「キミ」ニ於ル該品ヲ入置キテ筒單ヲ捜査スル事ヲ拒ミタリ加之該筆筒ヲ隣家金澤「ハル」方へ預ルヤ其方カ供狀ト妻「キミ」カ陳述符合セサル等ノヲ參照スルニ當其罪ヲ掩ントスルニ外ナラス即雇人ニシテ該家商業閉店ノ際之ヲ竊取セシモノト認定ス右科刑法第三百六十六條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スヘキ處新法施行前ノ犯罪ニ係ルヲ以テ舊法改正雇人盜家長財物律ニ照シ贓金拾圓以上竊盜ヲ以論シ一等ヲ加ヘ懲役八十日刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ新法ニ從ヒ重禁錮二月申付ル

但贓品ハ取揚ル

雄崎彌七ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月二十三日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如

第一條

上告人雄崎彌七體テ上伸ス抑上告人儀ハ今ヲ去ル三ヶ年前即明治十三年五月中旬ノ頃「日詳カ」豫テ蓄故タル松見重介ナル者ノ雇人トナリ同人カ營ム處ノ吳服太物商業ニ從事罷在候處去ル明治十四年五月二十二日右重介ナル者不幸ニモ病臥ノ末終ニ鬼臺ニ趣キタリ就テハ死後十日間斗リ閉店休業致シ將來ト雖モ從前同一ノ商事取續カセンカ爲メ右重介親類ノ者乃チ川邊「マヌ」山西喜兵衛其他二三名集合協議ノ末上告人ニ於テ從前ノ如ク該店事務擔當商業永續致シ候機勉勵致吳ルヘクト受任致シタルニ付當時重介生前ニ在

テ各所ヨリ物品買入ノ代價滞リシ分多數有之候得共會テ重介方雇人トナリタル恩義モ有之協議上ヨリ成立タル相談否トモ難申斷其協議ヲ認諾致シ從前ノ如ク商事相營居候處豈圖ランヤ不幸ノ中ノ不幸ナルヤ上告人ニ於テ其頃即チ明治十四年七月下旬ノ頃ヨリ病ニ罹リ進退自由ナラサルニ付亡重介ノ妻「ツチ」ヨリ當時ノ暇ヲ乞ヒ自分宅ニ於テ病養罷在候處同年即チ十四年八月初旬ノ頃ヨリ聊快氣ニ趣キ同月十三日ニ至リテハ余程平愈ニ向ヒタルニ付同日即チ十三日上告人義亡重介方へ立越タル處右「ツチ」ノ實兄山西喜兵衛ナルモノ來リ合セ同人申スニハ當店「亡重介店」ニ於テ往日ヨリ數度店ノ若キ者共不都合相釀シ此儘ニテハ兎ニ角取續ノ目的然之ニ付一ト先閉店致候處ニ内決致シタル旨相告候ニ付實ハ上告人ニ於テモ意見有之タレ用當時主人實兄ノ事ナレハ否トモ故障申シ難ク意ヲ幸フシテ承服致候處猶重テ喜兵衛申スニハ右閉店一件ニ付テハ是迄買掛等有之候ニ付各人今宵集合相頼置キタル故今ヨリ其道付協議トシテ集會所へ立越候間自然今夜遅刻ニ及ヒ候ル乍迷惑該家「ツチ方」ニ待受居吳候様相談致シ候ニ付其旨唯諾致シタル處該夜十二時過キニ至リ喜兵衛義歸宅致シ上告人ニ對シ開談致候ニハ今宵折角各債主へ負債道付ノ相談ニ及ヒ候得共何分程克調議ニ至ラズ然レモ各債主ノ内請求通り唯諾致候モノモ有之該人等ニ於テハ今宵當家店ニ有之物品受授シ吳度ト再々依頼ニ及候得共兎ニ角明朝「八月十四日」マテ猶豫致シ吳度ト詫入候處是亦了承致シタリ就テハ今宵ノ内店ニ措キ有之吳服太物ノ内尤直高キモノ、ヨシ撰ニ當時他ニ隱匿致シ置度今ヨリ運搬ノ事ニ着手致吳レヨト申聞候ニ付其意ニ同シ然ルニ已ニ同家丁雜共ハ熟眠致居候ニ付右喜兵衛ト自分ト并ニ



同家雇人與助ナル者ト三人ニテ物品ノ荷造致シ該品兼テ重介ナル者生前ニ借受ケ置キタル向家へ運搬致シ殘ル吳服太物類ハ跡体裁能店拵致シタリ而シテ該所取片付居候折柄店ノ間隔所ニ當ツテ日々行商ノ節相用候吳服太物入萬籠一個有之候ヲ喜兵衛ナル者見認メ該萬籠内ニ見改致居候處若干物品差入有之候ヨリ喜兵衛申スニハ該品モ隱匿致シ度併シ最早向家モ戸締致且深更ニ及ヒタルハ人目モ憚ル譯ニ付當時上告人方へ持行キ預リ置吳度ト申居間何氣ナシ其道ニ應シ兼テ自分相用候該家へ差置アル手帳へ物品ノ點數ヲ相記シ置持歸リ候事

第二條

折柄債主數名ノ内七名ハ物品若干ヲ相渡シ清算相濟候得共唐谷半兵衛外三名ノ者共ニ於テハ大キニ苦情ヲ唱へ爾談行届兼候ヨリ兎ニ角物品若干ヲ相渡シ當時ノ猶豫相頼ニ置キ候尤是ハ上告人カ依談致シタルニ非ラス凡テ喜兵衛於テ取計處ナリ然リ而シテ右四名ノ者共ニ於テ爾後重介妻「ツチ」ニ對シ借金精算ノ義屢々督促致來リ候趣ニテ右「ツチ」ヨリ上告人へ如何トカシテ程能道付ノ示談致吳度ト懇談致候ニ付上告人義右四名ノ者方へ到リ先キ喜兵衛ヨリ預ケタル物品ニテ清算致吳候義ハ相叶ハサルヤト及相談候處四名ノ者ニ於テハ該預リシ吳服太物ヲ金三百三拾圓ニ直立致候旨申聞候ニ付然ラハ一應本人へ相談ノ上否返答可及旨相約シ立歸リ上「ツチ」へ其由申聞候處可然取計吳レタト申聞候間翌日即明治十四年八月二十一日早朝四名ノ者方へ至リ前日約束ノ如ク三百三拾圓ニテ差支無之候ニ付之レテ返濟金ニ相立其受取書相渡吳度申入候處之レテ遣タルニ付乃チ

領収シ殘金ハ調達ノ上償却可致ト申斷置キ該家立歸リ直ニ「ツチ」方ニ至リ該受取書ヲ同人へ相渡シタル處大ニ喜悅ヲ相表シ候事

第三條

夫ヨリ右「ツチ」方商品ノ掛金取集メトシテ諸方へ立越候處金百三拾七圓相集リタルニ付該金額ハ凡テ右四名ノ者へ返金トシテ差遣シ領収書之レヲ取リ乃チ「ツチ」へ相渡シ自宅へ立歸リ候而シテ翌日即明治十四年九月一日上告人義所用アリ他出致居候處留守中右「ツチ」使ノ者トシテ該受取書ニ葉上告人へ相渡シ吳ヨト持來リ上告人妻へ相托シ立歸リタル旨妻之レヲ申出ニ付何ノ間違ナルヤト存シタルニ強テ懸念ノ麻モ無之ニ付其儘兩三日ヲ打過居候處同月五日忽然巡查衆御出張相成本田警察署へ引致サレ候事

第四條

茲ニ該署ニ至ルヤ係官ヨリ松見「ツチ」ヨリ汝ニ掛リ該家商品懸金取集メタル分拐帶サレシ段告訴ニ及居候始末白狀セロト御尋有之ニ付事實詳ニ開陳致候處其旨御採用有之而シテ當時上告人カ御勾引相成候御家屋御臨見有之上告人カ所有篋笥中ニ本件河内編外八點存在致シ居リタルニ付キ之レヲ上告人カ窃取シタルヤニ司法警察官ニ於テ故サラニ不當ノ推測ヲ降シ始末御尋問ヲ蒙リタルニ付前掲ノ事實伸述候處猶御手推ノ御質問ニ付俱ニ辨駁仕候へハ其冤ヲ雪ク能ハス終ニ大坂輕罪裁判所へ交付サレ本件冤罪ニ處セラレシ事以上分條開陳スル通ノ事實ニテ抑上告人カ本田警察署ニ引致サレタル原因ハ松見「ツチ」カ上告人ヲシテ拐帶犯ナリト不實ヲ告ケ之レカ引招シテ本件山西喜兵衛カ委托シタル即



松見「ツチ」カ所有品ヲ上告人ニ於テ窃取シタルモノト判定サレタルハ其尽スヘキ審理ヲ  
 尽サス頗フル不當ノ裁判ニシテ決シテ服スル能ハサル處ナリ而シテ本件上告ノ要領ハ必  
 ス先ツ該物品ノ上告人カ家宅内ニ存在スルノ所以ヲ審究シ上告人カ開伸スル處ノ事實ニ  
 ヲリ先キニ松見「ツチ」カ所有ノ財産ヲ同家向家ニ隱匿シタルノ頗末ヲ推究スルニ於テハ  
 山西喜兵衛ニ於テ該品上告人ニ委託シタルノ實ナルヲ信スルニ足ルヘキモノトス然ルニ  
 大坂輕罪裁判於テハ山西喜兵衛カ財産隱匿シタルノ始末審究ハ件外ニ措キ事實ヲ知ルニ  
 足ルノ審問ヲ盡サレサルハ果シテ如何ナル理由ナルヤ上告人カ氷解スル能ハサル處ナリ  
 抑犯罪ト名ツケルモノハ其意ノ起ル所ヲ審究シ而シテ其業ノ如何ヲ視察シ以テ之レカ刑  
 ノ適用ヲ判定セサルヘカラス夫レ上告人於テハ毫モ盜心アツテ該品ヲ持歸リタルニ非ラ  
 ス何トナレハ上告人ニ於テ若シ或ハ假リニ盜心ヲ生シ松見「ツチ」カ所有物ヲ窃取シタル  
 モノトスルモ何ソ僅々タル物品ヲ懷ニセシヤ當時該店ノ物品ハ細大トナシ凡テ上告人ニ  
 於テ管理致シ居リタレハ彼ノ河内編外八點ヲ盜セシヨリ寧ロ過ニ超過シタル一二點ニシ  
 テ數拾圓ノ物品ヲ窃取セサル可カラス將タ金圓ニシテ之レヲ懷スルモ妨ケナシ然レハ豈  
 僅々物品ヲ目的トシテ何ソ窃取スルノ理アラシヤ夫レ之ニ由ツテ之レヲ觀ルルハ上告人  
 カ自己ノ爲メ之ヲ窃取シタルモノニ非ラスシテ所謂山西喜兵衛ヨリ委託ヲ受ケ預リ居リ  
 タルハ明白ナリ夫レ然リ果シテ然レハ本件ノ獄ヲ治ムルニ當ツテ先ツ山西喜兵衛ニ於テ  
 松見「ツチ」カ閉店ニ托シ若干物品ヲ隱匿シタルルノ實地ノ景況ト事實ノ如何ヲ審究シテ  
 問罪セサルニ於テハ其當ヲ失スルヤ疑ヲ容レサル處ナリ實ニ上告人ニ於テハ盜心ヨリ該

物品ヲ持歸リ居リタルモノニ非ラサルニヨリ仰キ冀クハ前顯續々伸告スル事實ニ毫モ反  
 對スルノ之レナキヲ以テ今一應御再審ノ上事實ニ應當ノ御裁判被成下度叩頭奉歎願候也  
 明治十五年四月十九日附上告趣意退願書ヲ差出シタルモノ前ノ上告趣意ヲ擴張セシモノナル  
 ニ依リ茲ニ掲載セヌ

辨明

上告人雄崎彌七ニ於テハ雇主松見「ヒサ」方閉店ノ際後見人山西喜兵衛ノ依托ヲ受ケ河内  
 編外八點ヲ自宅ニ持歸リ置キタルモ決テ窃取シタルニ非ルニ盜罪ヲ以テ處斷セラレタル  
 ハ不服ナリトノ申立ナリト雖也明治十四年九月七日後見人喜兵衛代人鈴木伊三郎カ大坂  
 府警察官ニ對シ差出シタル點檢書ニ「右ノ品々點檢被申付奉畏候則點檢仕候處私方所持  
 品ニ相違無御座候然ルニ雄崎彌七ナルモノ申立ニハ山西喜兵衛ヨリ預リ品ノ旨申上候趣  
 御達相成候得共山西喜兵衛ニ於テ預ケ候儀更ニ無之依テ點檢書差上候也」同十五年二月  
 十六日喜兵衛カ原裁判所豫審判事ニ對シテモ同様申立加ルニ上告人彌七カ家宅搜索シタ  
 ル巡查澤治三郎カ申立書中ニ「事主松見「ヒサ」ノ所有反物十四點計リ自宅ニ持歸リ居候  
 旨前記鈴木伊三郎ヨリ申出ニヨリ十等警部綴喜武五郎ヨリ右雄崎彌七家宅取調可致旨受  
 命該區戶長代理用掛リ及ヒ事主代理鈴木伊三郎並松見「ヒサ」雇人與吉同道ニテ雄崎彌七  
 宅ニ出張候處同人妻「キミ」ハ前記持歸リ候反物ノ原因尋問候處該反物類ハ更ニ持歸リタ  
 ル儀無之段同人相答候得共甚不審ナル答辨致且又同人方ノ隣家ナル西澤彌七ナル者宅ニ  
 該犯雄崎彌七ヨリ簞笥一棹及ヒ半櫃一ツ内々預ケ有之ヲ判然聞込候ニ付尙「キミ」ナル者



尋問スルニ全ク預ケ置タル旨相答候ニ付該筆筒並ニ半櫃ノ中ヲ取調可致旨同人へ申聞  
 候得共右「キ」カ鍵ヲ押隠シ尙同人ニ尋問候處右筆筒ノ中ヲ明ケニシキ様子故強テ取調  
 可致ト申候得ハ漸々鍵ヲ差出シ直ニ該筆筒ノ中ヲ取調候處果シテ松見「ヒサ」ノ所有之反  
 物類十四點有之鈴木伊三郎及ヒ松見「ヒサ」ノ雇人與吉へ點檢爲致候處全相違無之相答云  
 々トアリ戸長代理町用掛リ谷内源兵衛ニ於テモ同様申立而シテ被告彌七ハ之レカ推問  
 ナ受ケタル節右反物ハ三年前與服閉店ノ節家族ノ着用ニ殘シ置キ候品ニ有之ト相答タル  
 モ其反物ニ松見店印アルハ如何ト詰問セラレ理屈シ辭塞リ終ニ山西喜兵衛ヨリ預リタル  
 品ナリト申立其答辨ノ曖昧ナルト其他現實情ヲ推測シ原裁判所ハ彌七カ被告事實ヲ盜  
 罪ナリト認定シ其罪ヲ斷シタルハ宣告狀ニ掲載アル如シ毫モ不當ノ廉アルナキニ因リ上  
 告ノ趣旨相立タルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年三月十四日大坂輕罪裁判所ニ於テ雄崎彌七ニ言渡タル裁判  
 ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第八百十六號

○判文(地券書換失期ノ件) 明治十五年四月七日上告  
 明治十五年六月廿七日判決

新潟縣越後國北魚沼郡四日

町村四拾八番地平民

田 中 染 吉

明治十五年二月  
三十一年八月

右田中染吉ニ明治十五年二月八日長岡輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
 右田中染吉ニ對シ明治十四年十二月廿六日檢事高野薫ヨリ公訴ナシタル土地賣買讓渡規  
 則違犯ノ事件ニ因リ審理ヲ遂クル處

被告ノ陳述及ヒ北魚沼郡長關矢孫左衛門ノ告發書ニ因ルニ被告カ實父長吉ハ明治九年八  
 月死亡後家督相續ニ由リ地所讓リ受ケタル日ヨリ滿六ヶ月ヲ過キ其地券壹通ノ書換ヲ申  
 受ケサル罪アルモノト認定ス因テ之レヲ犯時ノ規則明治八年第百五十二號公布地券書換  
 手續第二條及ヒ明治九年地租改正事務局甲第一號布達ニ照スニ地券書換ノ證印稅壹錢五  
 倍ノ料料金五錢而シテ現行規則明治十三年第五十二號公布第五條及ヒ明治十四年第三  
 十號公布ニ照スニ地券書換證印稅三錢五倍ノ料料金拾五錢ナルヲ以テ刑法第五條第二項  
 及第三條第二項反ヒ明治十四年第八十壹號公布第五條ニ基キ犯時ノ規則ニ照ラシ料料金  
 五錢申付ル

長岡輕罪裁判所檢事高野薫ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月十三日附テ以  
 テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ旨趣左ノ如シ  
 抑法律ハ既往ニ及サルハ普通ノ原則ニシテ論ヲ俟タサル處ナリト雖モ被告田中染吉ハ  
 明治九年八月中父長吉死亡ノ后テ家督相續シタルモノナレハ其讓リ受ケタル地券書換ヲ  
 怠リ滿六ヶ月ヲ經過シタル罪ハ明治十年三月ニ至リ始テ發生シ犯時ハ則チ其際ニ在ルモ  
 ノ、如クナリト雖モ被告田中染吉ハ爾來明治十四年十月ニ至リ己カ怠慢ヲ悟リ地券書換



ヲ願出テアリ然レハ此際官ノ帳簿ハ依然ト錯亂シテ都合ナラス由是觀之犯時ハ特ニ明治十年三月ノミニ非スシテ明治十四年十月ニ到リ尙繼續シテ罪ヲ犯シタルモノナリ苟モ然レハ被告田中染吉ニ對スル犯時ノ法律ト云フハ則チ土地賣買讓渡規則ニシテ地券証印稅モ亦明治十四年第三十號布告改正証印稅ニ據ルヘキハ當然アリ抑又其土地賣買讓渡規則ハ明治八年第五百十三號布告改正ナルモ家督相續者即チ被告ニ對シ毫モ不理アルナクレハ何ソ土地賣買讓渡規則相定ニ際シ廢止セラレタル明治八年第五百十三號布告ニ照準スルノ理アラソヤ而ノミナラス明治十四年第八十一號布告第五條ニ基キタルハ果シテ何ノ理由タルヲ知ラス法律ヲ濫用スルモ亦甚シト云フヘシ右ノ趣旨ナルヲ以テ長岡輕罪裁判所カ明治八年第五百十二號 百五十二號ハ果シテ百五十三號ノ誤ナラン 公布地券書換手續第二條及ヒ明治九年地租改正事務局甲第壹號布達ニ依リ尙ホ明治十四年第八十一號公布第五條ニ基キ宜告シタルハ頗ル其當ヲ得サルモノト認ムルニ付其裁判破毀アラソト求ム

辨明

田中染吉カ被告事實ハ明治九年八月父長吉死亡家名相續ニ因リ地券讓受ケ六ヶ月内書替願出スヘキヲ等閑ニ過キ明治十四年十月ニ至リ初テ書替ノ儀願出シ者ニシテ其定期ヲ過キ犯則タル明瞭ニシテ所謂繼續犯罪ナリトス然ラハ則犯罪發見ノ日ヲ以テ犯罪ノ日ト看做シ犯時現行ノ法律ニ依リ處罰スヘキニ原裁判ノ玆ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十五年二月八日長岡輕罪裁判所ニ於テ田中染吉ニ言渡タル裁判ヲ

平翻スル左ノ如ク

田中 染吉

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條及ヒ全十四年第三十號布告ニ依リ贖印稅三錢ノ五倍 料料金拾五錢 第八百十七號

○判文(瘋癲放火ノ件) 明治十五年四月八日上告  
明治十五年六月廿七日判決

熊本縣肥後國阿蘇郡坂梨村

平民

藤井新三郎

明治十四年九月十八年

明治十五年二月十三日熊本輕罪裁判所ニ於テ右新三郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀放火ノ科ニ依リ明治十二年十二月廿七日熊本裁判所ニ於テ鎖鋼終身ノ刑ニ處セラレタル處其後明治十四年八月廿二日瘋癲痊愈セシ旨ヲ以テ檢察官ヨリ公訴セシニ付之ヲ刑法第三條ニ照シ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改定律例百九十四條 第百九十五條ノ誤リカ凡瘋癲人云々痊愈スルハ親屬隣佑ノ保証ヲ取リ懲役五年ニ改正シ限滿テ放還ストアリテ新法ヨリ重シ故ニ其輕キ刑法第七十八條罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セストアルニ依リ其罪ヲ論セズ



熊本輕罪裁判所附熊本縣警部兼檢事補長坂甚兵衛於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年二月廿一日付テ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

本犯藤井新三郎ハ明治十二年十二月廿七日熊本裁判所ニ於テ放火ノ科瘋癲ノ所爲タルヲ以テ人命律瘋癲殺人條ニ依テ論シ鎖鋼終身ノ刑ヲ申渡タル后テ瘋癲痊愈セシヲ以テ改定律例第九十五條ニ依テ明治十四年八月廿二日熊本裁判所ニ之カ改正ヲ求メタリ然リ而シテ之ヲ刑法ニ比照スヘキ正條ナキヲ以テ原確定裁判タル終身鎖鋼ニ止メ改正セサラン歟然リト雖モ本刑ノ趣意タル原ト定役アルト否トノ性質ニ依テ然ルモノニアラスシテ只瘋癲タルヲ以テ施體ノ刑ヲ加ヘテ去迪通常宥恕スヘキニアラサル人命放火ノ大罪タレハ向來テ豫防シ單ニ其身體ヲ拘束シ置クノ法タルニ外ナラサレハ定役アラサルモ到底終身ノ刑ニシテ其痊愈スルニ於テハ假令定役ニ服スト雖モ其改正スヘキヲ輕シトナサハルヘカラス然ラサレハ舊法刑ヲ改正短縮スヘキ法ノアルアリテ刑法改正ニ遭遇シタルカ故尤被告人ニ利益ナル其短縮シ得ヘキ刑モ其レカ爲メ消滅ニ歸シ終身刑ニ止ルハ豈不幸ノ甚シキモノト云ハサルヘケン哉蓋シ定役アル五年ニ服スルノ便益トナルニ如カサルヘシ依之觀之ハ刑法ニ比照スヘキ正條ナクシテ鎖鋼終身ニ止ルヲ重トシ舊法ノ懲役五年ニ改正スルヲ輕且至當トナサハルヲ得ス依テ其輕キ改定律例第九十五條ニ依リ懲役五年ニ改正正シ明治十四年第八十一號布告第一條第十項ニ依リ之ヲ重禁錮ニ換ヘ處斷スヘキヲ相當ト考量ス然ルヲ明治十五年二月十三日熊本輕罪裁判所ニ於テ別紙判文ノ通刑法第三條第二項ニ依リ舊法ヲ重シトシ刑法第七十八條ニ照シ不論罪ヲ以テ處斷シタルハ不法ナリト

ス抑モ刑法第七十八條ノ如キハ當初ノ裁判ニ適用スヘクシテ本案ノ如キ裁判確定シタル者ニ適用スヘキニアラス如何トナレハ本案ハ元來單ニ改正ヲ求ムルモノニシテ其該條ヲ適用スルカ如キハ妄リニ裁判ノ確定ヲ變換シ明治十四年十二月三十一日以前ノ處斷ニ係ルモノモ亦改定律例正條ナキモノ又ハ不論罪宥減輕ノ如キニ該法ハ皆悉ク放免減等セサルヘカラサルノ無謂理ヲ生シ素ヨリ比照シ得ヘキ適當ノ條ニアラサルヤ粲然タリ是不法ノ裁判ト認メ破毀ヲ求ル所以ニ候依テ一件書類相添此段及上告候也

辨明

被告新三郎ハ明治十二年十二月廿七日放火ノ犯罪者ナルモ瘋癲ニ係ルヲ以テ鎖鋼終身ノ刑ヲ受ケ而シ今其疾病ノ痊愈ニ及ヒタルハ醫師ノ診斷ニ依リ明瞭ナレハ則檢事補長坂甚兵衛ノ論告スル如ク改定律例第九十五條第二項ニ若シ果シテ痊愈スレハ親屬憐佑ノ保證ヲ取リ懲役五年ニ改正シ限滿テテ放還ストアルニ依リ處斷スヘキニ原裁判所ハ舊法ニ於テ已ニ判決ヲ經タル罪犯ニ對シ新舊法ヲ比照シ刑法第七十八條罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セストアルニ依リ其罪ヲ論セスト處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノト爲サハルヲ得ヌ何トナレハ刑法第三條ニ所謂新舊法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストハ所犯新法頒布以前ニアリテ未ダ判決ヲ經サルモノヲ裁判スルノ法ニシテ已ニ判決ヲ經只法ニ依リ刑ノ執行改正ヲ言渡スヘキ罪犯ニ適用スルノ法律ニアラサルノミナラス確定裁判ノ効力ヲ消滅セシムルノ理ニ當レハナリ

判決



右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年二月十三日熊本輕罪裁判所ニ於テ藤井新三郎ヨリ言渡シタル  
裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

藤井新三郎

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ改定律例第九十五條ニ依リ其刑ヲ改正シ

懲役五年

第八百十八號

○判文(毆殺ノ件)明治十五年四月十七日上告  
明治十五年六月廿七日判決

長野縣信濃國上水内郡住良

木村平民

小林安五郎

明治十五年三月  
三十一年十ヶ月

明治十五年三月十日長野輕罪裁判所ニ於テ右安五郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
汝ニ對シ檢察官ニ於テ人ヲ毆殺スルノ罪アリトシ公訴及ヒタル事件ニ付汝ノ答辨ヲ聽ク  
ニ明治十三年十一月二十日午前一時頃母「ユキ」ヨリ強賊押入リタリト聞キ直チニ裏口ニ  
出テ隣家小林重藏ヲ呼び起シ俱々大聲ヲ發シ表ニ回ル際賊三名家宅ヨリ遁逃スルヲ見認追  
跡ノ途中松古桶木ヲ携ヘ尙進行シ中二名ハ逃走シ一名ハ路上ニ墮キ倒レ彼レ起上リ言葉  
ヲ發セシトテ該桶木ヲ以テ毆打シ其人体ヲ見レハ村内宮脇譽太ナルヨリ打驚キ醫師ヲ迎

ヘ治療スルモ其効ナク遂ニ死ニ至ルヲ以テ其桶木ヲ持シ長野警察署中條分署ヘ首告シタ  
リト陳供スルニ因リ証據物件ヲ檢シ相當官吏ノ調書當時中條分署詰巡查其他証人等ノ陳  
述書ニ照スニ自首セシコトナキ而已ナラズ宮脇譽太カ色情ヲ逸ケント汝ノ家宅内ニ入タル  
ヲ強盜ナリト想像シ防止スルニ非スシテ彼レノ遁逃スルヲ追跡シ家外路上ニ於テ毆打創  
傷ヲ因テ死ニ致シタルモノト認定ス

右所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ改定律例  
第七十五條ニ依リ懲役終身ハ重キニ付其輕キ刑法第二百九十九條ニ依リ重懲役ノ處犯  
時強盜ト想像シ追跡家外路上ニ於テ毆打死ニ致シタルハ全ク追捕ノ念慮ニ出タルモノニ  
付情狀ヲ原諒シ刑法第八十九條其第九十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ酌量シ刑法第二十二條第  
二項ニ照シ輕懲役六年ニ處スル者也

但シ刑法第三十二條其第三十七條ノ附加刑ハ明治十四年第八十一號公布第九條ニ依リ  
適用セズ

長野輕罪裁判所檢事補川久保信任ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十五年三月廿三日  
附テ以司法卿ヲ經由シ大審院檢事ヨリ本院ニ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

長野縣信濃國上水内郡住良木村平民小林安五郎被告事件ノ公判言渡ニ對シ上告ノ趣旨ハ  
明治十三年十一月二十日ノ夜同村平民泰吉長男宮脇譽太カ被告人小林安五郎宅ニ侵入セ  
シテ強盜ナリトシ追跡シテ毆殺セシヲ長野縣長野警察署ニ於テハ被告人安五郎ハ夜故ナ  
ク人家ニ入タル人ヲ毆打死ニ致シタルモノニ付律ニ依リ所爲ヲ論セストノ見込ニ因テ之



ナ不問ニ置タルヲ同年十二月十七日被殺人宮脇譽太ノ親屬ヨリ長野警察署ニ向テ告訴ニ及ヒシモ直ニ却下セラレタルニ依テ尙ホ明治十四年三月廿一日之ヲ舊東京上等裁判所檢事局ニ告訴ス該檢事ニ於テハ其取調ヲ未タ尽サ、ルモノトシテ其條款ヲ命示シ數回ノ往復ヲナセリ而シテ遂ニ糾問ヲ求ムヘキノ見込ヲ以テ全年八月十八日本按事件ヲ長野縣ニ送致ス同縣警部ニ於テ同年九月十三日舊松本裁判所長野支廳糾問掛ニ付シテ糾問ヲ求ム以後長野支廳ニ檢事ヲ置ル、ニ及ンテ同年十月三十一日該件糾問中ノ儘長野縣ヨリ檢事ニ引繼キ受ケ而シテ糾問終リ檢事ノ指名ニ從ヒ本官ニ於テ明治十五年一月九日長野輕罪裁判所ニ公訴ニ及ヒタリ該裁判所ニ於テハ同年三月十四日ヲ以テ公判ヲ開キ即日被告人小林安五郎ニ對シ刑ノ言渡ヲナスノ如シ

〔宣告文零之〕

抑被告人小林安五郎ノ行爲ヲ玆ニ摘發スレハ夜間故ナシ人ノ家宅ニ入ル者アルヲ盜賊ナリト想像シ隣家小林重藏ヲ呼起シ俱ニ追跡シテ已ニ居宅ヲ避ル二十間余ノ村道ニ至リ彼レ躓キ倒レ起キ上ラントスルヲ松古桶木ヲ以テ毆打シ其人ヲ見ルニ同村內宮脇譽太ナルイチ知リ醫ヲ迎ヘタルモ其既ニ死ニ至ルヲ以テ同村ノ者ヲシテ長野警察署中條分署ニ強盜三人押入タルヲ一人取押ヘシ旨ヲ届出タル事實ハ証據書類ニ依テ明確ナリトス而シテ被殺人宮脇譽太ニ於テハ強盜ニ入タルニ非スシテ酒狂ノ上色情ヲ遂ントシテ猥リコ人ノ家宅ニ侵入セシ所爲ハ同村宮尾熊吉外二名ノ共出ニ因テ之ヲ証スルコ足レリトス之ニ由テ被告人小林安五郎ノ所爲ハ夜故ナクシテ人家ニ入ル者ヲ追跡シ危害已ニ去リタル後ニ

於テ勢ニ乘シ仍ホ毆殺セシモノニシテ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ賊盜律夜無故入人家條ニ依リ家主即時ニ殺死スル者ニ非サルヲ以テ其已ニ拘執ニ就クヲ擅ニ殺傷スル者ヲ以テ論シ闘毆傷ニ二等ヲ減ストアルニ依リ即チ改定律例第七十五條ニ依テ二等ヲ減シ懲役七年ハ重キニ付其輕キ刑法第二百九十九條及第三百十六條第三百十三條ニ依リ重懲役ニ二等或ハ三等ヲ減シ重禁錮ニ處スルノ刑ヲ適用スルヲ至當ナリトス然ルニ該公判言渡ニ曰ク宮脇譽太カ色情ヲ遂ケント汝ノ家宅内ニ入タルヲ強盜ナリト想像シ防止スルニ非スシテ云々ト認定シ單ニ改定律例第七十五條刑法第二百九十九條ヲ比照スルノ刑ニ依ルハ被告人安五郎ノ所爲ハ尋常ノ闘毆ト見做シ人ヲ毆打シ因テ死ニ致シタルト信認セラレシモノ、如ク而シテ又曰ク犯時強盜ト想像シ追跡家外路上ニ於テ毆打死ニ致シタルハ全ク追捕ノ念慮ニ出タルモノト明言セリ之ニ因テ之ヲ觀レハ先ニハ強盜ナリト想像シ防止スルニ非スシテト言ヒ後ニハ強盜ト相像シ全ク追捕ノ念慮ニ出タルモノト言フハ前後旨趣相反シテ精神ノアル所ヲ見ス故ニ其刑ノ適用モ亦不當ナルハ職トシテ是ニ因ル者ト謂フ可クシテ敢テ他言ヲ俟タサルナリ依テ明治十五年三月十四日長野輕罪裁判所ニ於テ被告人小林安五郎ニ對スル公判言渡ハ事實ノ理由相離セシニヨリ隨テ擬律ノ錯誤アルモノト思料シ本官ニ於テ該裁判ヲ不當ト見込候條明治十四年十二月廿八日第八十二號公布ニ依リ從前ノ規則ニ從ヒ及上告候也

辯明

上告事件ヲ審閱スルニ被告人小林安五郎カ犯罪タルヤ明治十三年十一月二十日午前一時



頃被害入宮脇譽太外二名ト安五郎宅ニ押入タルニ安五郎母「ユキ」ナルモノ覺知シ之ヲ誰  
 何ス譽太ハ「靜カニセヨ聲ヲ立ルト縛ル」ト答ヘタリ安五郎モ亦之ヲ聞キ裏口ヨリ腕ケ  
 出隣家小林茂平次小林重藏ヲ呼起シ強盜押入タリト呼ルニ譽太外二名ハ逃走ス安五郎茂  
 平次重藏追跡シ安五郎宅ヲ距ル凡ソ二十間許ノ所ニ於テ安五郎松古桶木ヲ以テ譽太ヲ  
 毆打死ニ致シタリ抑譽太カ安五郎宅ニ押入ルハ強盜ノ念慮アルコアラヌ適マ酒ヲ被リ  
 タル上淫情ヲ逞フセント欲スルノ意ニ出タルモノナルヲ安五郎ハ之ヲ強盜ナリト想像シ  
 追跡毆打シタル事實ハ之ヲ証據書類及ヒ關係人ノ証言等ニ照徴スレハ其証憑亦明確ナリ  
 トス是ニ依テ之ヲ觀レハ安五郎カ所爲ハ夜間故無シ人家ニ入りタル者ヲ追捕毆殺シタル  
 モ即時殺死シタルモノコアラヌ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ毆殺シタルモノニテ  
 即チ已ニ拘執ニ就クテ擅ニ殺傷シタルモノヲ以テ論スヘキモノナリトス故ニ安五郎カ罪  
 ナ斷スルニ新律綱領賊盜律夜無故入人家條及改定律例第七十五條ニ依リ本刑ニ二等ヲ  
 減シ懲役七年ノ處所犯刑法實施以前コアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照  
 シ刑法第二百九十九條人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ストアリ同第三  
 百十六條身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已リテ得サルニ非ラヌシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ  
 又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在  
 ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルヲ得トアリ同第三百十三條  
 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ストアルニ依リ本刑  
 ニ三等ヲ減シ一年六月以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノナリトス然ルニ原裁判

所於テ單ニ改定律例第七十五條第二百九十九條ヲ比照シ輕懲役六年ニ處分シタルハ不  
 法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十五年三月十日長野輕罪裁判所ニ於テ小林安五郎ニ言渡シ裁判ヲ  
 破毀シ大審院ニ於テ更ニ裁判スル左ノ如シ

小林 安五郎

刑法第二百九十九條同第三百十六條同第三百十三條ニ依リ

重禁錮二年

第八百十九號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十五年三月二日上告  
 明治十五年六月廿八日判決

滋賀縣近江國犬上郡彦根芹

橋十三丁目平民

櫻井 拾次郎

明治十五年一月  
二十八年九月

全縣全國全郡彦根芹橋七丁

目平民

西村 榮太郎

明治十五年一月  
二十三年五月

三七七



全縣全國全郡彦根江戸町平民

辻

忠 八

明治十五年一月  
二十七年十一月

全縣全國全郡兩降野村平民

當時全郡彦根江戸町寄留

宮 尾

增 太 郎

明治十五年一月  
二十五年五月

全縣全國全郡彦根平田町士

族

伊 藤

太 吉

明治十五年一月  
二十二年一月

全縣全國全郡彦根袋町平民

田 部

利 八

明治十五年一月  
二十三年七月

右捨次郎外五名ニ對シ明治十五年一月廿七日彦根輕罪裁判所ニ於テ左ノ裁判言渡シテナシ

ナリ

櫻井捨次郎

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル詐欺取財事件審理ヲ遂ル處

檢事補公訴ノ要領ハ汝ハ西村榮太郎外三名ト申合戸田喜十郎外一名ヨリ生糸ヲ買フ可  
キノ契約ヲ爲シタル末詐欺シテ其手附金ノ倍還ヲ求メシカ爲メ賣買ノ破約ヲ手段トシ  
局騙ヲ以テ右倍増金ヲ詐取シ或ハ藝妓ノ纏頭金ト稱シ又ハ手數料ト稱シ誑賺シテ金員  
ヲ詐取シタリト謂フニ在リ汝カ申立ル處ノ主旨ハ犯罪ノ始末ハ糾問掛ニテ申立タル通  
相違ナシト陳述セリ

右ノ如クナルヲ以テ汝ハ明治十四年十一月一日西村榮太郎外數名ト謀リ汝ハ神崎郡八日  
市村織屋ノ旦那ト詐稱シ共謀者辻忠八ヲシテ其手代ニ摸擬シ以テ戸田喜十郎外一名ヲ欺  
罔シ生糸賣買ノ契約ヲ爲シ手附金拾五圓ヲ差入レ生糸四貫三百六拾目ヲ詐取セント計リ  
半途又意謀ヲ變シ其生糸賣買ノ破約ヲ手段トシ誑賺シテ手附金ノ倍還ト唱ヘ金拾五圓ヲ  
詐取シ又同人等ヲ遊里ニ勸遊シ遊興費用ヲ負擔セシムルノ目的ヲ以テ共謀者滋賀縣近江  
國犬上郡彦根袋町田部利八カ遊席ニ飲食シ藝妓數名ヲ招聘シ而シテ其遊興ノ央生糸賣買  
ニ付共謀者辻忠八外四名ニ於テ紛議ヲ中裁セシ手數料ナリト誑賺シ依テ金五圓ヲ詐取シ  
又藝妓ノ揚代ト欺罔シ共謀者ニシテ席主タル田部利八ヲシテ無實ニ費用ノ金額ヲ増加セ  
シメ金六圓九拾九錢ヲ詐取シ又扣金ト稱シ藝妓ノ纏頭一名ニ金拾錢ヲ投與セシテ五拾錢  
宛ナリト欺罔シ之レニ柿代金ノ五拾錢ヲ併セタリトテ金拾圓ヲ欺取シ又遊興ノ費用金拾  
七圓ハ局騙シテ擔當セシメタルモノトス乃チ之ヲ法律ニ照ラスニ

刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ証書類ヲ騙取シタル者ハ



二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ付加ストアリ又刑法第三百九十四條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ル可キ罪トス

右ノ所犯ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯新法頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ之レヲ舊法ニ照ス

賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス云々若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲シ及誑騙局騙拐帶スル者モ亦計ヘ盜竊ニ準ストアルニ照シ其實費ニ屬スル戸田喜十郎外一名カ部分ハ詐欺罪ニ算セス遊興代金拾七圓藝妓ノ纏頭壹圓七拾錢及ヒ柿代金五拾錢合計拾九圓貳拾錢ハ共遊者八名ニ分割シ其ニ部タル四圓八拾錢ヲ扣除シ之レニ手付金以下ヲ併セ贓金四拾九圓三拾四錢ナルヲ以テ改正七贓例圖ニ照シ懲役百日ニ處スヘキノ罪ナリトス

右ノ理由ニ依リ明治十四年第八十一號布告新舊法比照第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但シ舊法ノ刑期ニ過ルコトヲ得ストアリ又第六條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セストアリ又第十條ニ舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ依テ新法ニ從ヒ汝ニ刑法第二百九十條ヲ適施シ單ニ重禁錮三月十日ニ處ス但シ詐取現在ノ金拾壹圓貳拾錢ハ本主戸田喜十郎清永忠五郎ニ還付スルモノ也

西村榮太郎

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル詐欺取財事件審理ヲ遂ル處

檢事補公訴ノ要領ハ汝ハ櫻井捨次郎ノ發意ニ同シ同人カ戸田喜十郎外一名ノ生糸ヲ買フ可キ契約ノ助ヲ爲シタル末詐欺ノ思慮ヨリ其手附金ノ倍還ヲ求ンカ爲メ賣買ノ破約ヲ手段トシ或ハ局騙或ハ誑騙ヲ以テ右倍増金或ハ藝妓ノ纏頭金又ハ手數料ト稱シ金員ヲ詐取セリト謂フニ在リ

汝カ申立ル處ノ主旨ハ犯罪ノ始末ハ糾問掛ニ於テ申立タル通相違ナシト陳述セリ

右ノ如クナルヲ以テ汝ハ明治十四年十一月一日櫻井捨次郎ノ招聘ニ應シ詐欺ノ巧策ニ參畫シ戸田喜十郎外壹名ニ係ル生糸賣買ノ紛議ヲ生シ其破約ヲ手段ト爲シ手附金ノ倍還ト唱ヘ誑騙シテ金拾五圓ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ノ發意ニ從ヒ戸田喜十郎外一名ヲ遊里ニ勸誘シ遊興費用ヲ同人等ニ負擔セシムルノ目的ヲ以テ共謀者タル滋賀縣近江國犬上郡彦根袋町田部利八カ遊席ニ飲食シ藝妓數人ヲ招集シ其遊興ノ興生糸賣買ノ破約ニ付紛議ヲ仲裁セシ手數料ナリト誑騙シ同人等ヨリ金五圓ヲ詐取シ又藝妓ノ揚代ト欺罔シ共謀者ニシテ席主タル田部利八ヲシテ無實ニ費用ノ金額ヲ增加セシメ金六圓九拾九錢ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ニ於テ扣金ト稱シ藝妓ノ纏頭一名ニ金拾錢ヲ投與セシメ金五拾錢ナリト欺罔シ之レニ柿代金ノ五拾錢ヲ併セタリ金拾圓ヲ詐取シ又遊興ノ費用金拾七圓ハ局騙シテ之レヲ擔當セシメタルモノトス乃チ之ヲ法律ニ照ス

刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ証書類ヲ騙取シタル者ハ



二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリ又刑法第三百九十四條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ル可キ罪トス

右ノ所犯ハ新法實施ノ以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯新法頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ之レヲ舊法ニ照スニ

賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス云々若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲シ及ヒ誣賺局騙拐帶スル者モ亦贓ニ計ヘ竊盜ニ準ストアルニ照ラシ其實費ニ屬スル戸田喜十郎外一名カ部分ハ詐欺ノ贓ニ算セス遊興代金拾七圓藝妓ノ纏頭壹圓七拾錢及ヒ柿代金五拾錢合計拾九圓廿錢ハ共遊者八名ニ分割シ其二部タル四圓八拾錢ヲ扣除シ之レニ手付金以下ヲ併セ贓金四拾九圓三拾四錢ナルヲ以テ改正七贓例圖ニ照シ懲役百日ニ該ル可キ處櫻井捨次郎カ發意ニ從ヒ共ニ犯シタルヲ以テ名例律共犯罪自首從條ニ依リ隨從者ト爲シ一等ヲ減シ懲役九十日ニ處スヘキノ罪ナリトス

右ノ理由ニ依リ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但シ舊法ノ刑期ニ過ルヲ得ストアリ又第六條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セストアリ又第十條ニ舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ依テ

新法ニ從ヒ汝ニ刑法第三百九十條ヲ適施シ單ニ重禁錮三月ニ處ス但シ詐取現在ノ金拾壹圓貳拾錢ハ本主戸田喜十郎清水忠五郎ニ還付スルモノ也

辻 忠 八

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル詐欺取財事件審理ヲ遂ル處

檢事補公訴ノ要領ハ汝ハ櫻井捨次郎ノ發意ニ同シ同人カ戸田喜十郎外一名ヨリ生糸ヲ買フ可キ契約ノ助ケヲ爲シタル末詐欺ノ思念ヨリ其手付金ノ倍還ヲ求メシカ爲メ賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ或ハ局騙或ハ誣賺シテ右倍増金或ハ藝妓ノ纏頭金又ハ手數料ト稱シ金員ヲ詐取シタルト謂フニ在リ汝カ申立ル處ノ主旨ハ犯罪ノ始末ハ糾問掛ニテ申立タル通相違ナシト陳述セリ

右ノ如クナルヲ以テ汝ハ明治十四年十一月一日櫻井捨次郎ノ發意ニ從ヒ同人ハ神崎郡八日市村織屋ノ且那ト詐稱シ汝ハ其手代ニ摸擬シ戸田喜十郎外一名ヲ欺罔シテ生糸賣買ノ契約ヲ爲シ手付金拾五圓ヲ以テ生糸四貫三百六十目ヲ詐取セント謀リ半途又詐術ヲ變シ其生糸賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ誣賺シテ手付金ノ倍還ト唱ヘ以テ金拾五圓ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ノ發意ニ從ヒ戸田喜十郎外一名ヲ道理ニ勸誘シ遊興費用ヲ同人等ニ擔當セシムルノ目的ヲ以テ共謀者タル滋賀縣近江國犬上郡彦根袋町田部利八カ遊席ニ飲食シ藝妓數人ヲ呼集シ其遊興ノ央生糸賣買ノ破約ニ付紛議ヲ仲裁セシ手數料ナリト誣賺シ同人等ヨリ金五圓ヲ詐取シ又藝妓ノ揚代ト欺罔シ共謀者ニシテ席主タル田部利八ヲシテ無實ニ費用ノ金額ヲ増加セシメ金六圓九拾九錢ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ニ於テ扣金ト稱シ藝妓ノ纏



頭一名ニ金拾錢ヲ投與シタルニ五拾錢宛ナリト欺罔シ之レニ柿代金ノ五拾錢ヲ併セタリトテ金拾圓ヲ詐取シ又遊興ノ費用金拾七圓ハ局騙シテ之レヲ擔當セシメタルモノトス乃チ之レヲ法律ニ照ス

刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シクハ証書類ヲ騙取シタル者二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリ

又刑法第三百六十四條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ルヘキ罪トス

右ノ所犯ハ新法實施ノ以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯新法頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ之レヲ舊法ニ照ス

賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス云々若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己レノ物ト爲シ及ヒ誣贖局騙拐帶スル者モ亦計ヘ竊盜ニ準ストアルニ照シ其實費ニ屬スル戸田喜十郎外壹名カ部分ハ詐欺罪ニ算セス遊興代金拾七圓藝妓ノ纏頭一圓七拾錢及柿代金五拾錢合計拾九圓貳拾錢ハ共遊者八名ニ分割シ其一部タル金四圓八拾錢ヲ扣除シ之レニ手付金以下ヲ併セ計金四拾九圓三拾四錢ナルヲ以テ改正七罪例圖ニ照シ懲役百日ニ該ルヘキ處櫻井拾次郎カ發意ニ從ヒ共ニ犯シタルヲ以テ名例律犯罪分首從條ニ依リ隨從者ト爲シ一等ヲ減シ懲役九十日ニ處スヘキノ罪ナリトス

右ノ理由ニ依リ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從テ但舊法ノ刑期ニ過クルコトヲ得ストアリ又第六條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セストアリ又第十條ニ舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ依テ新法ニ從ヒ汝ニ刑法第三百九十條ヲ適施シ單ニ重禁錮三月ニ處ス但シ詐取現在ノ金拾壹圓貳拾錢ハ本主戸田喜十郎清水忠五郎ニ還付スルモノ也

宮尾 増太郎

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル詐欺取財事件審理ヲ遂ル處

檢事補公訴ノ要領ハ汝ハ櫻井拾次郎ノ發意ニ同シ同人カ戸田喜十郎外一名ヨリ生系ヲ買フ可キ契約ノ助ヲ爲シタル末詐欺ノ思念ヨリ其手附金ノ倍還ヲ求ンカ爲メ生系賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ或ハ局騙或ハ誣贖シテ

右倍増金或ハ藝妓ノ纏頭金又ハ手數料ト稱シ金員ヲ詐取セリト謂フニ在リ

汝カ申立ル所ノ主旨ハ犯罪ノ始末ハ糾問掛ニテ申立タル通相違ナシト陳述セリ

右ノ如クナルヲ以テ汝ハ明治十四年十一月一日櫻井拾次郎ノ發意ニ從ヒ同人ハ神崎郡八日市村織屋ノ旦那ト詐稱シ汝及ヒ共謀者ハ其手代又ハ番頭ノ如クニ摸擬シ戸田喜十郎外一名ヲ欺罔シテ生系賣買ノ契約ヲ爲シ手付金拾五圓ヲ以テ生系四貫三百六十目ヲ詐取セント謀リ半途又詐術ヲ變シ其生系賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ手付金トモ併テ金五拾圓ヲ相渡スニ付生系ハ受取ル可シ否ヲサレハ手付金ヲ倍増シテ返却受シ可シト局騙シ依テ金拾



五圓ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ノ發意ヲ以テ同人等ヲ遊里ニ勸誘シ遊興費用ヲ擔當セシムルノ目的ヲ以テ共謀者滋賀縣近江國犬上郡彦根袋町田部利八カ遊席ニ飲食シ藝妓數名ヲ呼招シ其遊興ノ際汝及ヒ外四名ハ生糸賣買ノ破約ニ付紛議ヲ仲裁セシ手數料ナリト誣賺シ戸田喜十郎外一名ヨリ金五圓ヲ詐取シ又藝妓ノ揚代ト欺罔シ共謀者ニテ席主タル田部利八チシテ無實ニ費用ノ金額ヲ増加セシメ金六圓九拾九錢ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ニ於テ扣金ト稱シ藝妓ノ纏頭一名ニ金拾錢ヲ投與セシテ五拾錢ツヽナリト欺罔シ之レニ柿代金ノ五拾錢ヲ併セタリトテ金拾圓ヲ詐取シ又遊興ノ費用金拾七圓ハ局騙シテ之レヲ擔當セシメタルモノトス乃チ之ヲ法律ニ照ス

刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ証書類ヲ騙取シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアリ又刑法第三百九十四條ニ曰ク前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ル可キ罪トス

右ノ所犯ハ新法實施ノ以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ之レヲ舊法ニ照スニ  
賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ計ニ竊盜ニ準シテ論ス云々若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲シ及ヒ誑騙局騙拐帶スル者モ亦計ニ竊盜ニ準ストアルニ照シ其實費ニ屬スル戸田喜十郎外一名カ部分ハ詐欺賊ニ算セス遊興代金

拾七圓藝妓ノ纏頭壹圓七拾錢及ヒ柿代金五拾錢合計拾九圓貳拾錢ハ共遊者八名ニ分割シ其ニ部タル金四圓八拾錢ヲ加除シ之レニ手付金以下ヲ併セ賊金四拾九圓三拾四錢ナルヲ以テ改正七贓例圖ニ照シ懲役百日ニ該ル可キ處櫻井捨次郎カ發意ニ從ヒ共ニ犯シタルヲ以テ名例律共犯罪分首從條ニ依リ隨從者ト爲シ一等ヲ減シ懲役九十日ニ處スヘキノ罪トス

右ノ理由ニ依リ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但シ舊法ノ刑期ニ過ルヲ得ストアリ又第六條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セストアリ又第十條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ依テ新法ニ從ヒ汝ニ刑法第三百九十條ヲ適施シ單ニ重禁錮三月ニ處ス但詐取現在ノ金拾壹圓貳拾錢ハ本主戸田喜十郎清水忠五郎ニ還付スル者也

伊 藤 太 吉

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタルハ詐欺取財事件審理ヲ遂ル處  
檢事補公訴ノ要領ハ汝ハ櫻井捨次郎ノ發意ニ從ヒ同人カ戸田喜十郎外一名ヨリ生糸ヲ買フ可キ契約ノ助ヲ爲シタル末詐欺ノ思念ヨリ其手付金ノ倍還ヲ求ンカ爲メ賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ或ハ局騙或ハ誑賺ヲ以テ右倍増金或ハ藝妓ノ纏頭金又ハ手數料ト稱シ金員ヲ詐取セリト謂フニ在リ

汝カ申立ル處ノ主旨ハ犯罪ノ始末ハ料問辯ニテ申立タル通相違ナシト陳述セリ



右ノ如クナルヲ以テ汝ハ明治十四年十一月一日櫻井捨次郎ノ發意ニ應シ全人ハ神崎郡八日市村織屋ノ旦那ト詐稱シ汝等共謀者ハ其手代又ハ番頭ノ如クモ攬擬シ戸田喜十郎外一名ヲ欺罔シテ生糸賣買ノ契約ヲ爲シ手付金拾五圓ヲ以テ生糸四貫三百六十目ヲ領取セント謀リ半途又詐術ヲ變シ其生糸賣買ノ破約ヲ手段ト爲シ手付金併テ金五拾圓ヲ相渡ストニ付生糸ハ受取ルヘシ否ラサレハ手付金ヲ倍増シテ返却ヲ受ケヘシト局騙シ因テ金拾五圓ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ノ發意ヲ以テ同人等ヲ遊里ニ勸誘シ遊興費用ヲ擔當セシムルノ目的ヲ以テ共謀者滋賀縣近江國大上郡彦根袋町田部利ハカ遊席ニ飲食シ藝妓數名ヲ呼集シ其遊興ノ央汝及ヒ外四名ハ生糸賣買ノ破約ニ付紛議ヲ仲裁セシ手數料ナリト誑賺シ戸田喜十郎外一名ヨリ金五圓ヲ詐取シ又藝妓ノ揚代ト欺罔シ共謀者ニシテ席主タル田部利ハカシテ無實ニ費用ノ金額ヲ増加セシメ金六圓九拾九錢ヲ詐取シ又櫻井捨次郎ニ於テ扣金ト稱シ藝妓ノ纏頭金一名ニ拾錢ヲ投與セシニ五拾錢ツ、ナリト欺罔シ之レニ柿代金ノ五拾錢ヲ加ヘタリトテ金拾圓ヲ詐取シ又遊興ノ費用金拾七圓ハ局騙シテ之レヲ擔當セシメタルモノトス乃チ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第三百九十條ニ曰ク人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若シハ証書類ヲ騙取シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ付加ストアリ又刑法第三百九十四條ニ曰前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依ル可キ罪トス

右ノ所犯ハ新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ

判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ストアルニ依リ之ヲ舊法ニ照スニ  
 賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス云々若シ人ノ財物ヲ冒認シテ己ノ物ト爲シ及ヒ誑賺局騙拐帶スル者モ亦贓ニ計ヘ竊盜ニ準ストアルニ照シ其實費ニ屬スル戸田喜十郎外一名カ部分ハ詐欺贓ニ算セス遊興代金拾七圓藝妓ノ纏頭壹圓七拾錢及ヒ柿代金五拾錢合計拾九圓貳拾錢ハ共遊者八名ニ分割シ其一部タル四圓八拾錢ヲ扣除シ之レニ手付金以下ヲ併セ贓金四拾九圓三拾四錢ナルヲ以テ改正七贓例圖ニ照シ懲役百日ニ該ル可キノ處櫻井捨次郎カ發意ニ從ヒ共ニ犯シタルヲ以テ名例律共犯罪分首從條ニ依リ隨從者ト爲シ一等ヲ減シ懲役九十日士族ナルヲ以テ改定律例改正第十三條云々若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルコト甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フ云々トアルニ依リ除族シテ懲役九十日ニ處スヘキノ罪ナリトス  
 右ノ理由ニ依リ明治十四年第八十一號布告新舊法比照例第二條ニ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過ルコトヲ得ストアリ又第六條ニ舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加スヘキ時ハ其罰金ヲ附加セストアリ又第十條ニ舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セストアリ依テ新法ニ從ヒ汝ニ刑法第三百九十條ヲ適施シ單ニ重禁錮三月ニ處ス但シ詐取現在ノ金拾壹圓貳拾錢ハ本主戸田喜十郎清水忠五郎ニ還付スルモノ也

田部利 八

汝ニ對シ檢事補吉川雅都ヨリ公訴シタル詐欺取財事件審理ヲ遂ル處